

琵琶湖博物館業績目録

第 19 号

2014 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2015 年 8 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 19

From April 2014 to March 2015

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: URAYAMA, Shigeo)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, August 2015

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長		
篠原 徹	SHINOHARA, Toru	5
副館長		
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	8
上席総括研究員		
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	12
上席総括学芸員		
用田 政晴	YODA, Masaharu	15
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	19
環境史研究担当		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	24
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	27
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	30
井関 明子	ISEKI, Akiko	34
楊 平	YANG, Ping	36
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	40
大久保 実香	OKUBO, Mika	44
生態系研究担当		
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	47
松田 征也	MATSUDA, Masanari	50
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	54
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko	57
水谷 智	MIZUTANI, Satoshi	61
安福 俊幸	YASUFUKU, Toshiyuki	64
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	66
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	68
浦山 重雄	URAYAMA, Shigeo	71
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	73
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	76
山本 充孝	YAMAMOTO, Michitaka	79
金尾 滋史	KANAO, Shigefumi	82
澤邊 久美子	SAWABE, Kumiko	87

博物館学研究担当

大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	91
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	96
戸田 孝	TODA, Takashi	100
蜂屋 正雄	HACHIYA, Masao	103
間所 忠昌	MADOKORO, Tadaaki	106
渡部 圭一	WATANABE, Keiichi	109

嘱託員

池田 勝	IKEDA, Masaru	112
渡邊 潤子	WATANEBE, Junko	115

名誉学芸員

川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	117
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	121
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	126
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	127

特別研究員

天野 一葉	AMANO, Hitoha	129
植田 文雄	UEDA, Fumio	130
太田 悠造	OTA, Yuzo	131
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	133
川瀬 成吾	KAWASE, Seigo	135
北村 美香	KITAMURA, Mika	136
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	138
篠原 耕平	SHINOHARA, Kohei	141
朱 伟	ZHU, Wei	142
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito	144
瀬口 眞司	SEGUCHI, Shinji	145
高梨 純次	TAKANASHI, Junji	146
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	147
中野 聡志	NAKANO, Satoshi	148
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	150
林 博通	HAYASHI, Hiromichi	151
廣石 伸互	HIROISHI, Shingo	152
矢田 直樹	YADA, Naoki	153

総合研究・共同研究による印刷物	154
-----------------	-----

2014年度の研究活動をふりかえって	156
--------------------	-----

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2014年4月から2015年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

【学術論文】

【専門分野の著作】

【一般向けの著作】

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

【インターネットページでの公表】

【研究プロジェクト等への参加】

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

【大学の講義・実習、学生の指導など】

【受賞など】

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

他の博物館・機関等主催行事

視察対応

メディアへの協力

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 篠原 徹 (2014) ごあいさつ. 琵琶湖博物館第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」
展示解説書, 琵琶湖博物館: 2-3.
- 篠原 徹 (2014) 民俗の技術と在来農業の関係. 今後の農業技術開発・普及機能を考える, 大日本農会, 東京都:
64-85.
- 篠原 徹 (2014) アフリカニスト・掛谷誠さんを追悼する. アフリカ研究, 84, 土倉事務所・日本アフリカ学会:
77-79.
- 篠原 徹 (2014) 書評 岩田重則 著「日本人のわすれもの」. 週刊読書人, 8月29日号, 株式会社読書人: 7.
- 篠原 徹 (2014) 書誌紹介 厚 香苗 著「テキヤはどこからやってくるのか?」. 日本民俗学, 280, 日本民俗学会:
110.
- 篠原 徹 (2014) ごあいさつ. 滋賀ミュージアムガイド, 滋賀県博物館協議会 編, サンライズ出版, 滋賀県: 2.
- 篠原 徹 (2014) ひとと自然の関わり. 民俗学事典, 丸善出版: 134-135.
- 篠原 徹 (2014) 囲碁・将棋. 民俗学事典, 丸善出版: 680-681.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 篠原 徹 (2014年7月18日) アフリカの伝統的集約農業—エチオピア・コンソの事例—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「日本の博物館総合調査研究」(研究代表者: 篠原 徹), 研究代表者 (2013年~2015年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本民俗学会, 理事, 2012年10月~2014年9月.
日本民俗学会, 評議員, 2014年10月~.
文部科学省「新学術領域研究」, 査読, 1件.
博物館白書研究委員会, 委員.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2014年後期, 岡山理科大学, 「博物館学Ⅱ」.
2014年12月8日, 龍谷大学, 観光経営論「知的観光資源・博物館」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，2回。

2014年7月19日，琵琶湖博物館第22回企画展示「魚米之郷ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2014年8月7日，博物館実習，琵琶湖博物館，修了証書授与。

2014年12月14日，淡海こどもエコクラブ活動交流会・表彰式，琵琶湖博物館，オブザーバー・選考委員。

2014年12月21日，琵琶湖地域の水田生物研究会，琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2015年1月17日，新琵琶湖学セミナー「研究の種ー新琵琶湖博物館を創造するー」，琵琶湖博物館，開講挨拶。

他の博物館・機関等主催行事

2014年7月28日，人と自然の関係の中のまつり，大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所，連携研究自然と文化青森研究会「津軽の夏ー祭りの中の人と自然ー」，青森県観光物産館アスパム（青森市），講演。

2014年8月2・3日，“野生性”を保持する一家畜化と反家畜化のリバランス論をめぐってー，生き物文化誌学会，第12回学術大会，東京大学（東京都文京区），コメント。

2014年11月15日，湖から川を遡り田に入り鮎になる魚の物語～俳諧鮎考～，びわ湖トラスト，2014年度会員の集い，大津港琵琶湖汽船乗り場（滋賀県大津市），講演。

2014年11月8日，湖上フォーラムみんなで語る「ふなずし」の歴史，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，琵琶湖湖上，挨拶。

2015年1月12日，滋賀県試験研究機関研究発表会「淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」，びわ湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議，琵琶湖博物館，挨拶。

2015年1月18日，近江八景と蕪村とお酒と，元・正蔵坊と古庭園を楽しみ守る会，ながらの座・座＋歴まち大津コラボ企画2015「deep 大津・unknown 大津」シリーズ3，ながらの座（滋賀県大津市），講演。

2015年2月10日，第2回研修会「LED時代の博物館照明」，滋賀県博物館協議会，琵琶湖博物館，開会挨拶。

2015年2月23日，ジル・クレマン講演会「地球という庭」，大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所，総合地球環境学研究所（京都市），パネリスト。

2015年3月12日，自然と技術の文明論ーエチオピア、雲南、琵琶湖ー，ライオンズクラブ国際協会335-C地区，地区環境保全セミナー，琵琶湖博物館，講演。

2015年3月18日，自然と技術の文明論ーコンソ、雲南、琵琶湖ー，けいはんなグリーン・サイエンス推進コンソーシアム，けいはんなグリーン・イノベーションフォーラム，国際高等研究所（京都府木津川市），講演。

視察対応

2014年6月21日，挨拶，タイ王室財産管理局役員・「第一ロイヤルプロジェクト工場と博物館」職員。

2014年7月14日，挨拶，インドネシア共和国パプア州ジャヤプラ県首長。

2015年3月11日，挨拶，マケドニア共和国大使。

メディアへの協力

2014年6月1日，NHK，NHK俳句，ゲスト出演，（2014年5月28日収録）。

2014年6月2日，京都新聞，ウミウ産卵なぜ？，鵜飼産卵についてコメント，（2014年5月30日取材対応）。

2014年6月25日，株式会社中広，ロトス，400万の歴史を知る琵琶湖，インタビュー，（2014年5月29日取材対応）。

2014年7月2日，京都新聞，取材ノートから 鵜匠と自然絶妙な距離感，鵜産卵についてコメント，（2014年6月7日取材対応）。

2014年7月13日，サンデー毎日，News Navi，鵜飼産卵についてコメント，（2014年6月25日取材対応）。

2014年7月16日，KBS 京都，news フェイス，鵜産卵について談話，（2014年7月15日取材対応）。

2014年7月16日，読売テレビ，すまたん，鵜産卵について談話，（2014年7月15日取材対応）。

2014年7月30日、朝日新聞、夕刊「テーブルトーク」、著書「酒薫旅情」について、(2014年6月24日取材対応)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース、開会挨拶、2014年4月24日、琵琶湖博物館。

ロシア科学アカデミーシベリア支部バイカル博物館と相互協力の合意書調印式、調印、2014年9月25日。

中国武漢市(中国科学院水生生物研究所)相互協力の合意書調印式、調印、2015年3月24日。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会、会長。

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会、会長。

【海外渡航】

2014年9月21日～29日、ロシア(イルクーツク)韓国(ソウル)、姉妹協定締結用務・博物館交流用務。

2015年3月23日～25日、中国武漢市(中国科学院水生生物研究所)、協定締結用務・博物館交流用務。

【館外の活動】

国立歴史民俗博物館、名誉教授。

総合研究大学院大学、名誉教授。

琵琶湖環境研究推進機構、顧問。

環境省環境研究企画委員会、委員。

公益信託四方記念地球環境保全研究助成基金運営委員会、委員。

尾瀬賞保護財団運営委員会、委員。

財団法人長尾自然環境財団、評議員。

公益社団法人国際湖沼環境委員会、理事。

公益財団法人日本博物館協会、参与。

滋賀県立大学教育研究評議会、委員。

滋賀県文化振興事業団、個人会員。

家畜資源研究会、個人会員。

生態人類学会、会員。

本年度は、副館長になったことから、業務内容が変化した。特に、企業連携を強化する方針が打ち出されたため、企業訪問を行ったり、企業と関連する人達との接触を重ねることになった。展示業務に関しては、担当する“はしかけ”のほねほねくらの活動成果を発表したギャラリー展「ボーンコレクターズー骨に魅せられてー」（2014年3月25日～5月6日）を昨年度から引き続き開催した。また、2013年1月からは、新たなはしかけグループ「古琵琶湖発掘隊」を結成し、勉強会や多賀町での実際の発掘も行ってきたが、本年度はそれらに加え、資料整理や成果の一部を参加者自らが研究し、発表する機会も持つことができた。これらの活動は、琵琶湖博物館の目指す方向性と一致しており、その点において意義のある活動を行うことができた。

研究面では、これまで行ってきた総合研究の代表者の役割は降り、分担者に変更となった。共同研究では引き続き代表者を務め、X線CTを活用したゾウ化石の研究を進めた。また、外部資金としては、科学研究費基盤(C)「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究(2014～2016年度)」(研究代表者：高橋啓一)が採択され、多賀町四手における古琵琶湖層群の発掘を行いながら、市民とともに約180万年前の古環境を明らかにする調査を行った。この調査には、琵琶湖博物館の学芸員、はしかけ「古琵琶湖発掘隊」、多賀町立博物館、地域の人々が参加している。そのほか、科学研究費基盤(B)「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生(研究代表者：高原 光)(2014～2017年度)の研究分担者として、調査を行った。

印刷物

【学術論文】

- 高橋啓一・平山 廉 (2014) 口之津層群加津佐層（前期更新世）より発見されたシカ頭骨化石. *化石研究会会誌*, 46, 化石研究会：111-116.
- Iwase, A., Takahashi, K. and Izuhō, M. (2015) Further study on the Late Pleistocene megafaunal extinction in the Japanese Archipelago. In: Kaifu, Y., Izuhō, M., Goebel, Tad., Sato, H. and Ono, A. (eds.) *Emergence and diversity of modern human behavior in Paleolithic Asia*, Texas A & M University Press: 325-344.

【専門分野の著作】

- 高橋啓一 (2014) 書評「歯の比較解剖学 第2版」. *化石*, 96, 日本古生物学会：59-60.
- 高橋啓一 (2015) 特集「解剖学で探る古生物の生態」巻頭言. *化石研究会会誌*, 47, 化石研究会：1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Takahashi, K. (2014) The transition and extinction of the Japanese large mammal fauna in the Late Pleistocene and Post-Pleistocene. The 3rd All-Russian Scientific and Practical Conference “The Process of Life Development within Abiotic Changes on the Earth”, The 3rd All-Russian Scientific and Practical Conference, バイカル博物館(ロシア イルクーツク市), [口頭発表].
- 安井謙介・高橋啓一 (2014) AMS ¹⁴C年代を用いたブスクゾウの分類学的再検討. 日本古生物学会2014年年会・総会, 九州大学総合研究博物館(福岡市), [口頭発表].
- Kitagawa, H., Takahashi, K. and Baba, R. (2014) Taxonomic revision of the Japanese Middle Pleistocene *Mammuthus* (*M. protomammonteus*), with a new observation method for fossil elephant molars using X-ray

computed tomography. The VI International Conference on Mammoths and their Relatives, Cultural Center in Grabena and Trampartgeion Building in Siatista (ギリシャ, シアシスタ市ならびにグラベナ市), [口頭発表].

高橋啓一 (2014) 後期鮮新世 (約350万年前) の日本の陸上脊椎動物相を考える. 第142回化石研究会例会サテライト講演会, 長岡市立科学博物館 (新潟県), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群から新しく発見された魚類頭骨化石の形態解析」, (2014年度).

琵琶湖博物館共同研究「X線CT画像を使ったシガゾウの分類学的再検討」(研究代表者:高橋啓一), 研究代表者(2013~2015年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:マーク J. グライガー), 研究分担者(2011~2015年度).

科学研究費助成事業(基盤 C)「博物館, 市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者:高橋啓一), 研究代表者(2014~2016年度).

科学研究費助成事業(基盤 B)「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」(研究代表者:高原 光), 研究分担者(2014~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

化石研究会, 運営委員, 2013年6月~.

化石研究会会誌第47巻第1号, 特集号編集.

The VIth International Conference on Mammoths, Scientific Committee.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10件.

はしかけ運営, 「ほねほねくらぶ」・「古琵琶湖発掘隊」.

2014年7月12日, ほねにふれよう, 体験プログラム わくわく探検隊, 協力.

2014年9月6日・7日, いろいろな動物の骨を見てみよう, 発見!びわ博フェスティバル, 琵琶湖博物館, フロアトーク, 2件.

視察対応

2014年4月10日, 挨拶, 湖南省博物館.

2014年4月12日, 挨拶, ベトナム科学技術アカデミー環境技術研究所ほか, 挨拶.

2014年5月27日, 挨拶, 韓国環境政策評価院 国土自然研究室長.

2014年6月28日, 概要説明・館内案内, 桃山学院大学 学芸員過程見学研究.

2014年7月24日, 挨拶, JICA 関連ナムビア大学.

2014年7月26日, 挨拶, ニッセイ「森の探検隊」.

2014年8月5日, 挨拶, 草津市環境経済部環境科教員研修.

2014年9月9日, 挨拶, フランス 美術館館長.

2014年9月12日, 館内案内, 京滋計量協会役員会.

2014年10月11日, 館内案内, 中国岳陽市市長.

2015年3月6日, 館内案内, 台南市市長視察団.

2015年3月11日, 挨拶, マケドニア大使.

メディアへの協力

- 2014年4月17日, 毎日新聞 Oh!Me, 「ボーンコレクターズー骨に魅せられてー」について, (2014年4月6日取材対応).
- 2014年11月18日, コクヨ工業 CSR 報告書, (2014年11月18日取材対応).
- 2014年12月12日, テレビ朝日, 近江八幡市発見の“ツチノコ”?, (2014年12月12日取材対応).
- 2015年1月15日, 毎日新聞, 琵琶湖ルーツに新説, (2015年1月15日取材対応).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 化石標本データベース公開, 担当.
- 哺乳類標本データベース公開, 担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 化石資料, 受入・貸出.
- 脊椎動物資料, 受入・貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2014年3月25日～5月6日, ギャラリー展「ボーン コレクターズー骨に魅せられてー」, 展示製作, 運営.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

他博物館・機関の活動

- 2014年7月12日～10月5日, 国立科学博物館特別展「太古の哺乳類展ー日本の化石でたどる進化と絶滅ー」,
図録制作協力.

【企画調整活動】

- 新任職員等研修, 博物館の理念紹介, 講師, 2014年4月15日, 琵琶湖博物館.
- 新任職員等研修, A展示室紹介, 講師, 2014年4月22日, 琵琶湖博物館.
- JICA 博物館学コース, 琵琶湖博物館の概要および設立経緯, 講師, 2014年5月22日, 琵琶湖博物館.
- JICA 博物館学コース, 地域と博物館のかかわり, 講師, 2014年7月8日, 琵琶湖博物館.
- JICA 博物館学コース, 閉会あいさつ, 2014年7月12日, 琵琶湖博物館.
- 滋賀県小学校校長会での琵琶湖博物館の利用促進の講演, 2014年10月15日.
- 地域発見! 参加型移動博物館, 展示説明・維持管理, 2014年10月21日, グランドプリンスホテル高輪.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2004年～ 図書選定委員.
- 2005年～ 研究審査委員.

【海外渡航】

- 2014年5月4日～9日, ギリシャ (シアシスタ市およびグラベナ市), 第6回国際マンモス会議発表および運営.
- 2014年7月15日～18日, 中国北京市 (中国科学院古脊椎動物古人類研究所), 科研費研究に係る魚類化石調査.
- 2014年9月21日～27日, ロシア連邦イルクーツク市 (バイカル博物館など), 科研費に係る海外博物館調査およびバイカル博物館との協力協定の調印.

2015年3月23日～25日，中国武汉市（中国科学院水生生物研究所），研究協力協定の調印.

【館外の活動】

2010年10月6日～2015年10月5日，高島市指定管理候補者選定委員.

2014年4月～，琵琶湖環境研究推進機構，幹事.

2014年度の事業活動は、琵琶湖博物館第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」の担当者の1人としてその準備と開催運営に関わり、7月19日から11月24日まで開催することができた。この企画展に関連して、琵琶湖漁業における漁獲量の資料を収集し、明治から平成に至る115年間の主要魚種の漁獲量変化を解明し、本展示の1つとして公表した。また、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の行事の一環として水族トピック展示「鯉についての四方山話」の担当の1人として準備・運営に参加し、1月2日から3月18日まで開催した。

本年度の研究活動としては、中心テーマとしている「琵琶湖固有種の生理生態に関する研究」を継続して行うとともに、農林水産省からの委託研究として、水田における環境保全型農業と慣行農業が生物多様性に及ぼす影響調査を琵琶湖周辺と愛知県の3地域において実施した。さらに、専門研究として、ピワマスの学名決定に関する研究を行った。これらの研究の成果として、ホンモロコの性決定機構についての論文を出版するとともに、ホンモロコやニゴロブナ・ウツセミカジカなどの生態に関する論文を公表した。また、琵琶湖の魚類が危機的な状況にある中で湖岸域の保全の重要性と改善への提言をまとめた原稿を仕上げ、共著の単行本としてまもなく出版される予定である。

印刷物

【学術論文】

- Fujioka, Y. and Ueno, S. (2014) Genetic contribution of parents in sex determination of honmoroko *Gnathopogon caerulescens*, *Fisheries Science*, DOI 10.1007/s12562-014-0766-2.
- Fujioka, Y., Nemoto, M., Kikko, T. and Isoda, T. (2014) Sex ratios of nigorobuna *Crassius auratus grandoculis* reared in paddy fields with fluctuating temperatures during larval and juvenile growth stages. *Fisheries Science*, DOI 10.1007/s12562-014-0783-1.
- Fujioka, Y., Kido, Y., Uenishi, M., Yoshioka, M. and Kashiwagi, M. (2014) Distribution of *Cottus reinii* and *Cottus pollux* in rivers around Lake Biwa, central Japan. *Biogeography*, 16: 31-37.
- Fujioka, Y. and Saegusa, J. (2014) Sex ratios in relation to age and body size in “Honmoroko”, *Gnathopogon caerulescens*. *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-014-0452-5.
- 亀甲武志・岡本晴夫・氏家宗二・石崎大介・根本守仁・三枝 仁・甲斐嘉晃・藤岡康弘 (2014) 琵琶湖内湖の流入河川におけるホンモロコの産卵生態. *魚類学雑誌*, 61(1): 1-8.
- Kikko, T., Ishizaki, D., Ninomiya, K., Kai, Y., and Fujioka, Y. (2014) Diel patterns of larval drift of honmoroko *Gnathopogon caerulescens* in an inlet of Ibanaike Lagoon, Lake Biwa, Japan. *Journal of Fish Biology*, DOI 10.1111/jfb.12570.
- Kikko, T., Usuki, T., Ishizaki, D., Kai, Y. and Fujioka, Y. (2014) Relationship of egg and hatchling size to incubation temperature in the multiple spawning fish *Gnathopogon caerulescens* (Honmoroko). *Environmental Biology of Fishes*, DOI 10.1007/s10641-014-0348-2.
- Nakajima, T., Shimura, H., Yamazaki, M., Fujioka, Y., Ura, K., Hara, A. and Shimizu, M. (2014) Lack of hormonal stimulation prevents the landlocked Biwa salmon (*Oncorhynchus masou* subspecies) from adapting to seawater. *Regulatory, Integrative and Comparative Physiology*, 307: 414-425.

【一般向けの著作】

- 藤岡康弘 (2014) 湖岸より 212 コイと四大家魚. *中日新聞*, 中日新聞社, 6月14日.
- 藤岡康弘 (2014) 湖岸より 213 鵜と漁業. *中日新聞*, 中日新聞社, 6月28日.

藤岡康弘 (2014) 湖岸より 220 湖魚の漁獲量について. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月27日.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「魚類を中心とした琵琶湖固有種の生態等に関する研究」, (2014年度).

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究-I」(研究代表者:藤岡康弘), 研究代表者 (2013~2015年度).

農林水産省委託プロジェクト「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト研究」(研究代表者:夏原由博), 水田魚類調査担当 (2013~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

びわ湖の森の生き物研究会, 事務局長, 2012年4月~.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2014年7月26日, 初心者のためのふなずし作り体験, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 指導.

2014年8月5日, びわ湖の魚について調べよう, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.

2015年3月21日, 琵琶湖の魚類研究の進展と課題, 新琵琶湖学セミナー「研究の種—新琵琶湖博物館を創造する—」第3回, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2014年5月27日, 琵琶湖の魚と漁業の変化, 大津市神宮町自治会, 大津市, 講演.

2014年6月14日, 琵琶湖の環境と生き物, 彦根市環境講座, 彦根市, 講演.

2014年10月24日, 琵琶湖の魚を復活させたい!, 琵琶湖サロン (第3回), 大津市, 講演.

2014年11月8日, フナズシをつくっている者からの思い, 湖上フォーラム「みんなで語るふなずしの歴史」, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 琵琶湖上, 講演.

2014年11月19日, 琵琶湖のフナとフナズシ, NHK学園, 琵琶湖博物館, 講演.

2015年1月12日, 琵琶湖の生き物回復への道, 滋賀県試験研究連絡会議, 滋賀県試験研究連絡会議講演会, 琵琶湖博物館, 講演.

メディアへの協力

2014年12月22日, NHK「関西熱視線」, 琵琶湖の異変について, 出演, (2014年11月13日取材対応).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

- 2014年5月6日～12日，ロシア連邦(バイカル湖およびバイカル博物館およびロシア科学アカデミー陸水学研究所)，研究協定締結のための準備およびバイカル湖の固有生物展示のための調査。
- 2014年6月7日～13日，マレーシア，ボルネオ島のTanjung Datu National ParkとTalang Satang National Parkの野生動物を中心とした自然観察。
- 2015年2月6日～15日，タンザニア，セレンゲティ等の4か所の国立公園および動物保護区での野生動物を中心とした自然観察。

【館外の活動】

- 2014年6月1日，シンポジウム「びわ湖の森をイカす！」，びわ湖の森の生き物研究会，企画・運営，近江八幡市。
- 2014年7月24日，愛知川に人と生き物のにぎわいを取り戻したい！，びわ湖の森の生き物研究会，講演，東近江市庁舎。
- 2015年2月5日，びわ湖の生き物と環境，講演，西大路小学校。

この 10 年ほどの間は、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓・山岳寺院の研究、湖上交通史の考古学的追究に加えて、中国長江下流域・中流域の太湖や洞庭湖の考古・民俗資料の基礎的整備、それに琵琶湖水系を含めた水環境や民具資料を扱った考古民俗学的方法論の開発研究をテーマの中心に取り組んできた。

2014 年度は、特に古墳時代首長墓の実態を旧郡ごとに把握する中で、琵琶湖をめぐる支配や領域を探る研究の成果として、大津市兜稻荷古墳を主な素材に調査を進め、前期前方後円墳の平野からの見え方から墳丘の在り方、特に段築の諸状況を探り、琵琶湖湖上あるいは周辺平野部と首長墓との関係に関する論考をとりまとめた。これは『淡海文化財論叢』第 6 輯に投稿し、一般向けには平成 26 年度大学サテライト・プラザ彦根特別講演会でその概要を述べたところでもある。

一方、水環境施設に関わる考古・民俗・社会学的調査研究成果の一環として、長江流域における水田やエリ・家船に関する研究は、琵琶湖との比較の中での評価を行っており、その一部は、中日新聞コラムなどに執筆してきたが、この連載も年間を通じて担当し、開始から 200 回を大きく超えた。

この研究プロジェクトでは、中間的な成果を総合的に取りまとめ、2014 年 7 月 19 日から 11 月 24 日まで琵琶湖博物館企画展示『魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－』の企画と展示・運営を行い、同時に刊行した企画展図録ではこれまでの研究成果の概要について述べたところである。

この展示の紹介は、民具学的な立場から『民具研究』誌上で行い、多くの反響を得たところでもある。あわせて企画展示関連行事として「魚米之郷を楽しむ」と題した講演会・コンサートと料理を同時に楽しむ催しやマスコットキャラクター「愛湖ちゃん」とじゃんけん大会、3 万人目を迎えたイベントなどを企画・開催した。また、中国長江下流域での現地調査も南京の河海大学と協働して 2014 年 12 月に行い、同時に河海大学で行った講演会シンポジウムにも参加した。

そのほか、博物館学的な対場から考古学を専門とする学芸員の役割について考えた論文は、考古学研究会 60 周年記念誌に投稿し掲載されたところであるし、英文による湖上交通史の概略も述べたところである。

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2014）首長墓の規格と墓道・正面－兜稻荷古墳の再検討－. *淡海文化財論叢*, 6, 淡海文化財論叢刊行会 : 29-32.

用田政晴（2014）博物館学芸員の役割. *考古学研究 60 の論点（考古学研究会 60 周年記念誌）*, 考古学研究会 : 221-222.

【専門分野の著作】

用田政晴（2014）展示紹介 琵琶湖博物館企画展示『魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－』. *民具研究*, 150 : 100-103.

YODA, M. (2014) The History of Transport of the Lake. *Lake Biwa Guidebook*, Shiga Prefecture : 72-73.

用田政晴（2014）長江と太湖・洞庭湖. *魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－*, 琵琶湖博物館 : 6-7.

用田政晴（2014）中国の琵琶湖と日本の太湖・洞庭湖. *魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－*, 琵琶湖博物館 : 8.

用田政晴（2014）岳陽楼と『岳陽楼記』. *魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－*, 琵琶湖博物館 : 9.

用田政晴（2014）『清明上河図』. *魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－*, 琵琶湖博物館 : 9.

用田政晴（2014）東洋のベニス・蘇州. *魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－*, 琵琶湖博物館 : 10.

用田政晴（2014）長江文化と日本列島. *魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－*, 琵琶湖博物館 :

11-17.

用田政晴 (2014) 長江流域の農耕集落遺跡. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—, 琵琶湖博物館 : 52-53.

用田政晴 (2014) 湖南省友好提携 30 周年と湖南省博物館との協力関係. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—, 琵琶湖博物館 : 66-67.

【一般向けの著作】

用田政晴 (2014) 中国で生まれた景色を滋賀で楽しむ～彦根城・玄宮園～. 琵琶博だより, 17, 琵琶湖博物館 : 3.

用田政晴 (2014) 資料裏話「洞庭秋月」と「石山秋月」の絵皿. 琵琶博だより, 17, 琵琶湖博物館 : 4.

用田政晴 (2014) 湖岸より 207 友好の懸け橋～日中共同講演会～. 中日新聞, 中日新聞社, 4月12日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 208 中国・長江と太湖・洞庭湖～企画展『魚米之郷』を前に. 中日新聞, 中日新聞社, 4月26日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 209 企画展『魚米之郷』を前に. 中日新聞, 中日新聞社, 5月10日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 210 エリのルーツを探る. 中日新聞, 中日新聞社, 5月24日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 211 中国の琵琶湖と日本の太湖・洞庭湖. 中日新聞, 中日新聞社, 5月31日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 214 湖南省との友好推進. 中日新聞, 中日新聞社, 7月12日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 215 洞庭湖の史跡を訪ねる. 中日新聞, 中日新聞社, 7月26日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 219 湖上に住む漁民—太湖の家船—. 中日新聞, 中日新聞社, 9月13日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 221 琵琶湖に家船はあったのか. 中日新聞, 中日新聞社, 10月11日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 222 陽澄湖と上海ガニ. 中日新聞, 中日新聞社, 10月25日.

用田政晴 (2014) 湖岸より 223 犁と唐箕 農具に見る中国との関係. 中日新聞, 中日新聞社, 11月1日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

用田政晴 (2014年9月19日) 最近語られる歴史のウソとホント—歴史教科書の間違いと評価点—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

用田政晴 (2014年12月11日) 太湖と琵琶湖講演会. 南京河海大学 (中国南京市), [コメント].

用田政晴 (2015年2月28日) 王と武将の湖—荒神山古墳・佐和山城と松原内湖に浮かべた信長の船の意義—. 平成26年度大学サテライト・プラザ彦根特別講演会, 彦根市, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖水系における古墳時代首長の領域と地域性」, (2014年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」 (研究代表者: 用田政晴), 研究代表者 (2013～2016年度).

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」 (研究代表者: 楊平), 分担研究者 (2010～2014年度).

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」 (研究代表者: 用田政晴), 研究代表者 (2014年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2014年5月17日, 京都文教大学, 「博物館学」.

2014年6月28日, 桃山学院大学, 「博物館学」.

2014年8月29日, 滋賀県立大学, 「博物館学」.

2014年9月7日, 京都造形大学, 「博物館学実習」

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2014年7月19日, 企画展示オープニングイベント, 琵琶湖博物館, 協力.

2014年11月1日, 企画展示イベント「魚米之郷を楽しむ」, 琵琶湖博物館, 協力.

視察対応

2014年4月10日, 博物館案内・検討, 中国湖南省博物館.

2014年4月17日, 博物館案内, 伊吹山文化資料館.

2014年5月11日, 博物館案内, 中国湖南省高校生.

2014年5月27日, 博物館案内, 台湾台北市中偏高級中学.

2014年7月31日, 博物館案内, 安土城考古博物館.

2014年8月3日, 博物館案内, 鎌倉女子大学.

2014年10月2日, 博物館案内, 民主党県連.

2014年10月11日, 博物館案内, 中国湖南省岳陽市.

2014年10月30日, 博物館案内, 高槻市成人大学.

2014年11月3日, 博物館案内, 高島市針江区.

メディアへの協力

2014年10月16日, FM草津, 企画展示「魚米之郷」へのご案内, サテライトスタジオ生出演.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人ページ(用田政晴), 管理・運営, 更新多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整備, 分類・配架.

中国関係考古・民俗・文献資料, 収集・整理・保管・管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館常設展示(B展示室), 維持管理, 担当.

2014年7月19日～11月24日, 第22回企画展示『魚米之郷ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー』, 琵琶湖博物館, 担当.

2014年10月28日, 企画展示入館3万人イベント, 琵琶湖博物館, 企画.

2014年5月12日・11月10日, 展示交流員現地研修会, 2件.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2014年12月9日～12日，中国（江蘇省南京市），資料収集調査、研究連携会議、講演会運営参加.

In 2014 I was appointed director and continued as arthropod team leader of the Lake Biwa Museum's comprehensive research project, "Explanations for Biodiversity Development". In particular, in December I invited an overseas collaborator and assisted him in the field to sample interstitial copepods from the upper and middle reaches of rivers all around Lake Biwa. As a collaborator in a Kakenhi project, I conducted a similar brief survey in February in Shizuoka city. For the second year in a row I also tried, but failed, to collect *Leptodora* cladocerans from various lakes for use by another overseas collaborator in the comprehensive project. Two papers in which I was coauthor resulted from this sort of work during the year, a published one about groundwater amphipods of the genus *Sternomoera*, and one in press about the interstitial harpacticoid copepod genus *Schizopera*. Each paper includes the description of a new species from Shiga Prefecture. Outside these projects, together with the museum's rice paddy organism "Hashikake" group, I monitored the occurrence of Asian tadpole shrimp in rice paddies in Otsu. I was coauthor of three chapters on larvae of Spinicaudata, Ascothoracida, and Facetotecta in an English-language atlas of crustacean larvae. Furthermore, I began work on a bibliographic summary of literature on monstrilloid copepods since 1995, and a summary of nomenclatural problems involving these copepods. As a member of the International Commission on Zoological Nomenclature, I voted and commented on many nomenclatural cases that were brought before the Commission; these comments comprise most of my publications during the year.

2014年度は、琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」の研究代表者として、また、同総合研究の節足動物班の班長として、海外共同研究者を招へいし（12月）、琵琶湖周辺の河川上・中流の河川敷に生息する間隙性カイアシ類の共同調査を行った。また、科研費の分担者として、2月に静岡市において同様な調査に参加した。さらに、同総合研究において、上記とは別の海外研究者とのノロ（ミジンコの1種）に関する共同研究のため、国内各地の湖で採集を試みたが、一頭も採集することができなかった。以上の総合研究の成果として、2篇の共著原著論文の執筆を行い、これらの中で今年度中に出版されたのは、地下水生ヨコエビ類サワヨコエビ属（*Sternomoera* 属）に関連したもの、現在印刷中のものは、間隙性のカイアシ類（*Schizopera* 属）に関するものであり、両論文は、それぞれ滋賀県産の一新種の記載を含んでいる。プロジェクト研究以外では、今年度も琵琶湖博物館の「田んぼの生き物調査」はしかけグループとともに、大津市の水田におけるアジアカブトエビの分布調査を行った。さらに、カイエビ類と囊胸類の幼生、Y幼生については、共著で英文の甲殻類幼生の図鑑の章として、総説論文3編の出版を行った。また、カイアシ類モンストリラ目に関する1995年以降の文献をまとめた総説論文、およびモンストリラ目における動物命名に関する問題についての論文を執筆中である。いっぽう、動物命名法国際審議会の委員として、審議会の前に提案された審議会の細則の改正に関係した多くの命名法に関する案件について審査意見を提出するとともに投票を行った。2014年度に私が執筆したほとんどの著述は、その案件についてのコメントであった。

印刷物

【学術論文】

Tomikawa, K., Kobayashi, N., Kyono, M., Ishimaru, S. and Grygier, M. J. (2014) Description of a new species of *Sternomoera* (Crustacea: Amphipoda: Pontogeneiidae) from Japan, with an analysis of the phylogenetic relationships among the Japanese species based on the 28S rRNA gene. *Zoological Science*, 31 (7), 日本動物学会 : 475-490.

【専門分野の著作】

- Olesen, J. and Grygier, M. J. (2014) Spinicaudata. In: Martin, J. W., Olesen, J. and Høeg, J. T. eds., *Atlas of Crustacean Larvae*, Johns Hopkins University Press, Baltimore: 51-57.
- Høeg, J. T., Chan, B. K. K., Kolbasov, G. A. and Grygier, M. J. (2014) Facetotecta. In: Martin, J. W., Olesen, J. and Høeg, J. T. eds., *Atlas of Crustacean Larvae*, Johns Hopkins University Press, Baltimore: 100-102.
- Høeg, J. T., Chan, B. K. K., Kolbasov, G. A. and Grygier, M. J. (2014) Ascothoracida. In: Martin, J. W., Olesen, J. and Høeg, J. T. eds., *Atlas of Crustacean Larvae*, Johns Hopkins University Press, Baltimore: 104-106.
- Grygier, M. J. (2014) Comment on *Siphonichnus* Stanistreet, le Blanc Smith & Cadle, 1980 (trace fossil): proposed conservation by granting precedence over the senior subjective synonym *Ophthalmichnium* Pfeiffer, 1968. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (4), Trustees of The Natural History Museum: 250.
- Grygier, M. J. (2014) Comment on STENODERINI Selander, 1991 (Insecta, Coleoptera): proposed emendation of spelling to STENODERAINI to remove homonymy with STENODERINI Pascoe, 1867 (Insecta, Coleoptera); and STENODERINI Pascoe, 1867: proposed precedence over SYLLITINI Thomson, 1864. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (4), Trustees of The Natural History Museum: 250-251.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2335 (Case 3395). *Geophilus linearis* C. L. Koch, 1835 (currently *Stenotaenia linearis*; Chilopoda): specific name conserved and *Geophilus sorrentinus* (currently *Stenotaenia sorrentina*; Chilopoda) Attems, 1903: specific name not conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (2), Trustees of The Natural History Museum: 138-140 [特にグライガー委員の意見: 140].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2336 (Case 3576). *Oscinella* Becker, 1909 (Insecta, Diptera, CHLOROPIDAE): precedence reversed with *Melanochaeta* Bezzi, 1906 and *Pachychaetina* Hendel, 1907. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (2), Trustees of The Natural History Museum: 141-143 [特にグライガー委員の意見: 142-143].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2338 (Case 3580). *Exechocentrus lancearius* Simon, 1889 (Arachnida, Araneae, ARANEIDAE): a neotype designated. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (3), Trustees of The Natural History Museum: 189-190 [特にグライガー委員の意見: 190].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2340 (Case 3592). *Dodecatoma* Westwood, 1849 (Insecta, Coleoptera): name conserved by suppression of *Dodecatoma* Dufour, 1841 (Insecta, Plecoptera). *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (3), Trustees of The Natural History Museum: 195-196 [特にグライガー委員の意見: 196].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2342 (Case 3585). *Atomosia* Macquart, 1838 (Insecta, Diptera, ASILIDAE): proposed conservation of usage. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (3), Trustees of The Natural History Museum: 199-200 [特にグライガー委員の意見: 200].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2343 (Case 3586). *Glossina* Wiedemann, 1830 (Insecta, Diptera, GLOSSINIDAE): precedence given over *Nemorhina* Robineau-Desvoidy, 1830. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (3), Trustees of The Natural History Museum: 201-202 [特にグライガー委員の意見: 202].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2345 (Case 3579). *Scarabaeus fimetarius* Linnaeus, 1758 (currently *Aphodius fimetarius*; Insecta, Coleoptera, SCARABAEIDAE): neotype designated. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (4), Trustees of The Natural History Museum: 259-261 [特にグライガー委員の意見: 261].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2346 (Case 3588). *Brachystoma* Meigen,

- 1822 (Insecta, Diptera, BRACHYSTOMATIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (4), Trustees of The Natural History Museum: 262-264 [特にグライガー委員の意見: 261].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2348 (Case 3591). *Argyra* Macquart, 1834 (Insecta, Diptera, DOLICHOPODIDAE): the name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (4), Trustees of The Natural History Museum: 267-268 [特にグライガー委員の意見: 268].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2349 (Case 3595). *Ocydromia* Meigen, 1820 (Insecta, Diptera, HYBOTIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (4), Trustees of The Natural History Museum: 269-270 [特にグライガー委員の意見: 270].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2014) OPINION 2350 (Case 3566). *Tropidolaemus* Wagler, 1830 and *Cophias wagleri* F. Boie, 1827 (currently *Tropidolaemus wagleri*) (Reptilia, Squamata, VIPERIDAE): usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 71 (4), Trustees of The Natural History Museum: 271-273 [特にグライガー委員の意見: 272].

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- マーク ジョセフ グライガー (2014年5月16日) 滋賀県におけるワラジムシ・ダンゴムシ相(陸生等脚類)について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Grygier, M. J., Komatsu, M., Ito, T. and Tachikawa, H. (2014年6月9日) Recent findings on *Dendrogaster* and *Petrarca* (Ascothoracida) parasitic in Japanese seastars and deepwater corals. International Symposium on Barnacle Biology at Seto MBL, 2014, 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所(和歌山県白浜町), [口頭発表].
- マーク ジョセフ グライガー (2014年6月21日) 山と湖をつなぐ地下水環境域. 平成26年度琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 高橋啓一・マーク ジョセフ グライガー (2014年6月22日) 琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明. 平成26年度(2014年)琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介・浦部美佐子・金尾滋史・Mark J. Grygier・日比野愛子・渡辺弘之 (2014年12月21日) 湖国ハッタミズ・ダービー結果発表. 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Grygier, M. J. (2015年2月26日) Studies of the groundwater habitat connecting the mountains and Lake Biwa. 公開セミナー: 微小甲殻類の多様性, 静岡大学理学部(静岡市鶴河区), [口頭発表].

【インターネットページの公表】

- 松浦恵一・マーク J. グライガー・西川輝昭(日本動物分類学会・動物命名法国際審議会支援委員会)(2015年3月3日), 動物命名法国際審議会の新財務体制へのご支援のお願い.
<http://jssz.sakura.ne.jp/iczn/index.html>, <http://jssz.sakura.ne.jp/iczn/keii.html>,
<http://jssz.sakura.ne.jp/iczn/shien1.html>, <http://jssz.sakura.ne.jp/iczn/shien2.html>, 日本動物分類学会ホームページ.

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「寄生性甲殻類および魚類の寄生虫に関する研究」, (2012~2014年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者: マーク J. グライガー), 研究代表者(2011~2015年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「微小な生物の飼育技術開発および展示技法」(研究代表者: 松田征也), 研究協力者(2013~2015年度).
- 科学研究費助成事業(基盤 B)「間隙性ファウナの種多様性評価と生息の制限要因-陰性環境の生物多様性に光を当てる-」(研究代表者: 塚越 哲), 分担者(2011~2014年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本動物分類学会, 日本動物分類学会・動物命名法国際審議会支援委員会, 委員.

日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.

The Crustacean Society, Journal of Crustacean Biology, Associate Editor, 査読, 11件.

Systematic Parasitology, Associate Editor.

日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor).

日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (英語エディター).

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, Editorial Board.

国立科学博物館, Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), 編集委員.

動物命名法国際審議会, Bulletin of Zoological Nomenclature, 査読, 8件.

神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川自然誌資料, 査読, 1件.

Gesellschaft für Biologische Systematik, Organisms Diversity and Evolution, 査読, 1件.

Zootaxa, 査読, 4件.

Journal of Natural History, 査読, 1件.

【受賞など】

吸口虫類: *Asteromyzostomum grygieri* Summers and Rouse [*Zootaxa*, 3873 (4) : 301-344], 新種の記載で献名される.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

はしかけ運営「田んぼの生き物調査グループ」, 副担当.

他の博物館・機関等主催行事

2014年7月27日, 淡水産の小中型甲殻類に関する教義, 恵那高等学校, 琵琶湖博物館, 講義.

2014年11月22日, 琵琶湖の環境、その環境問題、田んぼにおける甲殻類と人間の関係に関する教義, 滋賀大学国際センター「Japanese Studies Program JAPANESE CULTURE AND SOCIETY」, 琵琶湖博物館, 講義.

視察対応

2014年7月2日, 環境学, ミシガン州立大学連合日本センター研修.

2015年3月11日, 展示案内および研究協力に関する話し合い, マケドニア大使一行.

メディアへの協力

2014年6月6日, 毎日新聞, 2年連続“オバケエビ”出現, (2014年6月3日電話取材).

2014年8月29日, 滋賀県から見つかった地下水生ヨコエビ類の新種, 資料提供.

2014年8月30日, 中日新聞, ヨコエビの新種発見 琵琶湖博物館湖東の地下水調査で, (2014年8月29日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本受入, 無脊椎動物 (昆虫、貝類を除く), 9件40点.

標本の仮登録, 881点.

研究依頼期間延伸, 2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」、パネル更新.

社会福祉法人グローの依頼による展示「アール・ブリュート」、琵琶湖博物館側の担当者.

第22回企画展示「魚米之郷ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」、協力.

展示交流員と話そう、内容指導.

モーニングレクチャー、講義、4回.

他博物館・機関の活動

滋賀県試験研究機関研究発表会「淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」, 研究機関の紹介展示作成, 協力.

【企画調整活動】

新任職員等研修, C展示室 生き物コレクション(寄生虫)について, 講師, 2014年4月23日, 琵琶湖博物館.

JICA博物館学コース(JICA Comprehensive Museology Course), 琵琶湖博物館側の副担当.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員(鈴木隆仁、太田悠造), 受け入れ担当.

湖国ハッタミミズ・ダービー, 顧問.

2014年4月19日～20日, 琵琶湖博物館研究施設使用者(Borneo Marine Research InstituteのChong Yen Thing), 受け入れ担当.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

2014年度, 企業連携・資金導入ワーキング, メンバー.

2014年度, 展示交流空間のリニューアルワーキングC展示室班およびマイクロアクアリウム班, メンバー.

館内人事・館外活動等に関すること

【館外渡航】

2014年5月6日～12日, ロシア連邦イルクーツク市・バイカル湖周辺, バイカル博物館との協定の締結準備および新琵琶湖博物館創造の水族展示ニューアルの協力依頼と情報収集.

【館外の活動】

2014年4月11日～2015年3月31日, 国立民族学博物館集団研修博物館学コース, 運営委員会委員.

2014年11月15日更新, (米国)スミソニアン研究所国立自然史博物館, 協力研究員.

(米国)ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部(無脊椎動物学研究科), 協力研究員.

動物命名法国際審議会, 委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的にしている。今年度は、申請専門研究「琵琶湖地域における化石ヒシ属の果実形態からみた分類とその変遷」と、総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:高橋啓一)を軸に、植物化石からみた琵琶湖の水生植物相の変遷を捉える調査研究を行った。また、科学研究費基盤(C)「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者:高橋啓一)の協力者として、滋賀県多賀町四手丘陵のアケボノゾウ発掘に伴う古環境解析を行うため、発掘調査、資料収集を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

山川千代美・八尋克郎(2015)「寺林層」の植物と昆虫の化石. *伊吹山大探検シリーズ1 伊吹山を知るやさしい地学の本*, 伊吹山ネイチャーネットワーク:25-27.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山川千代美・松本みどり・矢部 淳(2014年6月21日)針葉樹トガサワラ属化石の生物地理変遷と生育環境の解明. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

山川千代美(2014年8月9日)植物化石. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト一次発掘参加者報告会, 多賀町立博物館(滋賀県犬上郡), [口頭発表].

山川千代美(2014年11月21日)化石林からみた鮮新世と更新世の境界イベント. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖地域における化石ヒシ属の果実形態からみた分類とその変遷」, (2014年度).
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:マーク J. グライガー), 研究協力者(2011~2015年度).

科学研究費助成事業(基盤C)「博物館・市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者:高橋啓一), 研究協力者(2014~2016年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2014年4月27日, 植物化石で太古の森を学ぼう, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月5日, 勉強会, はしかけ古琵琶湖発掘隊, 高島市長尾地先安曇川河床, 講師.

2014年8月3日, 企画調整・中長期計画説明・UD評価, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年9月7日, アケボノゾウがいた頃の風景, 発見!びわ博フェスティバル としておきの展示解説, 琵琶湖博物館, フロアトーク, 2件.

2014年10月19日, 太古の森を学ぼうー古琵琶湖の時代の植物ー, はしかけミーティング, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2014年8月5日, 琵琶湖博物館の概要. 全国修学旅行研究協会, 琵琶湖博物館, 説明.

2014年11月12日, 湖南省吉永地先の野洲川河床の古琵琶湖層群と植物化石, 滋賀県立米原高校, 1年生理数科フィールドワーク, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2014年5月22日, 記者会見「Discover the Museums in Shiga 滋賀の博物館・美術館ガイドブック(英語版)」の発行について, 滋賀県博物館・美術館ガイドブック制作委員会(滋賀県博物館協議会・環びわ湖大学・地域コンソーシアム), 滋賀県庁.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館HP, 「琵琶湖博物館と海外博物館との連携」ページ制作.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年5月1日, 朽木ふれあいの里の標本等の運搬.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第22回企画展示『魚米之郷ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー』, 展示資料の借用.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

他博物館・機関等の活動

滋賀県試験研究機関研究発表会 淡海の未来を拓くー試験研究機関の挑戦ー, 2014年12月20日~2015年1月12日, 展示協力.

【企画調整活動】

JICA博物館学コース, 個別研修, 2014年7月8日~12日, 担当.

からすま半島活性化連携事業, からすま半島マップ制作・配布, 草津市水生植物公園みずの森と共催.

からすま半島活性化連携事業, からすま半島スタンプラリー, 5月3日~6日, 11月1日~3日, 草津市水生植物公園みずの森と共催.

琵琶湖博物館とロシア科学アカデミーシベリア支部バイカル博物館の相互協力の合意書, 2014年9月25日, バイカル博物館, 起案・広報.

琵琶湖博物館と中国科学院水生生物研究所の相互協力の同意書, 2015年3月24日, 水生生物研究所(中国武漢), 準備・起案・広報.

琵琶湖博物館協議会, 副担当, 2件.

第22回企画展示『魚米之郷』オープニングセレモニー, 2014年7月19日, 琵琶湖博物館, 企画・開催・司会.

第22回企画展示『魚米之郷』関連イベント, 「魚米之郷を楽しむ」, 第1部 コンサート「悠々の湖と伝統の調べ」, 2014年11月1日, 企画・実施

第22回企画展示『魚米之郷』関連イベント, 「魚米之郷を楽しむ」, 第2部 プレミアムレストラン「湖と大地の恵み」, 2014年11月1日, 企画・実施

2014年度, (株) コクヨ工業滋賀研修会・寄附目録贈呈式, 2014年7月28日, 琵琶湖博物館, 準備調整.
2014年度, (株) ダイフク寄附目録贈呈式, 2014年8月18日, 琵琶湖博物館, 準備調整.
地域発見! 参加型移動博物館, 展示説明・維持管理, 2014年10月21日, グランドプリンスホテル高輪.
滋賀の環境2014, 原稿チェック.
滋賀県博物館協議会情報交換会, 実施補助, 3回.
平成26年度文化芸術振興費補助金事業「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」(申請者: 滋賀県博物館地域連携人材育成委員会), 「滋賀ミュージアムポケットナビ2014」, 制作・配布.
平成26年度文化芸術振興費補助金事業「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」(申請者: 滋賀県博物館地域連携人材育成委員会), 「滋賀県の博物館・美術館 いちおし展示」2014年10月4日~11月30日, 企画・実施.
平成26年度文化芸術振興費補助金事業「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」(申請者: 滋賀県博物館地域連携人材育成委員会), 「滋賀県の博物館・美術館 地域を学ぶ博物館ツアー」2014年11月15日・12月7日, 企画・運営.
2014年度年末年始の開館, 企画調整.
中長期基本計画(第3段階)2014年度実施評価・2015年度計画策定, 担当.
2014年度事業調整会議, 調整・運営・司会.
2013年度年報制作, 担当.
2013年度業績目録制作, 担当.
新任職員等研修, 企画調整・中長期計画説明, 講師, 2014年4月15日, 琵琶湖博物館.
2014年度マネジメント会議, 調整・運営.
2014年度広報戦略会議, 調整・実施.
日本博物館協会, 全国科学系博物館協議会, 日本動物園水族館協会, 事務連絡調整担当.
来館者アンケート調査, 第1回2014年8月21日~23日, 実施.
自然史系博物館長懇談会, 2015年3月4日, 事務局運営, 琵琶湖博物館.
琵琶湖・からすま半島魅力向上活性化協議会, 2015年3月24日, 開催運営, 琵琶湖博物館.
琵琶湖博物館来館900万人記念セレモニー, 2015年3月26日, 琵琶湖博物館, 企画・開催・司会.

【研究部関連事業】

地学研究発表会, 運営, 2015年2月8日, 滋賀大学サテライト.
琵琶湖博物館特別研究員(川那部浩哉), 受入担当.

館内の人事・館外の活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会, 記念事業委員会, 幹事.

地層から過去の地層ができる環境解析を行うことや、地層中の火山灰層から、地層の年代決定や、過去の火山活動の検討を行うことを中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖がどのようにできてきたのか？を知る研究に結びついている。

今年度は、前年度からはじまった科学研究費助成金事業（基盤研究C）において、日本列島周辺の海底の地層から得られる火山灰層の研究によって、海底の古環境情報と陸域の古環境情報を高精度で時間的な対比を行っている。これは、国際プロジェクトとして行われている IODP の Exp346 にも関連した研究プロジェクトであり、日本海の海底の地層中にある火山灰の分析を行っている。この成果は、過去の琵琶湖環境を保存している古琵琶湖層群中の火山灰との関係をも検討することによって、古琵琶湖の年代精度を上げる役割を持っており、古琵琶湖の古環境を知る上でも重要であるといえる。

総合研究として行っている琵琶湖の生物多様性の成立過程研究については、古琵琶湖から現在の琵琶湖への地理的環境変化を担当しており、これまで提案されている古琵琶湖から琵琶湖への地史の再検討を行っている。この研究に関連して、近隣地域の地層と古琵琶湖層群の地層中にある火山灰層の対比を行い、日本地質学会の大会で発表を行った。この成果は、同時期の周辺地域との水系を考える上で重要である。また、古琵琶湖層群の最下部における層序の再検討と年代の再検討を行った結果を、学会誌に投稿し、受理された。

また、地域の人びとがフィールドのおもしろさを紹介する「地域の人びとによる展示コーナー」の展示替えを行った。その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行ったほか、個人管理インターネットページで、博物館事業や、研究についての情報発信を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

Satoguchi, Y. (2014) Geological History. In International Lake Environment Committee Foundation, ed. *Lake Biwa Guidebook*, International Lake Environment Committee Foundation, Shiga: 28-29.

里口保文 (2015) 今に見る 25 万年前の地層「寺林層」。伊吹山大探検シリーズ1「伊吹山を知るやさしい地学の本」、伊吹山ネイチャーネットワーク、滋賀県彦根市：24-25。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

井内美郎・山田和芳・岡村 眞・松岡裕美・里口保文・林 竜馬・公文富士夫・松久幸樹・岡田涼祐・川島頌平 (2014年4月28日) 琵琶湖高島沖コアの新規年代モデル。連合大会2014年大会，日本地球惑星科学連合，パシフィコ横浜（横浜市），[ポスター発表]。

松久幸樹・松野下晃治・岡田涼祐・川島頌平・山田和芳・井内美郎・公文富士夫・岡村 眞・松岡裕美・里口保文・林 竜馬 (2014年4月28日) 琵琶湖高島沖ピストンコア (BWK12-2) の粒度、全炭素・全窒素濃度に示される過去約 4.5 万年の気候変動史。連合大会2014年大会，日本地球惑星科学連合，パシフィコ横浜（横浜市），[ポスター発表]。

里口保文 (2014年5月2日) 広域火山灰層序の基準層序としての上総層群。連合大会2014年大会，日本地球惑星科学連合，パシフィコ横浜（横浜市），[口頭発表]。

里口保文 (2014年9月7日) 日本の下部・中部更新統基準層序としての上総層群の火山灰層序。日本第四紀学会2014

年大会，日本第四紀学会，東京大学柏キャンパス（千葉県柏市），[口頭発表]。
井内美郎・山田和芳・里口保文・芳賀裕樹・林 竜馬（2014年9月8日）琵琶湖愛知川沖試料から推定される過去約5万年間の湖水位変動。日本第四紀学会2014年大会，日本第四紀学会，東京大学柏キャンパス（千葉県柏市），[ポスター発表]。
里口保文（2014年9月15日）鮮新-更新統境界層準付近における東海層群と古琵琶湖層群のテフラ対比。日本地質学会第121年学術大会，日本地質学会，鹿児島大学（鹿児島市），[口頭発表]。
井内美郎・山田和芳・里口保文・芳賀裕樹・林 竜馬（2014年9月15日）過去約5万年間の琵琶湖湖水位変動史－（既報）－。日本地質学会第121年学術大会，日本地質学会，鹿児島大学（鹿児島市），[ポスター発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「蒲生層堆積期の山城丘陵と琵琶湖地域の関係の検討」，（2014年度）。
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」（研究代表者：マーク J. グライガー），共同研究者（2011年度～2015年度）。
琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」（研究代表者：橋本道範），副代表者（2014年度～2018年度）。
科学研究費助成事業（基盤 C）「日本周辺の海域と陸域の鮮新-更新統を統合した標準年代モデルの確立」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2013年度～2015年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

International Union for Quaternary Research, Quaternary International, 査読, 1件。
日本地質学会, 地方代議員。
日本地質学会, 県の石選定員,
日本第四紀学会, 評議員。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。
大津の岩石調査隊，6回。
2014年9月6日，博物館の地下900mには何がある？，発見！びわ博フェスティバル とっておきの展示解説，琵琶湖博物館，フロアトーク，2件。

他の博物館・機関等主催行事

2015年2月3日，研究を中心とした博物館学芸員の仕事（琵琶湖博物館の例），福島大学流域水文学研究室，地球科学セミナー，福島大学（福島市），講演者。

視察対応

2014年10月28日，琵琶湖の生い立ちと琵琶湖博物館の概要，泉南民生委員，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2014年4月20日，NHK 大津局，なに？なぜ？びわ湖，番組出演，（2014年4月20日）。
2014年11月12日，NHK 総合，視点・論点，番組出演，（2014年11月7日収録）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学芸員個人ページ，企画・運営，多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鉱物標本の受け入れ，担当，183 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2015 年 3 月 28 日～4 月 19 日，第 23 回企画展示プレ展示，展示企画・設営.

展示交流員と話そう，内容指導.

モーニングレクチャー，講義，3 回.

他博物館・機関の活動

イオンモール草津，2014 年 6 月 6 日，昔の生き物と今の生き物，企画・作成（松田征也、山川千代美と共同）.

イオンモール草津，2014 年 9 月 2 日，滋賀県の水晶，企画・作成.

イオンモール草津，2014 年 10 月 29 日，滋賀県の木の実，企画・作成（山川千代美と共同）.

【企画調整活動】

新任職員等研修，研修調整担当，2014 年度.

研究部連絡調整，担当，2014 年度.

広報，担当，2014 年度（対応数は年報を参照のこと）.

琵琶湖博物館公式 facebook，開設・運営.

企画展示関連イベント「魚米之郷を楽しむ」，第一部スペシャルコンサート司会，2014 年 11 月 1 日，琵琶湖博物館.

I、日本学術振興会の平成26年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を得て、学位論文『日本中世の環境と村落』を公表した（思文閣出版）。これは、生業論と消費論とを核にした環境史を構想したもので、「生業の稠密化」論を提起した。

「生業の稠密化」論とは、なぜ現在の大字（おおあざ）単位の集落、自治会が自然環境と向き合う中心的な主体となったのかについて、環境史の視点から新たな説を述べたもので、いまからおおよそ500年から700年前に、与えられた自然環境のなかでより効率よく生産を上げようとする運動が起こり（生業の稠密化）、そのために必要な微細な利害の調整のために、小さなムラ（現在の大字に継承される村落）がより適合的な社会組織として地域社会の主導権を握るのではないかと考えたものである。また、当時首都であった京都の琵琶湖産魚類の消費動向が変化し、それが琵琶湖の漁撈の変化とも連動していたとも考えた。そして、戦後歴史学は、「近代」となるという「大きな物語」を描いてきたが、これに対置する「主体である自然と、自然の一部でありながら主体である人間とが、互いに影響しあいながら変化していく」物語を描く必要があると主張している。

なお、この経費として、科学研究費補助金基盤研究（C）「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」（研究代表者：橋本道範）、総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」（研究代表者：橋本道範）および琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世史は「種」を問題とすることができるか—社会史から環境史への挑戦—」（研究代表者：橋本道範）を併せて用いている。

II、総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」（研究代表者：橋本道範）を開始した。2014年5月31日～6月1日（第一回）、2014年7月5日～7月6日（第二回）、2015年1月24日～1月25日（第三回）の三回の研究会と竜王町山之上虫送り行事調査（7月6日）を実施し、生業論を議論の中心軸に据え、イ「生業が影響を与えた人為的自然の通時的変遷」、ロ「生業を限定する自然観の変遷」、ハ「生業の稠密化とその技術」の三つの視点に絞って研究を進めることとした。

なお、「生業の稠密化とその技術」については、インボリューション論（クリフォード・ギアーツ2001など）を踏まえて、橋本が「生業の稠密化」論を提起したが（上記）、共同研究者の保立道久も、鎌倉時代に「空間秩序の濃密化」が進んだという春田直紀の理解を踏まえつつ（春田直紀2005）、宋代中国の経済的発展が基軸となり、東アジア全域における生産様式の生態学的な稠密化がもたらされたとしている（保立道久2015）。

III、菅浦文書の再翻刻に向けて、作業を分担した。これは、科学研究費補助金基盤研究（B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討—」（研究代表者：青柳周一氏）において取り組んでいるものである。また、併せて菅浦地区に所蔵されている近世・近代文書の調査・撮影にあたった。

IV、その他事業関係の業務については下記に概要を示すが、特筆しておきたいのは、文化庁の「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の一環として取り組んだ「市民と語る文化の歴史」事業において、湖上フォーラム「みんなで語る「ふなずし」の歴史」を開催したことである。ここにおいて、秋道智彌氏、日比野光敏氏、櫻井信也氏、篠原徹氏、藤岡康弘氏、橋本道範らが議論した結果、「滋賀県の現在のふなずし」がスシのもっとも古い形態であるところまでは考えられていたが、近江国で様々に展開した多様な「ふなずし」の一形態ではないのかとの見通しが得られた。この成果については、来年度報告書を出版したいと考えている。

印刷物

【学術論文】

橋本道範（2015）日本中世の環境と村落，思文閣出版，京都府：450p.

【専門分野の著作】

- 橋本道範 (2015) 戦後における歴史学の自然環境理解と村落論. *日本中世の環境と村落*, 思文閣出版, 京都府: 3-46.
- 橋本道範 (2015) 一五世紀における魚類の首都消費と漁撈—琵琶湖のフナ属の旬をめぐる—. *日本中世の環境と村落*, 思文閣出版, 京都府: 203-250.
- 橋本道範 (2015) 中世の「水辺」と村落—「生業の稠密化」をめぐる—. *日本中世の環境と村落*, 思文閣出版, 京都府: 364-414.

【一般向けの著作】

- 橋本道範 (2014) 献上された奥嶋のムベ. トピック展示解説, 琵琶湖博物館: 2p.
- 橋本道範 (2015) 身近な自然と暮らしの歴史—総合研究「自然観」の取り組み—. *琵琶博だより*, 19, 琵琶湖博物館: 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 橋本道範 (2014年12月8日) 一五世紀における魚類の首都消費と漁撈—琵琶湖のフナ属の旬をめぐる—. 第89回生地談話会, 岡山理科大学 (岡山市), [口頭発表].
- 橋本道範 (2015年2月20日) 地域環境史の課題—総合研究『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』に向けて—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「日本中世史は「種」を問題とすることができるか—社会史から環境史への挑戦—」, (2014年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2014~2018年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 C) 「日本中世における「水辺推移帯」の支配と生業をめぐる環境史的研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2011~2014年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討—」(研究代表者: 青柳周一), 研究分担者 (2012~2015年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2014年度後期, 岡山理科大学, 「博物館資料論」.
- 2015年1月7日, 滋賀県立大学, 博物館資料保存論「資料保存環境を維持するための実務—IPMを中心に—」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.
- 2014年8月1日, IPMについて—地道にこつこつ—, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年9月6日・7日, 琵琶湖とフナとフナズシ, 発見!びわ博フェスティバル とっておきの展示解説, 琵琶湖博物館, フロアトーク, 4件.
- 2015年2月21日, 地域環境史に向けて—総合研究「自然観」の挑戦—, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年4月8日, 湖辺の集落史―画期としての中世―, 立命館大学大学院理工学研究科建築都市デザイン学科, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス (滋賀県草津市), 講師.
- 2014年4月19日, 2013年度近江楽座活動報告会“まちづくり farmers festa―まちをたがやす人たちの感謝祭―”, 滋賀県立大学 (滋賀県彦根市), コメント.
- 2014年6月15日, 博物館資料とその「整備」について―歴史資料の収集・整理・保管と活用を中心に―, 京都女子大学文学部国文学科, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年6月15日, 琵琶湖のフナとフナズシの旬, 公益社団法人関西文化協会公認撮友会青年部, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年7月1日, 琵琶湖とフナとフナズシと, おうみ佐保塾, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年7月9日, 琵琶湖のフナと中世の人々―勉強と研究と―, 東山高等学校出前講座, 東山高校 (京都市), 講師.
- 2014年7月28日, 勉強と研究はどう違うの?―中世琵琶湖のフナと人の研究から―, 東山中学校出前講座, 東山中学 (京都市), 講師.
- 2014年8月8日, 文化的景観の保全とその実際Ⅱ (博物館における展示法), 文化遺産の保護に資する研修2014 (個人研修・バヌアツ) ―遺跡の調査・保存と活用管理―, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年8月24日, 琵琶湖とフナとフナズシと―フナズシにも旬ってあるの?―, 達人夜話, 高瀬川・四季AIR (京都市), 講師.
- 2014年11月8日, 湖上フォーラム みんなで語る「ふなずし」の歴史, 滋賀県ミュージアム活性化委員会, 琵琶湖汽船 ビアンカ (琵琶湖湖上), 企画・運営.
- 2014年11月8日, 室町時代の「ふなずし」の旬, 湖上フォーラム みんなで語る「ふなずし」の歴史, 滋賀県ミュージアム活性化委員会, 琵琶湖汽船 ビアンカ (琵琶湖湖上), 講師.
- 2014年11月8日, 堅田と言えば堅田鮎, 堅田の観光についての講演会, 湖族の里資料館 (滋賀県大津市), 講師.
- 2015年1月12日, 古文書から考える環境との関わり―エリの裁許状を読む―, 平成26年度滋賀県試験研究機関研究発表会, 淡海の未来を拓く―試験研究機関の挑戦―ワークショップ「なるほど! 研究のお仕事」, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2015年2月11日, 中世琵琶湖のコイとフナ―首都京都での価値付けをめぐる―, テーマ展講座, 滋賀県ミュージアム活性化委員会, 滋賀県立安土城考古博物館 (滋賀県近江八幡市), 講師.

メディアへの協力

- 2014年10月12日, 京都新聞, ムベと天皇の関わり紹介, 取材対応, (2013年10月8日).
- 2014年10月16日, 読売新聞, ふなずし 歴史どっち?, 取材対応, (2014年10月10日).
- 2014年10月28日, 京都新聞, 「ふなずし」調理法あれこれ, 取材対応, (2014年10月16日).
- 2014年12月27日, 京都新聞, ふなずし 旬に新説, 取材対応, (2014年12月20日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵資料展示情報のweb発信, 9件.

野洲市歴史民俗博物館 (銅鐸博物館) 企画展「近江の自然災害―地震と水害の歴史―」へ『農稼業事』『瀬田川自普請組合村絵図』『近江国之図』貸出情報のweb発信, 1件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

『農稼業事』『瀬田川自普請組合村絵図』『近江国之図』, 貸出・返却対応.

ヨシ博物館コレクション, 特別観覧対応.

定期収蔵庫清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫), 実施, 12回.

大掃除 (B展示室・古文書整理室), 実施.

防虫剤投入（特別収蔵庫実施）.
収蔵庫担当者会議，運営，2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年10月7日～11月16日，トピック展示「献上された奥嶋のムベ」，企画・調査・準備・展示.

2014年7月19日～11月24日，企画展示用資料，借用・陳列・維持管理・撤収・返却.

2014年度，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」，補助，7件.

2014年8月5日～10月5日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第49回，第22回企画展示「魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし－」関連企画Ⅰ・Ⅱ，補助，2件.

B展示室常設展示陳列替え，実施，6件.

モーニングレクチャー，講義，4回.

他博物館・機関の活動

平成26年度滋賀県試験研究機関研究発表会「淡海の未来を拓く－試験研究機関の挑戦－」，2014年12月20日～2015年1月12日，琵琶湖博物館企画展示室，琵琶湖博物館の総合研究，琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議.

水族トピック展示「鯉についての四方山話」，2015年1月2日～3月18日，こいさん大ピンチー中世のコイの価値付けー，琵琶湖博物館水族企画展示室，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会.

【企画調整活動】

新任職員等研修，B展示室紹介，講師，2014年4月16日，琵琶湖博物館.

滋賀県内の一級河川では、洪水や土砂災害などを防止するため、また、農業用水や飲料水などを確保するため、河川改修や砂防ダムなどの治水対策、また、利水ダムや取水堰などのインフラ整備が行われ、その結果、水害の軽減や農業や産業の発展などの便益がもたらされた。一方、インフラ整備による川へのインパクトは、山地から河道、そして琵琶湖へ流入する土砂の流れに影響をもたらしている。

一級河川愛知川は、土砂流出が多く下流部は天井川を形成し、過去に多くの水害をもたらしてきた。このため、県内で最初に全体計画が策定され昭和25年から河川改修を実施している。その後、琵琶湖総合開発や平成2年の災害復旧事業に引き続き河川整備計画に基づく河川改修が進められ、戦後最大相当の洪水を安全に流すことができるようになった。また、愛知川両岸に広がる湖東平野には約6,900haの水田があり、灌漑用水をめぐって水争いが頻繁に起きていた。現在は永源寺ダムが建設され、農業用水の安定供給に寄与している。その一方で、愛知川河口右岸の新海浜では、砂浜が減退してきたため突堤によって砂浜の維持を行っている。また、河道では植生の繁茂や濘筋の固定化やそれに起因する異常洗掘なども見受けられる。

このような影響とインフラ整備の関係を分析するため、また、現在の愛知川が持つ土砂輸送能力を把握するため、平成22年度に構築された土砂動態モデルを用い（以下「H22モデル」）、解析を行うこととした。

土砂動態モデルは、愛知川流域の流砂系を上流域、河道域、河口の3つのエリアに区切り、それぞれに適合したモデルを構築、下流へのアウトプットを境界条件として次のエリアに与えることにより接続させた流砂系一貫土砂移動モデルである。近年、愛知川における出水が少なかったことから、H22モデルの定数設定にあたっては平成2年と平成6年の2洪水による分析しかされていない。そこで、平成25年台風18号による洪水および河床の攪乱結果を用い、H22モデルの精度向上を図ることとした。

平成26年度は、H25出水による河床攪乱結果を把握するための航空レーザ測量業務の発注、モデル再構築のための解析業務の委託発注を湖東土木事務所と共同で行うとともに、河川改修や砂利採取などの洪水以外のインパクトに関する資料や航空写真、出水データなどの収集および整理を行った。

永源寺ダムの流域は愛知川全体流域の約6割を占めており、ダムの放流量が河川流量に大きく影響する。鈴鹿山地に流域を持つ野洲川では、一定規模の降雨があると数十センチから1m近くの水位変動が見られるが、愛知川では特に農繁期に変動が少なく、ダム貯留によって小規模な出水の頻度が少なくなっていることが水位データに顕著に表れていた。小規模出水が抑えられる時期と植生繁茂の時期が重なることから、大きな洪水のない期間は濘筋の固定化や河道内草木の繁茂がみられること、平成25年台風などの大規模な出水が起きると河道内が攪乱され、植生群落の破壊や濘筋の変化が生じていることが航空写真からも判明した。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

井関明子（2014年12月19日）伐採竹の家畜敷料としての利用実験および市場調査について、滋賀県土木技術研究発表会、滋賀県建設技術センター、[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「住民の防災意識向上に繋げる教育プログラムに関する検討」（2014年度）。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究－I」（研究代表者：藤岡康弘）、研究分担者（2013～2016年度）。

【インターネットページでの公表】

井関明子（2015年1月30日）伐採竹の家畜敷料としての利用実験および市場調査について。
<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/d-kanri/kikaku/happyou/index.html>, 滋賀県土木技術研究発表会.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

他の博物館・機関等主催行事

2014年6月7日, 流域治水条例について, 独立行政法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター,
琵琶湖博物館, 講義.

2014年9月26日～10月23日, 白鳥川の生き物調査とハザードマップづくり, 滋賀県土木交通部流域政策局, 馬淵
小学校出前講座, 白鳥川 (滋賀県近江八幡市), 講師およびアシスタント, 4件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年度, 常設展示維持管理, 主担当.

常設展示維持管理委託, 主担当

屋外展示維持管理委託, 主担当.

C展示室 三面マルチリアプロジェクション点検業務, 実施.

情報利用コーナー改修業務, 実施.

ディスカバリールーム リビングギア再製作業務, 実施.

展示交流員と話そう, 内容指導.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, B展示室 治水への取り組み, 講師, 2014年4月22日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度, 滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境チーム, 主査を兼務.

「人と自然との関係性」に関する社会学的研究を主題としている。本年度は、特に水田稲作や水環境と暮らしについて琵琶湖と太湖水系を中心にフィールド調査を踏まえて研究推進を行ってきた。

研究活動においては、今年度は水郷地帯における水田稲作や水環境をめぐる地域資源の利用と地域づくりなどについて、研究調査を進めた。その研究成果の一部は、学術論文（うち3本）として掲載されており、企画展図録（1冊）、一般向けの雑誌『湖国と文化』や中日新聞コラムなどに執筆してきた。また、これまでの研究調査を踏まえた論考の一部は、報告書として刊行しようとしたところである。そのほか、中国の大学や社会科学院、研究所と協働して講演会シンポジウムの企画・研究討論などを進め、国際農業会議や研究会等にて研究成果の一般公表を行ってきた。

共同研究においては、主に外部資金による日本学術振興会科学研究費補助金事業（基盤研究（C））研究課題「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」（研究代表者：楊平）、また日本学術振興会科学研究費補助金事業（基盤研究（C））研究課題「貯蔵」と「加工」からみた東アジア農耕導入期の野生植物食料利用の実態とその変遷」および日本学術振興会科学研究費補助金事業（基盤研究（B））「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」の研究分担者として研究を進めた。

事業活動においては、琵琶湖博物館第22回企画展示『魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—』（開催期間：2014年7月19日～11月24日）の企画と展示・運営を行い、企画展示関連のイベントや行事や交流会の企画・開催のほか、同時に企画展図録の刊行を行った。また、研究成果の還元につなぐ事業活動としては、海外向けに博物館展示をめぐる琵琶湖や琵琶湖博物館の紹介・解説、関連の研究機関との研究交流などを行った。そのほか、関西博物館研究会メンバーの学芸員による企画展示の評価および成果展示をめぐる展示検討・研究交流会を実施した。

印刷物

【学術論文】

- YANG, P. (2014) Restoration of the relationship between human beings and nature—The application of Lake Biwa mitigation and life environmentalism. *Journal of Lake Sciences*, 5(26): 807-812.
- YANG, P. (2014) Interpretation of river management in Lake Biwa Basin from the angle of living environmentalism. *WATER RESOURCES PROTECTION*, 1(31), Chinese Hydraulic Engineering Society: 16-21.
- ZHU, W., YANG, P. and GONG, M. (2014) Japan's multi-natural river regulation and its enlightenment to China. *WATER RESOURCES PROTECTION*, 1(31), Chinese Hydraulic Engineering Society: 22-29.
- ZHU, W., JIANG, M., CAI, M. and YANG, P. (2014) Advocate a “nature-friendly river” regulation model: reflection on the rural regulation in China. *WATER RESOURCES PROTECTION*, 1(31), Chinese Hydraulic Engineering Society: 1-7.

【専門分野の著作】

- 楊 平 (2014) 水辺の生活を通して共通の「リズム」探る. *湖国と文化*, 滋賀県文化振興事業団: 79-81.
- 楊 平 (2014) 食用植物の利用に関する社会学的アプローチ. 科研事業報告書: 121-131.
- 楊 平 (2014) 暮らしが語る人と湖. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*, 琵琶湖博物館: 3.
- 楊 平 (2014) 水郷の暮らしと水文化. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*, 琵琶湖博物館: 26-29.
- 楊 平 (2014) 水とお茶. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*, 琵琶湖博物館: 28.
- 楊 平 (2014) 水辺の植物資源利用と工夫. *魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし*, 琵琶湖博物館: 34-35.

- 楊 平 (2014) 家船漁民の暮らしと漁業. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館: 38-40.
- 楊 平 (2014) 水田稲作から人と水辺との関係を読み解く. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館: 55-57.
- 楊 平 (2014) 自然資源の力を生かした農耕. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館: 58-61.
- 藤岡康弘・楊 平 (2014) 湖との距離—水辺で暮らす知恵をどう伝えていくのか—. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館: 64-65.

【一般向けの著作】

- 楊 平 (2014) 湖岸より 216 水が水郷の「リズム」育てる. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月9日.
- 楊 平 (2014) 湖岸より 217 水辺ならではの知恵, *中日新聞*, 中日新聞社, 8月23日.
- 楊 平 (2014) 水を介した人々の暮らしと湖. *琵琶博だより*, 17, 琵琶湖博物館: 1-2.
- 楊 平・細谷 葵 (2014) 湖岸より 218 水辺の植物資源利用と工夫. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月30日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 楊 平 (2014年10月17日) 企画展示からみた湖と人の暮らし. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 楊 平 (2014年12月11日) 太湖と琵琶湖, 講演シンポジウム (研究討論), 南京河海大学 (中国南京市), [口頭発表].
- 楊 平 (2014年12月6日) 「水田養魚」にみる稲作農業. 第3回生物多様性を育む農業国際会議, 大崎市民会館 (宮城県大崎市), [口頭発表].
- 楊 平 (2015年1月17日) 食用植物の利用と貯蔵について, 科研共同研究成果発表会, 東京お茶の水女子大学, [口頭発表].
- 楊 平 (2015年2月27日) 植物資源の利用に関する社会的アプローチ, 琵琶湖博物館領域会議, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「農村における生業をめぐる再生のありかた」, (2014年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 C) 「琵琶湖と中国・太湖における水環境比較民俗論と成果展示の企画」 (研究代表者: 楊 平), (2010~2014年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 C) 「「貯蔵」と「加工」からみた東アジア農耕導入期の野生植物食料利用の実態とその変遷」 (研究代表者: 細谷 葵), 研究分担者 (2012~2014年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究モデル構築」 (研究代表者: 用田政晴), 研究分担者 (2013~2016年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2014年5月, 大阪産業大学人間環境学部, 「特別講義A」.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

2014年7月19日、展示内容の紹介、企画展示オープニングセレモニー、琵琶湖博物館、来客対応。
2014年8月2日、企画展示説明・案内等、博物館実習、琵琶湖博物館、講師。
2014年9月6日・7日、東アジアの湖の絶景を探検してみよう、発見！びわ博フェスティバル とっておきの展示
解説、琵琶湖博物館、フロアトーク、4件。
2014年9月27日、アジアの水辺の絶景を探検！、からすま半島で楽しもう 企画展示関連、琵琶湖博物館、企画
展示説明・案内等、(生水の里と共同)。
2014年11月1日、企画展関連行事「魚米之郷」を楽しむ プレミアムレストラン、琵琶湖博物館、来客対応。

他の博物館・機関等主催行事

2014年10月16日、展示と琵琶湖博物館での研究活動について、滋賀県立大学、琵琶湖博物館、講義。
2014年11月3日、湖と人々の暮らし、高島市針江区、琵琶湖博物館、企画展示解説・博物館展示解説・展示案内。
2015年3月26日、水と暮らしの知恵、草津地区ロタリークラブ、ピアザホテル、講演。

視察対応

2014年4月10日、博物館展示解説・展示案内・検討、中国湖南省博物館。
2014年4月16日、博物館展示解説・展示案内・研修対応、中国研修団。
2014年5月11日、博物館展示解説・展示案内、中国湖南省高校生。
2014年5月27日、博物館展示解説・展示案内、台湾台北市中偏高級中学。
2014年8月28日、博物館展示解説・企画展示案内、奈良農業高校。
2014年8月29日、博物館展示解説・展示案内、中国湖南省研修団。
2014年10月10日、博物館展示解説・展示案内、滋賀県環境部環境政策課。
2014年10月11日、博物館展示解説・展示案内、中国湖南省岳陽市。
2014年10月17日、「湖と人」講義及び企画展示解説・展示案内、中国青海省環境視察団。
2014年10月23日、企画展示の解説・博物館展示解説・展示案内、中国湖南省研修団。
2014年10月26日、企画展示の解説・博物館展示解説・展示案内、中国博物館視察団。
2014年11月16日、企画展示解説・博物館展示解説・展示案内、愛媛大学研究視察。
2014年11月16日、企画展示解説・博物館展示解説・展示案内、早稲田大学・大阪産業大学研究視察。
2015年3月1日、企画展示解説・博物館展示解説・展示案内、臺灣台南市視察産団。

メディアへの協力

サンライズ出版、企画展示関連のインタビュー・取材対応、(2014年6月22日)。
サンライズ出版、企画展示関連の写真撮影・取材対応、(2014年7月12日)。
京都新聞、企画展示関連の取材対応、(2014年8月2日)。
BBC テレビ、企画展示関連の写真撮影・取材対応、(2014年8月11日)。
FM 滋賀、企画展示関連のインタビュー・取材対応、(2014年8月12日)。
NHK、企画展示関連のインタビュー対応、(2014年8月18日)。
滋賀日報、企画展示関連のインタビュー対応、(2014年8月22日)。
BBC テレビ生出演、BBC テレビ局、大津市、(2014年8月29日)。
毎日新聞、企画展示関連のインタビュー対応、(2014年9月6日)。
企画展示解説・インタビュー対応、FM 奈良、(2014年10月17日)。
企画展示解説・インタビュー対応、香港雑誌社、(2014年11月12日)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリー等の問い合わせ、回答、8件。
中国関係の民俗・文献資料、収集・整理・保管・管理。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ，4件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年度，琵琶湖博物館常設展示（C展示室）維持管理，担当.

2014年度，東アジアの湖と漁労について，展示実施.

琵琶湖博物館関連のパンフレット等，中国語版の翻訳・作成等.

2014年9月30日，ディスカバリー対応，琵琶湖博物館.

2014年10月5・11日，愛子ちゃんとじゃんけんイベント（3回実施），琵琶湖博物館，2件.

2014年10月18日，企画展示関連の学習（2回実施），琵琶湖博物館.

2014年10月11・12・18・25・26日，「クイズで楽しむ『魚米之郷』の魅力」，琵琶湖博物館，5件.

2014年10月19日，「『魚米之郷』で楽しく学ぶ！楽しく探検！」，琵琶湖博物館.

2014年10月28日，企画展示入館3万人イベント，琵琶湖博物館.

2014年11月20・21・22日，クイズラリーⅠ・Ⅱ・Ⅰ・Ⅱ，企画展示「魚米之郷」学習ワーク，琵琶湖博物館，4件.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修，C展示解説，2014年4月23日，講師，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

海外の研究機関との連携，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2014年11月17日～24日，中国浙江省周辺，現地資料収集・研究調査.

2014年12月9日～12日，中国江蘇省，研究連携会議、講演会企画・運営.

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

日本学術振興会の科学研究費助成事業として、日本の森林動態の変化に対する日本海環境、東アジアモンスーンの影響について解明するため日本海堆積物の花粉分析を進めている。さらに、琵琶湖博物館申請専門研究として、琵琶湖周辺における縄文時代以降の植生復元に向けた基礎的研究を実施し、琵琶湖地域における古生態学データの収集、整理を行った。また、琵琶湖博物館総合研究の中で琵琶湖周辺地域における森林生態系の変化と人間活動の変化との対応関係について考古学、歴史学の研究者とともに議論を進めている。研究協力者として、秋田スギの変遷史の解明を目指すプロジェクトに参加し、野外調査を行った。

これらの研究成果の一部については、琵琶湖における花粉分析的研究との比較のために実施した、畑谷大沼表層堆積物の花粉分析結果が日本花粉学会会誌に掲載された。また、琵琶湖堆積物の花粉分析に基づく定量的古気候復元結果に関する研究、花粉分析結果に基づく最終氷期の植生復元に関する研究について、それぞれ共著者として公表を行った。これらの研究成果は、日本花粉学会大会や日本生態学会大会において発表を行った。また、研究成果については琵琶湖博物館研究セミナーや新琵琶湖学セミナーをとおして、一般に向けた紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、交流グループの一員として主にはしかけ事業と観察会等のイベントの運営企画事業を担当した。はしかけ事業については、活性化と屋外展示の有効利用を目指し、はしかけミーティングを年6回開催し、はしかけ登録者の方への屋外展示に関する見学会や講座を行い、意見交換を行った。また、博物館主催のわくわく探検隊や講座での講師や、地域連携事業での講師を勤めた。さらに、C 展示室リニューアルの「川から森へ」コーナーの主担当として、実施設計の立案を行った。館外での活動としては、環境と科学のフェスティバルの実行委員としてイベントの企画運営に携わり、琵琶湖博物館としての参加協力を行った。

印刷物

【学術論文】

Kigoshi, T., Kumon, F., Hayashi, R., Kuriyama, M., Yamada, K. and Takemura, K. (2014) Climate changes for the past 52 ka clarified by total organic carbon concentrations and pollen composition in Lake Biwa, Japan. *Quaternary International*, 333, Elsevier : 2-12.

林 竜馬・榎木玲美・小田寛貴・大槻 朝・栗野 将・牧野 渡・占部城太郎 (2014) 山形県畑谷大沼堆積物の花粉分析に基づく過去 60 年間の植生とスギ花粉年間堆積量の変化. *日本花粉学会会誌*, 60 (1), 日本花粉学会 : 13-25.

Takahara, H. and Hayashi, R. (2015) Paleovegetation during marine isotope stage 3 in East Asia. *Emergence and diversity of modern human behavior in paleolithic Asia*, Texas A&M University Press : 314-324.

【専門分野の著作】

佐々木尚子・林 竜馬 (2014) 花粉分析による集水域植生の復元. 占部城太郎 編, *湖沼近過去調査法*, 共立出版, 東京 : 164-192.

林 竜馬・廣瀬孝太郎・長橋良隆 (2015) 猪苗代湖湖底堆積物の花粉分析に基づく過去 1700 年間の植生変遷. *共生のシステム*, 15, 福島大学理工学類共生システム理工学類 : 66-71.

【一般向けの著作】

林 竜馬 (2015) 湖岸より 228 琵琶湖を育む森と川. *中日新聞*, 中日新聞社, 1月24日.

- 林 竜馬 (2015) どこでもだれでもフィールド情報 油日湿原堆積物のボーリング調査. 琵琶湖博だより, 19, 琵琶湖博物館: 3- 4.
- 林 竜馬 (2014) 巻頭言. フィールドレポートだより, 42, 琵琶湖博物館フィールドレポート: 1.
- 林 竜馬 (2015) 博物館の木から地域の森へ: 琵琶湖博物館における地域・学校連携の取り組み. 博学社連携フォーラム・博学社連携シンポジウム報告書, 京都文化博物館地域共働事業実行委員会: 17-25.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 林 竜馬 (2014 年 4 月 18 日) 滋賀県の考古遺跡における古生態学データベースの構築と周辺植生環境の復元. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Hayashi, R., Takahara, H., Inouchi, Y. and Takemura, K. (2014 年 8 月 27 日) Orbital-scale vegetation response to seasonal climate changes in ocean-atmosphere systems during the last glacial-interglacial cycle based on terrestrial and marine pollen records around Japanese archipelago, 9th European Palaeobotany and Palynology Conference, University of Padova (Padova, Italy), [ポスター発表].
- Hayashi, R., Takahara, H., Sasaki, N. and Sugita, S. (2014 年 8 月 28 日) Long-term monitoring of tree pollen production and implications for quantitative reconstruction of regional vegetation around Lake Biwa in central Japan, 9th European Palaeobotany and Palynology Conference, University of Padova (Padova, Italy), [ポスター発表].
- 林 竜馬・廣瀬孝太郎・長橋良隆 (2014 年 9 月 13 日) 猪苗代湖堆積物の花粉分析からみた過去 2000 年間の植生変化と人間活動の影響. 日本花粉学会第 55 回大会, 北海道大学 (札幌市), [口頭発表].
- 高原 光・岸本 剛・林 竜馬・佐々木尚子・山川千代美・植村善博 (2014 年 9 月 13 日) 琵琶湖周辺における最終氷期最盛期の植生. 日本花粉学会第 55 回大会, 北海道大学 (札幌市), [口頭発表].
- 佐々木尚子・村上恭通・楨林啓介・林 竜馬・高原 光 (2014 年 9 月 13 日) 瀬戸内地域佐島宮ノ浦における花粉分析. 日本花粉学会第 55 回大会, 北海道大学 (札幌市), [口頭発表].
- 志知幸治・池田重人・岡本 透・林 竜馬 (2014 年 9 月 13 日) 秋田市女潟周辺における完新世中期以降のスギ林変遷. 日本花粉学会第 55 回大会, 北海道大学 (札幌市), [口頭発表].
- 林 竜馬 (2014 年 12 月 7 日) 琵琶湖地域から世界へ: 遺跡における古生態学データベースの構築と周辺植生復元の試み. 第 15 回関西縄文文化研究会研究集会, 若狭歴史博物館 (福井県若狭市), [口頭発表].
- Hayashi, R., Takahara, H., Sasaki, N. and Sugita, S. (2015 年 2 月 18 日) L Summary of pollen production monitoring in Japan. PAGES (Past Global Changes) working group LandCover6k launching meeting, University of Pierre et Marie Curie (Paris, France), [ポスター発表].
- 林 竜馬 (2015 年 3 月 14 日) 猪苗代湖湖底堆積物の花粉分析に基づく過去 1700 年間の植生変遷. 磐梯朝日遷移プロジェクト 裏磐梯の湖沼環境を考える会議, 裏磐梯ロイヤルホテル (福島県北塩原村), [口頭発表].
- 林 竜馬 (2015 年 3 月 18 日) 氷期間氷期変動に伴うスギと温帯性針葉樹の分布変遷. 日本生態学会第 62 回大会, 鹿児島大学 (鹿児島市), [口頭発表].
- 志知幸治・池田重人・岡本 透・林 竜馬 (2015 年 3 月 18 日) 東北地方における完新世後期のスギの拡大. 日本生態学会第 62 回大会, 鹿児島大学 (鹿児島市), [口頭発表].
- 林 竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司 (2014 年 3 月 21 日) 縄文時代以降の森林生態系と人の移ろいー琵琶湖周辺地域における遺跡の古生態学的データから. 日本生態学会第 62 回大会, 鹿児島大学 (鹿児島市), [ポスター発表].
- 池田重人・志知幸治・岡本 透・林 竜馬 (2014 年 3 月 21 日) 桑ノ木台湿原の花分析に基づく完新世後期の“烏海ムラスギ”の変遷. 日本生態学会第 62 回大会, 鹿児島大学 (鹿児島市), [ポスター発表].
- 志知幸治・池田重人・岡本 透・林 竜馬 (2015 年 3 月 28 日) 由利本荘市加田喜沼湿原の花分析に基づく完新世の森林変遷. 第 126 回日本森林学会大会, 北海道大学 (札幌市), [ポスター発表].
- 池田重人・志知幸治・岡本 透・鳥山淳平・林 竜馬 (2015 年 3 月 28 日) 秋田県のスギ天然林における花粉分析

結果からみた近世の人為的影響. 第126回日本森林学会大会, 北海道大学(札幌市), [ポスター発表].
岡本 透・池田重人・志知幸治・鳥山淳平・林 竜馬(2014年3月29日)江戸時代以降の歴史資料にみる桃洞・佐渡のスギ原生林. 第126回日本森林学会大会, 大宮ソニックシティ(さいたま市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺における縄文時代以降の環境変遷復元に向けた基礎的研究—古生態学データの整理とデータベースの構築—」, (2014年度).
琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者:橋本道範), 研究副代表者(2011年度~2015年度).
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:マーク J. グライガー), 共同研究者(2011年度~2015年度).
科学研究費助成事業(若手 B)「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」(研究代表者:林 竜馬), 研究代表者(2013~2016年度).
科学研究費助成事業(基盤 B)「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」(研究代表者:高原 光), 研究分担者(2014~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本花粉学会, 日本花粉学会会誌, 編集委員.
日本花粉学会, 評議委員.
Review of Palaeobotany and Palynology, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.
はしかけ, 担当.
2014年度, はしかけミーティング, 琵琶湖博物館, 運営, 6件.
2014年8月2日, 夜の屋外展示を探検しよう!!, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 運営.
2014年9月6・7日, はしかけオープンハウス, 発見!琵琶湖フェスティバル!, 琵琶湖博物館, 運営.
2014年9月13日, 葉っぱ模様の手ぬぐいづくり, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師.
2014年11月19日, はしかけ担当者会議, 琵琶湖博物館, 企画.
2015年1月17日, 琵琶湖地域の気候と森の移り変わり, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, 講演.
2015年3月28日, 春の大敵!スギ花粉を学ぼう, 博物館で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2014年4月27日, 琵琶湖周辺の環境の変化, 全国高等学校総合文化祭自然科学部門研修, 全国高等学校総合文化祭, 琵琶湖博物館, 講師.
2014年6月5日, 湖上実習と博物館での研修, 全国高等学校総合文化祭自然科学部門研修, 全国高等学校総合文化祭, 琵琶湖博物館, 講師.
2014年7月13日, 博物館夏祭り, 博物館夏祭り実行委員会, ビバシティ彦根(滋賀県彦根市), 企画運営.
2014年8月20日, 博物館の概要, 近畿日本ツーリストガイド, 琵琶湖博物館, 講師.
2014年11月4日, 琵琶湖博物館における交流事業について, 京都府京都文化博物館, 京都府京都文化博物館(京都市), 講師.
2014年11月7日, 森の歴史について, 京都府立大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年11月16日，博物館周辺及び湖畔の生態系観察，自然大学琵琶湖実習，NPO 自然と緑，琵琶湖博物館，講師。

2015年1月10日，森の歴史について，いまづ自然観察クラブ，琵琶湖博物館，講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本，整備・収蔵庫維持管理，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

案内関係ワーキング，委員。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度，C展示室リニューアル「川から森へ」コーナー，主担当。

2014年度，環境と科学のフェスティバル実行委員会，委員。

【海外渡航】

2014年8月25日～9月2日，イタリア・パドバ，第9回欧州古植物学花粉学会議への参加と発表。

2015年2月16日～21日，フランス・パリ，PAGES LandCover6K 第1回ワークショップへの参加と発表。

平成 26 年度は、前年度から引き続き、人口減少と高齢化が進む山村の現代的な変容を明らかにし、将来における山村の可能性を検討することを主要な課題として、研究を進めた。

滋賀県多賀町、滋賀県余呉町、山梨県早川町で現地調査(行事や総会への参与観察、聞き取り調査)を行うと共に、これまでに収集したデータの整理と論文執筆を行った。人口減少が進んでいる集落、人口がすでにゼロになった集落において、地域住民がその地域とどのように関わっているのかを明らかにし、それを踏まえ、行政や外部者の関与も視野に入れながらどのように次世代に繋いでいく可能性があるのかを、検討した。

成果の一部を、書籍「Collaborative Governance of Forests Towards Sustainable Forest Resource Utilization」に、「Task-sharing, to the Degree Possible: Collaboration between Out-migrants and Remaining Residents of a Mountain Community Experiencing Rural depopulation」というタイトルで公表した。

さらに、共同研究や科研費研究に参加することで、新たに取り組むべき研究テーマを発掘することもできた。具体的には、エチオピア南部の湖沼地帯における現地調査を行い、湖と人とのかかわりや湖の中にある島での人の暮らしについて、情報を得ることができた。

印刷物

【専門分野の著作】

Okubo, M. (2015) Task-sharing, to the Degree Possible: Collaboration between Out-migrants and Remaining Residents of a Mountain Community Experiencing Rural depopulation. In, Tanaka, M. and Inoue, M. ed., *Collaborative Governance of Forests Towards Sustainable Forest Resource Utilization*, University of Tokyo Press, Tokyo: 135-162.

【一般向けの著作】

大久保実香 (2014) 地域の宝、どう活かす?. 琵琶博だより, 18, 琵琶湖博物館: 4.
大久保実香 (2015) 湖岸より 229 これからの暮らしを考える. 中日新聞, 中日新聞社, 1月31日.
大久保実香 (2015) 当たり前の暮らしの中から発見しよう. うみっこ通信, 13, 琵琶湖博物館: 1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大久保実香 (2014年7月18日) 「消滅」しなかった集落. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
大久保実香 (2014年10月19日) Fieldwork Report: Relationships between Lakes and Human in Southern Ethiopia. 平成 26 年度在来知研究会, 在来知研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
大久保実香 (2015年1月25日) 現代の山村における資源の利用・管理と移動. 総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」研究会, 琵琶湖博物館総合研究, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
大久保実香 (2015年2月7日) Building knowledge through collaboration with local people: Hashikake and Field reporter activities in Lake Biwa Museum. International workshop “Construction of a global platform

for the study of sustainable humanosphere” , Young researcher overseas visit program for accelerating brain circulation, 京都大学 (京都市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「過疎集落と他出先市街地における二地域居住の実態の解明」, (2014年度).

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
(研究代表者:橋本道範), 民俗・社会班 (2014~2018年度).

科学研究費助成事業(若手B)「人口減少後の地域コミュニティとその資源管理」(研究代表者:大久保実香), 研究代表者 (2014~2016年度).

科学研究費助成事業(基盤C)「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」(研究代表者:高橋啓一), 研究分担者 (2014~2016年度).

科学研究費助成事業(基盤A)「アフリカ在来知の生成と共有の場における実践的地域研究:新たなコミュニティ像の探求」(研究代表者:重田真義), 研究協力者 (2014~2016年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

兵庫県立大学経済学部生, 卒業論文指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

はしかけ「暮らしをつづる会」・「緑のくすり箱」, 担当.

2014年8月1日, 収蔵庫空間について, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2014年6月11日, 琵琶湖と人の暮らし, 龍谷大学経済学部, 農業・資源経済学, 学外イベント, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月24日, 滋賀県の農業・環境の現状について, 科学技術振興機構受託研究課題「半乾燥地の水環境保全を目指した洪水一干ばつ対応農法の提案」, 実地研修, 琵琶湖博物館および大津・南部農業農村振興事務所, 講師.

2014年11月8日, 湖上フォーラムみんなで語る「ふなずし」の歴史, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 琵琶湖汽船「ピアンカ」船上, 運営補助.

2014年11月24日, 琵琶湖博物館における地域の人びととの連携, JICA, 平成25年度JICAエチオピア国別研修「農業イノベーションと研究・普及連携」コース, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年12月12日, 暮らしの移り変わり, 三重県三重郡菟野町千種地区公民館, 社会見学, 琵琶湖博物館, 講師.

2015年3月12日, 環境と私たちの暮らし, 京都府八幡市さくら55福祉委員会, 講義, 琵琶湖博物館, 講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

燻蒸庫燻蒸・密閉テント式燻蒸, 実施.

燻蒸庫定期点検, 実施.

燻蒸室内冷蔵庫の修理, 実施.

環境資料の受入れ, 実施.

環境収蔵庫定期清掃, 実施.

資料受入, 朽木いきものふれあいの里より実施.

「文化財の放射線対策に関する研究会」報告，事業部セミナー，2014年11月21日，報告.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう，内容指導.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース，実地研修・講師，2014年6月7日～9日，中越メモリアル回廊（新潟県長岡市・小千谷市）・
国立新美術館（東京都港区）.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

C展示室実施設計，担当.

アドバイザー会議，実施，2014年11月6日，琵琶湖博物館.

アドバイザーによる展示評価，実施，2014年11月12日，琵琶湖博物館.

アドバイザー会議，実施，2014年12月8日，琵琶湖博物館.

来館者による展示評価，実施，2015年3月1日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2014年8月8日～9月8日，エチオピア，エチオピア南部湖辺地帯における在来知に関する調査.

【館外の活動】

日本村落研究学会，会員.

環境社会学会，会員.

滋賀の食事文化研究会，会員.

アジスアベバ大学エチオピア研究所，訪問研究員.

2014 年度も環境学習センターの所長を兼務で行うこととなり、びわ博フェスティバルや環境ほっとカフェ等、環境学習や環境について考えてもらうきっかけとなる事業等を行ってきた。環境学習センターとしては、これらのほかに、地域で活動している個人や団体などの情報を収集し、それらの情報を元に活動を行いたいと思っている人達を支援していくことが主要な業務となる。そのためには、環境学習推進員に現場に出て行ってもらう、地域で活動している人や団体およびその活動内容等について詳細に情報を集めてもらうとともに、それらの人や団体と環境学習を行おうとする人たちをつなぐ役目が重要である。今年度については、昨年度比約 1 割増でこれを進めることができた。ただ、収集した情報を発信する手段に限られていることから、これの改善が急務の課題と考えている。今年度、第四時環境総合計画が施行され環境学習推進協議会の事務局を環境政策課と共同で運営することになり、ESD フォーラム等にも積極的に参加した。また、おおむね 1 ヶ月に 2 回発行されるメールマガジン「そよかぜ」にビワマス博士・桑原所長のコラムを月 1 回掲載した。

また、今年度は総務部新琵琶湖博物館創造準備室の SGL として、特に水族展示室の実施設計の総括を行った。水族の場合は、建築設備のリニューアルの比率が大きいことから、主に前半建築設備設計、後半ドライ部分を含む展示設計を中心に進めた。また、今回のリニューアルでは新しくバイカル湖の生き物を展示するコーナーが新設され、バイカルアザラシのほかバイカル湖に生息する魚類やヨコエビ類などの生物の展示を行うこととなっている。そのため、文化館時代も含め初めての経験となるバイカルアザラシの入手のために、国内外の水族館に協力を求めて進めてきた。バイカルアザラシ以外の生物の生体展示は、国内では 1997 年に当館で開催した第 3 回水族企画展「古代湖の世界 一個性的な生き物たち」で展示したのが唯一であり、常設での展示となると国内初となる。また、バイカル湖の生き物は観賞用としても流通しておらず、国際情勢等も 1997 年当時とは大きく異なっており、輸出入の手続きや運送の手配等、手探りで行わなければならない状況で、これらに多くの時間を割いてきた。これにかかわって、5 月と 10 月にバイカル博物館を訪問し、期限が切れていた協力協定の再締結の下準備を行うとともに、バイカル湖産生物の捕獲と輸出入の協力を依頼した。

それ以外では、7 月 19 日～8 月 31 日に開催された第 27 回 水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』ーヨシ原を利用するいきものたちー」を主催した。本企画展示では、リニューアル語 C 展示室で展示が検討されているカヤネズミの展示についても澤邊学芸員と共同で試行を行った。また、昨年度から飼育試験を続けているビワオオズムシについては、卵塊から生まれた幼生を育てることに成功し、リニューアル後の展示の可能性について手応えを得ることができた。

先の業務に多大な時間を割かざるを得なかったことから、研究活動はあまり進めることができなかったが、これまでの研究成果を基に、年度末に開催された第 42 回四国魚類研究会と第 60 回魚類自然史研究会で口頭発表を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2015) 湖岸より 232 新しくなる水族展示. *中日新聞*, 中日新聞社, 3 月 14 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之 (2014 年 10 月 17 日) 琵琶湖流入河川に生息するアマゴの遺伝的状況. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶

湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

桑原雅之 (2015年2月28日) 琵琶湖水系に生息するビワマスとアマゴの遺伝的状況. 第42回四国魚類研究会, 徳島県立博物館, 国民の宿 うみがめ荘(徳島県), [口頭発表].

桑原雅之 (2015年3月14日) ビワマスはいったい何を食べたいのだろうか?!. 第60回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会事務局, 成蹊スポーツ大学(滋賀県大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究」, (2014年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2014年7月20日, 魚, 夏休み自由研究講座, 講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月26日, 漁船に乗ってビワマス漁をみてみよう, 見学会, 湖北町尾上, (協力: 朝日漁協、金尾滋史と共同).

2014年9月6・7日, 発見!びわ博フェスティバル!, 琵琶湖博物館, 企画・運営.

2014年10月25日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 見学会, マキノ町知内, 主担当, (協力: 百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場、金尾滋史と共同).

2014年12月14日, エコクラブ交流会, 琵琶湖博物館, 企画・運営.

2014年12月20日, ESDフォーラム, 沖島(滋賀県近江八幡市), 運営.

2014年12月21日, アトリウムコンサート, 琵琶湖博物館, 企画・運営.

2015年1月25日・2月22日, 水族バックヤード探検, 博物館で楽しもう, 琵琶湖博物館, 企画・案内, 2件, (藤岡康弘・松田征也・山本充孝・金尾滋文と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2014年5月31日, 川の生きものたちを見つけられるかな, 常世川再生の会, 甚七町自治会所(滋賀県大津市), 講師.

2014年6月8日, ビワマス観察会, 米原市ビワマス倶楽部, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年6月22日, 琵琶湖に生息する外来魚の生態について, ボーイスカウト湖南第1団カブスカウト隊, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月13日, 博物館夏祭り, 博物館夏祭り実行委員会, ビバシティ彦根(滋賀県彦根市), 出店.

2014年7月17・22・31日, 淡水魚の生態と分類, シニア自然大学, 淡水魚①, 大阪環境情報プラザ・ワキタ天満橋ビル(大阪市), 講師.

2014年8月4・7・21日, 淡水魚の採集と同定, シニア自然大学, 淡水魚②, 大戸川(滋賀県大津市), 講師, 3件.

2014年11月1日, 琵琶湖とさかな, 国際ロータリー第2650地区2014-15年度インターアクト地区大会, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年11月26日, ビワマスの生態について, 米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト, 息長小学校(滋賀県米原市), 講師

2015年3月7日, オオサンショウウオ+α, 第三回 香りの里史料館講座, 伊香立香の里史料館(滋賀県大津市), 講師.

2015年3月11日, 息長小学校ビワマス稚魚放流会, 米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト, 息長小学校(滋賀県米原市), 講師.

メディアへの協力

2014年4月10日, NHK 大津, クイズで知るびわ湖「びわ湖の基礎情報」, 出演, (2014年4月6日取材).
2015年1月5日, NHK 大津, おうみ発610「今年にかける」, 出演, (2014年12月17日取材).
2015年1月14日, NHK 大阪, おはよう関西「今年にかける」, 出演, (2014年12月17日取材).
2015年3月14日, NHK 大津, あなたが選ぶ興味新深グランプリ, 出演, (2015年2月22日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年7月19日～8月31日, 第27回 水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』ーヨシ原を利用するいきものたちー」, 主担当.

水族展示維持管理, 担当.

旬のさかなたち, 主担当.

水族トピック展示, 担当.

展示交流員と話そう, 内容指導.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース, バックヤード案内, 講師, 2014年7月9日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2014年5月6日～12日, ロシアイルクーツク・リストヴィヤンカ(バイカル博物館), 協力協定締結打ち合わせおよびリニューアルへの協力要請.

2014年10月3日～11日, ロシアイルクーツク・リストヴィヤンカ(バイカル博物館), リニューアル関係展示生物捕獲依頼.

【館外の活動】

日本動物園水族館協会, 設備会議, 幹事.

野洲市環境審議会, 委員.

滋賀大学環境学習支援士養成プログラム, 企画運営委員会, 委員.

米原市ビワマスプロジェクト, 生態アドバイザー.

平成26年度(2014年度)は、企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし」の開催に向けての写真撮影と全体調整を行ったほか、企画展示室入り口のデザインなどの業務に携わった。また、水族トピック展示として新春1月2日から「鯉についての四方山話」を開催した。このトピック展示は、滋賀県立安土城考古博物館の「鯉に恋して」と連携した展示であり、滋賀県ミュージアム活性化推進事業として実施したものである。なお、会期中の入室者数は27,523人であった。

研究では、滋賀県内で確認されたウスイロオカチグサガイについての報告を日本貝類学会の「ちりぼたん」へ投稿した。ウスイロオカチグサガイは南西諸島などに分布する巻き貝であるが、近年日本各地で確認されるようになった種で、滋賀県で始めて確認されたことを報告した。また、2010年から取り組んでいるイチモンジタナゴの保全に関する研究では、本種の野生復帰を実施する場合の基礎的研究となる遺伝的多様性に関する論文を共著者として報告した。なお、オムロン野洲事業所で実施しているイチモンジタナゴの生息域外保全では、同事業所をはじめ他の協力機関とともに平成26年度の「しが生物多様性大賞」を受賞した。この他、魚類の性決定機構を解明する目的で、成長段階における精巢の発達状況についての研究を実施するための準備を進めた。共同研究「微小生物」では、微小生物の展示方法を考えるため、動物プランクトンの走光性を利用した、デジタルマイクロスコープによる観察方法の開発に取り組むとともに、淡水性のマミズクラゲや動物性プランクトンなどの飼育方法をマニュアル化することを共同研究者とともにまとめることができた。

リニューアルでは、水族展示、マイクロアクアリウム、C展示室の生き物コレクション、カメの池に携わり、展示のための資料や写真などの基礎的資料の収集を行った。

印刷物

【学術論文】

Kitazima, J., Matsuda, M., Mori, S., Kokita, T. and Watanabe, K. (2014) Population structure and cryptic replacement of local populations in the endangered bitterling *Acheilognathus cyanostigma*. *Ichthyological Research*, 62, The Ichthyological Society of Japan, Tokyo: 122-130.

【一般向けの著作】

松田征也 (2014) 琵琶湖八珍. おいしい琵琶湖八珍 文化としての湖魚食, サンライズ出版: 8-23.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也 (2014年6月20日) 滋賀県内に生息する5種類の小型貝類について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

松田征也 (2015年1月18日) カネヒラ稚魚調査. うおの会勉強会, はしかけ制度うおの会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「希少淡水魚における性決定について」, (2014年度).

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物の飼育技術開発および展示方法」（研究代表者：松田征也），研究代表者（2013～2015年度）．
科学研究費助成事業（基礎 B）「日本の博物館総合調査研究」（研究代表者：篠原 徹），研究分担者（2013～2015年度）．

【受賞など】

平成 26 年度 しが生物多様性大賞，2015 年 3 月 2 日，企業ビオトープにおけるイチモンジタナゴの生息域外保全研究，（オムロン野洲事業所、株式会社ラゴ、東海タナゴ研究会、琵琶湖博物館）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10 件．

2014 年 7 月 27 日，初心者のためのふなずし作り体験，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師，（山本充孝と共同）．

2014 年 7 月 29 日，生きものの飼い方，指導者向け博物館活用講座，琵琶湖博物館，講師．

2014 年 7 月 31 日，事業部について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師．

2014 年 8 月 5 日，琵琶湖の貝を調べよう，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導．

2014 年 9 月 6 日，水族展示バックヤードツアー，発見！びわ博フェスティバル とっておきの展示解説，琵琶湖博物館，案内，2 件．

2014 年 11 月 1 日，水族展示案内，企画展示関連イベント「魚米之郷」を楽しむ プレミアムレストラン，琵琶湖博物館，案内．

2015 年 1 月 25 日・2 月 22 日，水族バックヤード探検，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，企画・案内，2 件，（藤岡康弘・桑原雅之・山本充孝・金尾滋文と共同）．

他の博物館・機関等主催行事

2014 年 6 月 8 日，琵琶湖博物館について，関西大学，学芸員実習，琵琶湖博物館，講師．

2014 年 6 月 19 日，エコスクール協議会，大津市立逢坂小学校エコスクール協議会，大津市立逢坂小学校，委員．

2014 年 7 月 14 日，琵琶湖の環境と生物，文化振興事業団，平成 26 年度前期事業団職員研修，希望ヶ丘文化公園（滋賀県），講師．

2014 年 7 月 26 日，森の小さな生き物とくらし，日本生命，ニッセイ森の探検隊，琵琶湖博物館，総括．

2014 年 7 月 30 日，博物館のお仕事見学，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，琵琶湖博物館，講師．

2014 年 8 月 21 日，琵琶湖の魚について，伊川を愛する会，琵琶湖博物館，講師．

2014 年 8 月 4・25 日，夏休み体験教育，守山市，守山市下之郷遺跡観察会，守山市下之郷遺跡，講師，2 件．

2014 年 9 月 27 日，琵琶湖博物館について，草津市，草津市観光ボランティアガイド研修，琵琶湖博物館，講師．

2014 年 10 月 9 日，琵琶湖の生物，滋賀県高等学校理科部会，研修，琵琶湖博物館，総括．

2014 年 11 月 1 日，琵琶湖博物館の展示について，富山ビオトープ協議会，琵琶湖博物館，講師．

2014 年 11 月 8 日，湖上フォーラム，滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，司会進行．

2015 年 2 月 28 日，イケチョウガイについて，高知工科大学，博物館研修，琵琶湖博物館，講師．

2015 年 3 月 12 日，琵琶湖の魚と環境について，京都ライオンズクラブ，琵琶湖博物館，講師．

メディアへの協力

2014 年 12 月 21 日，朝日新聞，水槽から笑顔プレゼント，取材対応．

2014 年 12 月 21 日，京都新聞，サンタ、魚と遊泳 水槽から愛嬌，取材対応．

2015 年 1 月 15 日，日本経済新聞，軌跡 琵琶湖疏水 観光潤す，取材対応．

2015年2月14日, 京都新聞, 琵琶博 希少魚を譲渡, 取材対応.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ・博物館ニュース, 写真提供, 3件.
ザゼンソウ写真, 撮影, 123点.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水産総合研究センター増養殖研究所, コイ 12尾, 受贈.

他博物館・機関の活動

亀岡市文化資料館, アユモドキ 5尾, 貸出.
京都水族館, ハリヨ 30尾, 分譲.
京都水族館, ムサシトミヨ 30尾, 分譲.
姫路市立水族館, カネヒラ 50尾, 分譲.
東海タナゴ研究会, ウシモツゴ 50尾, 分譲.
水産総合研究センター増養殖研究所, ロングイヤーサンフィッシュ 15尾, 分譲.
水産総合研究センター増養殖研究所, パンプキンシード 15尾, 分譲.
水産大学校, コガタカワシンジュガイ標本 40個体, 貸出.
水産大学校, コガタカワシンジュガイ、カワシンジュガイ標本 41個体, 貸出.
岡山理科大学生物地球学部, 魚類咽頭歯標本, 貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年7月19日～11月24日, 第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」, 総括.
水族トピック展示, 企画・展示. 9件.
2015年1月2日～3月18日, 水族トピック展示「鯉についての四方山話」, 企画.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

他博物館・機関の活動

亀岡市文化資料館, 2014年8月2日～8月31日, ロビー展「アユモドキがやってきた」, 展示協力.

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース, 地域との連携について研修, 2014年7月9日, 講師, オムロン野洲事業所・守山市下之郷遺跡資料館.
冬休み特別企画, トンネル水槽内のサンタクロース, 企画, 2014年12月20日～25日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理, 副担当.
研究用アルコール管理, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，事務局。
滋賀県博物館協議会，事務局次長。
動物取扱主任。

【館外の活動】

1999年～，守山湖岸再生部会，委員。
2000年～，木浜内湖再生部会，委員。
2004年～，淀川水系アユモドキ連絡協議会(環境省)，委員。
2011年～，(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，ニッポンバラタナゴ種別計画管理者。
2011年～，(公社)日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ種別計画管理者。
2011年～，(公社)日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，イチモンジタナゴ種別計画管理者。
2012年～，大津市立逢坂小学校エコスクール支援委員会，委員。
2012年～，びわこビジターズビューロー 宣伝キャンペーン委員会，委員。
2013年～，(公社)日本動物園水族館協会 生物多様性委員会・保全戦略部，部員。
2013年～，亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)に係る環境保全専門家会議，委員。
2013年～，亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会，委員。
2014年～，特定非営利活動法人 西日本自然史系博物館ネットワーク，理事。
2014年～，愛知目標達成のための侵略的外来種リスト作成に向けた魚類ワーキンググループ，検討委員。
2014年～，侵略的外来種リスト作成に向けた魚類WG会合，検討委員。
2014年～，環境省近畿地方環境事務所 淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会，委員。
2014年～，関西広域連合広域環境保全局生物多様性検討委員会，委員。
2014年～，亀岡中部土地改良事業検討会，委員。

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。

共同研究「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」については、2年目になるがその成果の論文が印刷された。これは、滋賀トンボ調査グループの活動と現在までの成果をまとめたものである。多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトで発掘された昆虫化石について日本昆虫学会で発表するほか、多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第2回成果報告会においても発表した。科研費「ニッチ構築としての鳥の巣」のプロジェクトに共同研究者として参加しているが、今年度はカワウの巣の昆虫相についてのとりまとめを行った。東日本大震災で被災した陸前高田市立博物館の被災標本の修復の記事が昆虫（ニューシリーズ）に掲載された。一般向けの著述としては、「草津市の昆虫」、「寺林層の植物・昆虫化石」、「滋賀県のチョウ類の変化」などがある。

昨年度に引き続き研究部長として研究部の総括を行うほか、研究部代表者会議や研究審査会の運営に関わった。科学研究費補助金事業の学芸員全員申請に館として取り組み、申請書類に目を通すなどして採択率の向上にも努めた。また、琵琶湖環境研究推進機構の担当として、9機関連携研究の館内とりまとめを行った。

事業活動では、寄贈された村山修一氏の蝶類コレクション約3万点をデータベースに登録・公開したのが大きな成果である。標本の整理から登録・公開まで約3年かかったが、博物館の資料整備活動の重要な業績となる。寄贈された宮田彬氏コレクションについては、登録作業を始めたところである。新琵琶湖博物館の創造においてC展示室の「生き物コレクション」コーナーの主担当として、他の分類群の担当者と連携しながら実施設計を策定した。平成26年度滋賀県試験研究機関発表会「淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」では、発表会の司会を行うとともに、試験研究機関の紹介展示の運営をサポートした。

印刷物

【専門分野の著作】

八尋克郎・榊永一宏（2014）博物館だより（9）滋賀県立琵琶湖博物館における陸前高田市立博物館の被災した昆虫標本の修復. *昆虫（ニューシリーズ）*, 17（2）: 1-6.

河瀬直幹・澤田弘行・吉田雅澄・八尋克郎（2014）滋賀トンボ調査グループの活動と現在までの成果. *Aeschna*, 50: 27-31.

【一般向けの著作】

八尋克郎（2014）滋賀県のチョウ類の変化. *ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信*, 8: 2-3.

八尋克郎（2014）草津市の昆虫. *草津市の自然概要版*, 草津市: 30-32.

八尋克郎（2015）湖岸より 230 県の生物多様性を体感できる展示, *中日新聞*, 中日新聞社, 2月14日.

山川千代美・八尋克郎（2015）寺林層の植物・昆虫化石. *伊吹山大探検シリーズI「伊吹山を知るやさしい地学の本」*, 伊吹山ネイチャーネットワーク, 滋賀県彦根市: 25-27.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎・林 成多（2014年8月9日）昆虫化石について. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第2回成果報告会, あけぼのパーク多賀（滋賀県多賀町）, [口頭発表].

八尋克郎・林 成多（2014年9月16日）滋賀県犬上郡多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石。日本昆虫学会第74回大会，広島大学（広島市），〔口頭発表〕。

八尋克郎（2014年12月19日）鳥類の巢内共生系－カワウの巢の昆虫類を例にして－。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，〔口頭発表〕。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「カワウの巢の昆虫相に関する研究」，（2014年度）。

琵琶湖博物館共同研究「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」（研究代表者：河瀬直幹），研究副代表者（2012～2014年度）。

科学研究費助成事業（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巢：未知の共生系の進化生態学的研究」（研究代表者：上田恵介），研究分担者（2013～2015年度）。

科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」（研究代表者：高橋啓一），研究分担者（2014～2016年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会 2014・2015年度，評議員，2013年1月1日～。

日本環境動物昆虫学会第12期環境アセスメント動物調査手法研究部会，運営委員，2010年2月～。

滋賀オサムシ研究会，事務局，1997年度～。

地表性甲虫談話会会報，編集幹事，2004年度～。

Biogeography，査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2015年1月7日，滋賀県立大学，「博物館資料保存論」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2014年7月20日，昆虫，夏休み自由研究講座，琵琶湖博物館，講師，（南 尊演氏・武田 滋氏と共同）。

2014年8月3日，びわ湖バレイでアキアカネ調査に参加しよう，観察会，琵琶湖バレイ・大津市，（林 竜馬と共同）。

2014年8月5日，博物館周辺で昆虫採集をしよう，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2015年1月12日，平成26年度滋賀県試験研究機関発表会「淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」。琵琶湖博物館，〔司会〕。

視察対応

2014年6月3日，館内案内，独立行政法人国際協力機構 森林・自然環境保全第二課。

メディアへの協力

2014年4月2日，エフエム滋賀，平和堂マイデイリーライブ，滋賀県でトンボを研究し全国入賞の小学生，取材対応，（2014年4月1日）。

2014年7月25日，びわ湖放送ニュース，スズメバチについて，取材対応，（2014年7月24日）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応，昆虫に関する質問への回答，4件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫乾燥標本の寄贈.

昆虫乾燥標本の特別観覧，4件.

昆虫乾燥標本の貸出し，3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年1月25日～5月11日，トピック展示「近江はトンボの宝庫」，主担当.

他博物館・機関の活動

滋賀県試験研究機関研究発表会「淡海の未来を拓く～試験研究機関の挑戦～」，2014年12月20日～2015年1月12日，研究機関の紹介展示作成，担当.

【企画調整活動】

新任職員等研修，琵琶湖博物館の研究活動，講師，2014年4月15日，琵琶湖博物館.

新任職員等研修，C展示室生き物コレクション，講師，2014年4月23日，琵琶湖博物館.

JICA博物館学コース，博物館の研究活動および自然系資料の収集，講師，2014年5月27日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年6月・8月・10月，クエリー担当.

【館外の活動】

2011年4月1日～，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長.

2011年11月1日～，大津市環境影響評価委員.

2012年4月1日～，滋賀県環境審議会自然環境部会「指定希少野生動植物種および指定外来種の選定に関する選定小委員会」，専門委員.

2013年4月1日～，滋賀県生物多様性大賞，選考委員.

2014 年度は、これまでのカワウと森と人との関わりに関する論文執筆を推進し、より広く成果を発信するための書籍出版を目指して、琵琶湖博物館共同研究「カワウと森と人との関係史に関する研究成果の統合と発信」を立ち上げた。しかしながら、滋賀県博物館協議会事務局の業務、とくに文化庁による平成 26 年度文化芸術振興費補助金(地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」の業務と、新琵琶湖博物館創造準備室での C 展示室リニューアルの業務に多大な労力と時間を費やす必要が生じ、ほぼこの二つが今年度を代表する仕事となった。結果として、書籍出版のための論文執筆と原稿執筆を行うことができず、今後の立て直しをはかるための共同研究者との打合せで、書籍の章立てと今後の日程についての確認を行うにとどまった。

研究成果の発信としては、8 月末に立教大学で開催された 26th International Ornithological Congress (第 26 回国際鳥類学会議) で、鳥類による生態系サービスについてのシンポジウムのコンビナーの一人を務め、基調発表と当日の司会を行った。このシンポジウムは、以前から準備が進んでいる鳥類の生態系サービスに関する英語の本の内容に基づくもので、私自身の発表も、昨年度に提出した鳥による物質輸送に関する章の内容に関するものであった。この本は、外部の査読も終え、編集の最終段階となっている。

野外調査では、科学研究費補助金(基盤 B)「ニッチ構築としての鳥の巣」の一環として、フクロウの巣箱内のサンプル採集(愛知県豊田市)と、タカサゴシロアリの巣に営巣するリュウキュウアカショウビンの巣のサンプル採集(沖縄県西表島)を行った。サンプルのソーティングは終了し、共同研究者による昆虫類の同定は終わったが、主目的である安定同位体比分析はまだ終わっておらず、最終年度である次年度に分析結果を出すべく、処理を進める予定である。

新しい研究としては、琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」に研究分担者として参加し、3 回の研究会で発表や議論を行った。本格的な調査や資料収集はこれからだが、歴史学や考古学、地質学など、多様な分野の研究者との議論により、新しい視点の研究が進められるのではないかと期待している。

館内の研究部業務としては、生態系研究領域のグループリーダーとして学位取得希望者の研究発表の場を設け、学位論文の推進に務めた。また、当館の代表として、関西広域連合環境保全局の(仮称)関西の残したい自然エリア選定検討委員会に委員として出席し、滋賀県を中心とした自然エリア候補の情報提供と館内とりまとめを行った。関西広域連合では、他に、関西地域カワウ広域保護管理計画の推進に関する検討委員会と関西広域環境保全計画に関する有識者会議の委員も務め、県内のカワウ保護管理計画関連の協議会と同様、専門の立場から意見や情報を提供している。

研究以外の業務では、すでに述べたように、新琵琶湖博物館創造準備室で C 展示室のリニューアルの総括を務め、各展示コーナー関係者間の連絡調整、業者とのやりとりや調整、設計図書のチェックなどかなりの時間を費やした。全体調整はたいへん重要な業務と考え優先して行ったが、そのために自分自身の担当するコーナーの検討や資料の準備が遅れ、展示内容の十分な検討と準備が行えなかったのが悔やまれる。総務部企画調整課の業務としては、博物館実習担当と滋賀県博物館協議会事務局の業務を主に行った。後者には、県博協と環びわ湖大学・地域コンソーシアムからなる滋賀県博物館地域連携人材育成委員会の事業「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」もあり、県博協の記念事業委員会と共に、大学生向けのミニパンフレット発行や大学生による博物館・美術館ツアーの実施、大学生の意見や原稿を取り入れたウェブページの構築などを行った。あわせて、県博協自体の運営体制の見直しを図るため、数年ぶりに各委員会の幹事と副幹事を中心とした委員会幹事会の開催を行った。

印刷物

【学術論文】

Natsumeda, T., Sakano, H., Tsuruta, T., Kameda, K. and Iguchi, K. (2015) Immigration of the common cormorant *Phalacrocorax carbo hanedae* into inland areas of the northern part of Nagano Prefecture, eastern Japan, inferred from stable isotopes of carbon, nitrogen and sulphur. *Fisheries Science*, 81(1): 131-137.

【専門分野の著作】

亀田佳代子 (2014) 鶺鴒の山のカワウ. *BIOSTORY* (ビオストーリー), 21, 生き物文化誌学会: 88-89.
Kameda, K. (2015) Cormorant topics at the 26th International Ornithological Congress in Tokyo, Japan, 18-24 August 2014. *Cormorant News*, 3, The Newsletter of the IUCN - Wetlands International Cormorant Research Group: 8.

【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2014) 湖岸より 224 新しく生まれかわる琵琶湖博物館. *中日新聞*, 中日新聞社, 11月15日.
坂根隆治・岡田登美男・亀田佳代子 (2015) 鳥類. 滋賀自然環境研究会 編, *草津市の自然 2014*, 草津市: 18-20.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

亀田佳代子 (2014年5月31日) 森を介したカワウと人の近現代史. 琵琶湖博物館総合研究「自然観」研究会, 琵琶湖博物館総合研究代表者, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
亀田佳代子 (2014年8月23日) 自由集会「カワウを通じて野生生物と人との共存を考える(その17)ーカワウの管理 明日はどっちだ?ー」. 日本鳥学会2014年度大会, 日本鳥学会, 立教大学(東京都豊島区), [ディスカッション進行].
Kameda, K. O. and Fujita, M. S. (2014年8月24日) Nutrient Dynamics and Nutrient Cycling by Birds: Implications from East Asian Perspective. 26th International Ornithological Congress (第26回国際鳥類学会議), 立教大学(東京都豊島区), [口頭発表].
Wenny, D. G. and Kameda, K. O. (2014年8月24日) S08 Why Birds Matter: Birds' Ecological Functions, Ecosystem Services, and Value to Society. 26th International Ornithological Congress (第26回国際鳥類学会議), 立教大学(東京都豊島区), [企画・運営].
亀田佳代子 (2014年9月19日) 鳥類による養分輸送と物資循環ー東アジアの事例から生態系サービスを考えるー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
李屋貴士・中静 透・亀田佳代子 (2015年3月19日) カワウの営巣が森林動態に与える影響. 第62回日本生態学会大会, 日本生態学会, 鹿児島大学群元キャンパス(鹿児島市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「生態系機能としての鳥類の養分輸送機能の検討」, (2014年度).
琵琶湖博物館共同研究「カワウと森と人との関係史に関する研究成果の統合と発信」(研究代表者: 亀田佳代子), 研究代表者 (2014年度).
琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する共同研究ーI」(研究代表者: 藤岡康弘), 研究分担者 (2013~2016年度).
琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究分担者 (2014~2018年度).

科学研究費助成事業（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巣」（研究代表者：上田恵介），研究分担者（2013～2015年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会，評議員，2006年1月～2015年12月。

日本鳥学会，和文誌編集委員，2014年1月～2015年12月。

日本鳥学会員近畿地区懇談会，世話人，2000年1月～。

日本生態学会，生態学教育専門委員会委員，2010年4月～2016年3月。

日本生態学会，近畿地区会自然保護専門委員，2008年1月～2015年12月。

日本生態学会，近畿地区会委員，2014年1月～2015年12月。

「野生生物と社会」学会，「野生生物と社会」編集委員，2012年4月～2016年3月。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

東北大学大学院生，修士論文指導および情報提供。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

2014年8月3日，新琵琶湖博物館創造準備室の活動紹介・展示評価について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2014年12月13日，色とりどりの水鳥を観察しよう，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。

2014年12月21日，からすま半島の水鳥を観察してみよう，博物館で楽しもう，烏丸半島周辺・草津市，主担当，（日本野鳥の会滋賀共催）。

2015年3月15日，C展示室のリニューアルについて，はしかけミーティング，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2014年4月25日，滋賀事務所敷地内の生物多様性保全について，株式会社ダイフク，滋賀事務所アウトトラックツアー（CSR活動紹介），株式会社ダイフク滋賀事務所（滋賀県日野町），講師。

2014年6月17日，琵琶湖の鳥類について，埼玉県開智未来中学校，修学旅行時の自由学習，琵琶湖博物館，質問対応。

2015年3月7日，キジバトの繁殖生態，日本野鳥の会大阪支部・野鳥の会ひょうご・日本バードレスキュー協会，第8回鳥類学講座，大阪南港野鳥園（大阪市住之江区），講師。

メディアへの協力

2015年1月22日，京都新聞，琵琶湖のカワウの現状と今後の方向性について，取材対応，（2015年1月5日）。

2015年3月15日，読売新聞，兵庫県の明石公園にできたカワウの集団ねぐらについて，取材対応，（2015年2月21日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類資料の提供，受入・整理，66件。

鳥類資料（本剥製標本）の修理・クリーニング，31件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう，内容指導，2件。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，C 展示室生きものコレクションコーナー（鳥類）の説明，講師，2014年4月23日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学コース，Introduction to the Exhibits of the Lake Biwa Museum（琵琶湖博物館の展示概要），講師，2014年5月22日，琵琶湖博物館。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2014年10月21日，グランドプリンスホテル高輪（東京都）。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2014年12月23日，グランフロント大阪 ナレッジシアター（大阪府）。

博物館実習に関すること，主担当。

【研究部関連事業】

生態系研究領域の研究推進に関すること，主担当。

研究発信の総括に関すること，主担当。

国内の研究機関との連携に関すること，主担当。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

C 展示室実施設計の総括に関すること，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年7月1日～2015年3月31日，平成26年度文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）「滋賀県の博物館・美術館における大学生のための地域人材育成プロジェクト」，滋賀県博物館地域連携人材育成委員会，事務職員。

滋賀県博物館協議会，事務局。

【館外の活動】

2014年4月1日～2016年3月31日，京大大学生態学研究センター，協力研究員。

2006年8月1日～2016年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員。

2006年7月12日～2016年3月31日，農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ，委員。

2010年7月21日～2016年3月31日，滋賀県カワウ総合対策協議会，委員。

2014年1月6日～2016年3月31日，関西地域カワウ広域保護管理計画の推進に関する検討委員会，委員。

2014年8月18日～2017年3月31日，関西広域環境保全計画に関する有識者会議，委員。

2014年10月21日～2016年3月31日，関西の残したい自然エリア選定検討委員会，委員。

琵琶湖の集水域は、周囲を山地に囲まれた盆地状の地形を呈し、平地が広がる湖辺域では河川水や湖水を利用した多面的な機能を持った水田地帯が広がっている。そこで、これらの水田地帯においては、営農が地域の生きものや植物の生育にとって重要な生態系保全の役割を果たしている。このことから、地域の実情に応じた保全活動とあわせて活性化を目指す取り組みを普及発展させるため、地域住民とともに営農活動の生態的な機能効果を調査した。

調査は甲賀市甲賀町小佐治地先において、谷津田の湿田内に水路を設けて乾田化を図り、大型機械のスムーズな走行を助けるとともに、この水田内の水路に通年水位を確保した場合の生態的な機能効果を検証するため、2013年の冬季から2015年の冬季まで11回に分け生物調査を実施した。営農上の管理にあわせて、通年水路に水位が確保された圃場では、ドジョウやメダカなど継続して生態を確認することができたが、アメリカザリガニなど外来種の繁殖も確認されたことから、魚類、貝類、両生類、水生昆虫などの成育に効果的な維持管理を行うことで外来種も繁殖・成育に適した環境になるため、地域の貴重な生きものを継続して守る生態系保全の活動に加えて、外来種に対する対策が必要であることを示唆することができた。

これらの調査で得られたデータや資料は、農家や地域住民が水田地帯やその周辺において、営農や地域活動によって生きものを守っていく取り組みの基盤づくりに役立てたいと考える。

次に琵琶湖周辺の水循環モデルでは、1977年(S52年)から1985年(S60年)を想定した水収支が出され、その後1995年(H7年)を想定した水収支が出されている。1995年から約20年が過ぎ、県内の社会情勢や農業事情の変化から水収支に含まれている琵琶湖からの逆水かんがいについて、取水量の変化を把握するために、取水施設の調査と取水量のデータを取りまとめ、集水域に水を還流させる逆水かんがいについて、水循環モデルの精度向上を図るとともに節水を目指した水管理の現状を示唆することができた。

事業活動では、生活実験工房を中心に田んぼ体験教室を14回企画し、計344名の参加者に水稲作と暮らしに関する体験と田んぼの生きものに触れる機会を提供し、交流のきっかけづくりを行った。地域連携では、窓口として外部団体から39件の講師派遣依頼や館内での視察および講演依頼の対応を行った。また、一般向けの広報誌「琵琶博だより」を編集し4回の発行を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

- 水谷 智・楊 平・用田政晴・林 竜馬・里口保文・橋本道範・大塚泰介・安福俊幸 編(2014) *琵琶博だより*. 17, 琵琶湖博物館: 4p.
- 水谷 智・桑原雅之・井出充彦(滋賀県水産試験場)・榎永一宏・大久保実香・里口保文・橋本道範・大塚泰介・安福俊幸 編(2014) *琵琶博だより*. 18, 琵琶湖博物館: 4p.
- 水谷 智・橋本道範・澤邊久美子・林 竜馬・太田悠造・里口保文・大塚泰介・安福俊幸 編(2015) *琵琶博だより*. 19, 琵琶湖博物館: 4p.
- 水谷 智・芦谷美奈子・鈴木 武(兵庫県立人と自然の博物館)・前田雅子(フィールドレポーター)・石田未基(資料整理)・里口保文・橋本道範・大塚泰介・安福俊幸 編(2015) *琵琶博だより*. 20, 琵琶湖博物館: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

水谷 智 (2015年1月18日) 排水路泥だめの生態的役割について. うおの会勉強会, はしかけ制度うおの会, 琵琶

琵琶湖博物館， [口頭発表].

水谷 智 (2015年2月2日) 琵琶湖周辺の水収支における逆水かんがいについて. 平成26年度農業土木研究発表会, 滋賀県農政水産部耕地課, 滋賀県庁, [口頭発表].

水谷 智 (2015年2月20日) 琵琶湖周辺の水収支における逆水かんがいについて. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田地帯の排水路等における生態保全の基礎調査」, (2014年度).

【受賞など】

第71回農業農村工学会京都支部研究発表会 優秀賞, 2014年11月13日, 「排水路泥だめの生態的役割について」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

地域連携, 担当.

2014年4月~2015年3月, 体験教室 田んぼ体験, 琵琶湖博物館, 担当, 14件, (中川 優・はしかけと共同).

他の博物館・機関等主催行事

2014年5月10日, 須原田植え体験学習会, 須原魚のゆりかご水田協議会, 須原蓮池の里公園他 (滋賀県野洲市), 講師.

2014年6月7日, 魚のゆりかご水田プロジェクト体験イベント観察会, 滋賀県農村振興課, 栗見出在家 (滋賀県東近江市), 講師.

2014年6月14日, 竹町魚のゆりかご水田生きもの観察会, 竹町のしぜんを守る会, 竹町公民館 (滋賀県近江八幡市), 講師.

2014年6月21日, 須原魚のゆりかご水田学習会, 須原魚のゆりかご水田協議会, 須原蓮池の里公園他 (滋賀県野洲市), 講師.

2014年7月1日, 小佐治地域水田の生き物観察会, 小佐治環境保全部会, 佐山小学校 (滋賀県甲賀市), 講師.

2014年7月5日, みずすまし活動生き物観察会, 湖北地域みずすまし推進協議会, 坂田小学校 (滋賀県米原市), 講師.

2014年8月26日, 小佐治子供会生き物観察会, 小佐治環境保全部会, 甲賀もちふるさと館 (滋賀県甲賀市), 講師.

視察対応

2014年7月24日, 滋賀県の農業・環境の現状について, 龍谷大学・ナミビア大学.

2014年7月26日, 森の小さな生き物と暮らしについて (体験教室), ニッセイ「森の探検隊」日本生命保険相互会社.

2014年11月20日, 湖の環境と人びとの暮らしについて学ぶ, 大阪産業大学.

2015年2月3日, 幼児の食体験と昔の暮らしについて, せた森の幼稚園.

2015年3月4日, 琵琶湖周辺の水田地帯における生態について, 福島県相双農林事務所.

メディアへの協力

2014年9月11日, 米穀新聞, 田んぼ体験で稲刈り, 生活実験工房田んぼ体験行事, (2014年9月7日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖と川の魚の映像，貸出.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

生活実験工房，田畑の維持管理.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2014年8月6日，滋賀県立文化産業交流会館（滋賀県米原市）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度，琵琶博だより，編集委員.

2014年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，副参事を兼務.

【館外の活動】

2014年度，滋賀県農政水産部農村振興課 豊かな生き物育む水田づくり（魚のゆりかご水田），担当者.

2014年度，近畿農政局農村計画部資源課 水域ネットワーク調査業務，オブザーバー.

森林には、地球温暖化防止・環境保全・憩いの場など多面的な機能があり、特に身近な里山については、適切な手入れが継続されることで、その機能が維持されてきた空間である。しかしながら、暮らしの中でのエネルギー構造が変化し、里山資源は利用されなくなり放置された里山が増えてきた。近年、補助事業等の導入により里山の整備が進んでいる地域も一部にある。

現在、暮らしの多くの面で森林資源を利用していた頃とは違い、里山整備で生産される資源は、木質バイオマスエネルギー資源としての利用が想定されるが、導入にあたっては不確定要素が多い。しかし、里山の整備と資源利用を両立させることが、里山の機能保全に役立つ。

今年度は、里山整備における活動を通して里山に対する理解を深める方法について調査研究した。詳細事項としては、①里山整備と森林資源の有効活用、②森林環境学習の推進、③県民参画の森づくりなどを対象とした。

①は、はしかけ里山の会を支援する形で里山の資源利用を継承している。活動としては、木の名札づくり、薪づくり、原木キノコ栽培などを行った。

②については、兼務している県森林政策課の業務である森林環境学習「やまのこ」事業専任指導員等を対象とした研修会や、小学校教員を対象とした研修会での講師・指導助言などを行った。

③についても兼務している県森林政策課の業務である森づくり「県民講座」において、里山整備の方法に関する講師や指導助言などを行った。

交流事業としては、野洲市大篠原の里山周辺で体験教室を開催しており、四季を通じて4回企画運営した。担当しているはしかけ里山の会では独自活動を実施しており、この活動を支援してきた。

印刷物

【一般向けの著作】

安福俊幸 編 (2014) うみっこ通信, 12・13, 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 2件.

はしかけ運営「里山の会」, 担当.

2014年4月～2015年1月, 里山の四季を楽しむ, 里山体験教室, 滋賀県野洲市大篠原, 企画運営, 4件, (はしかけ「里山の会」共同).

2014年11月8日, 秋の里山を歩こう, 観察会, 滋賀県甲賀市水口町伴中山, 運営, (楠岡 泰・カワセミ自然の会・はしかけ「里山の会」と共同).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度, 琵琶博だより, 編集委員.

2014年度，滋賀県琵琶湖環境部森林政策課（林業普及センター）を兼務。

2014 年は南湖の沈水植物が非常に多い年だった。中でもコカナダモが急増し、7月下旬より流れ藻となって湖岸に大量に漂着したために大きな社会問題となった。この件について新聞各社より取材を受け、かねてより継続している沈水植物のモニタリングの成果を提供することができた。また、今年は9月上旬に南湖 52 地点で沈水植物の定量採取を行った。この調査により、南湖の沈水植物の総量が約 1 万 8 千トン (乾燥重量) で過去最大となったこと、コカナダモも増えたが、他の沈水植物も極めて多かったことが明らかとなった。定量調査の結果については論文として投稿中である。

印刷物

【一般向けの著作】

芳賀裕樹 (2014) 湖岸より 225 琵琶湖そのものが感じられる展示. 中日新聞, 中日新聞社, 11月29日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹(2014年11月21日)水草大繁茂! いったいなにが増えたのか?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「南湖の沈水植物分布の定量調査」, (2014年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

2014年7月23日, 琵琶湖の水質, 石部高校, 夏季集中講義「琵琶湖探求」, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年9月6日・7日, 琵琶湖の容(かたち), 発見!びわ博フェスティバル とっておきの展示解説, 琵琶湖博物館, フロアトーク, 4件.

2015年2月7日, 琵琶湖学習, 立命館守山中学, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 学習助言.

他の博物館・機関等主催行事

2014年5月28日, 琵琶湖・淀川の水質の話, 武庫川女子中学, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年6月4日, 琵琶湖・淀川の水質の話, 三方中学, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月24日, プランクトン採集と観察, 桑名高校, 夏季課外授業, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月26日, 赤野井湾の現状について, びわこ豊穰の郷, 赤野井湾探検会, 守山漁港(滋賀県守山市), 講師.

2014年8月5日, 琵琶湖の水質, 箕面市職員組合公営企業評議会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2014年4月8日，施設説明と琵琶湖の水質について，JICA 産業排水処理Bコース。

2014年7月17日，施設説明と琵琶湖の水質について，中国環境視察団。

2014年9月16日，施設説明と琵琶湖の水質について，長野県議会会派視察。

メディアへの協力

2014年8月25日，京都新聞，琵琶湖の水草大量発生，情報提供，(2014年8月23日取材対応)。

2014年8月26日，テレビ朝日，ANN ニュース 琵琶湖水草大量発生でカビ臭い，情報提供，(2014年8月24日取材対応)。

2014年8月28日，毎日新聞，南湖のコカナダモ大繁殖，情報提供，(2014年8月27日取材対応)。

2014年8月28日，中日新聞，水草 大量漂着で悪臭，情報提供，(2014年8月27日取材対応)。

2014年9月22日，読売新聞，琵琶湖の「厄介者」大発生…レガッタ大会も延期，情報提供。

2014年9月23日，朝日新聞，南湖水草が大量発生 飲み水や漁業に影響，情報提供，(2014年9月10日取材対応)。

2015年1月23日，京都新聞，琵琶湖 遠くから近くから 第1部 いま、水辺で(7)南湖の水草，情報提供，(2015年1月10日取材対応)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

広報戦略，主担当。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2014年8月3日，琵琶湖競艇場(滋賀県大津市)。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014年度，大津市科学館運営協議会，協議委員。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

文部科学省の科学研究費補助金(科研費)の研究「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」において研究代表者として採択された。現在、標本作製、種の記載やDNAの解析を行っている。

ドイツのポツダムで開催された第8回国際双翅目会議に出席し、「イソアシナガバエ族の生物地理」について口頭発表を行った。この会議の評議会委員に選ばれた。

日本昆虫学会が企画した日本昆虫目録の双翅目の巻で、ミズアブ科、シギアブ科、タマユラアブ科、コガシラアブ科、ツリアブ科、アシナガバエ科の6つの科について執筆し、出版した。

印刷物

【専門分野の著作】

- 榊永一宏 (2014) Family Stratiomyidae ミズアブ科. 日本昆虫目録編集委員会 編, 日本昆虫目録双翅目, 8 (1), 日本昆虫学会, 東京: 365-371.
- 榊永一宏 (2014) Family Rhagionidae シギアブ科, 日本昆虫目録編集委員会 編, 日本昆虫目録双翅目, 8 (1), 日本昆虫学会, 東京: 374-378.
- 榊永一宏 (2014) Family Pelecorhynchidae タマユラアブ科, 日本昆虫目録編集委員会 編, 日本昆虫目録双翅目, 8 (1), 日本昆虫学会, 東京: 373.
- 榊永一宏 (2014) Family Acroceridae コガシラアブ科, 日本昆虫目録編集委員会 編, 日本昆虫目録双翅目, 8 (1), 日本昆虫学会, 東京: 391-392.
- 榊永一宏 (2014) Family Bombylidae ツリアブ科, 日本昆虫目録編集委員会 編, 日本昆虫目録双翅目, 8 (1), 日本昆虫学会, 東京: 392-394.
- 榊永一宏 (2014) Family Dolichopodida アシナガバエ科, 日本昆虫目録編集委員会 編, 日本昆虫目録双翅目, 8 (1), 日本昆虫学会, 東京: 439-447.

【一般向けの著作】

- 榊永一宏 (2014) どこでもだれでもフィールド情報 2「ヨシ帯の忍者アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys」. 琵琶湖博だより, 18, 琵琶湖博物館: 3-4.
- 榊永一宏 (2015) 湖岸より 231 研究の成果 展示する博物館. 中日新聞, 中日新聞社, 2月28日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 榊永一宏 (2014年8月11日) Biogeography of the tribe Aphrosylini (Diptera: Dolichopodidae). 8th International Congress of Dipterology, ドイツ・ポツダム, [口頭発表].
- 榊永一宏 (2015年1月16日) アシナガバエ科 *Abatetia* 属の分類と系統関係. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖

博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」, (2014 年度).
科学研究費助成事業 (基盤 B) 「日本の博物館総合調査研究」 (研究代表者: 篠原 徹), 研究分担者 (2013~2015 年度).
科学研究費助成事業 (基盤 C) 「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」 (研究代表者: 榊永一宏), 研究代表者 (2014~2016 年度).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

アメリカ昆虫学会, Entomological News, 査読, 1 件.
Zootaxa, 査読, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11 件.
2014 年 7 月 20 日, 昆虫, 夏休み自由研究講座, 講座, 琵琶湖博物館, 講師.
2014 年 8 月 5 日, 交流事業について, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.
2014 年 8 月 23 日, 竹筒トラップでハチを観察しよう, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2014 年 4 月 12 日, 川の中の生きもの探し, TANAKAMI こども環境クラブ, 観察会, 天神川 (滋賀県大津市), 講師.
2014 年 5 月 17 日, 川の中の生きもの観察会, ホタルの学校, 観察会, 千丈川 (滋賀県大津市), 講師.
2014 年 6 月 8 日, 千丈川の水生昆虫等についての講話, ホタルの学校, ほたるのタベ, 千丈川 (滋賀県大津市), 講師.
2014 年 7 月 26 日, 森の探検隊, 日本生命保険相互会社, 観察会, 琵琶湖博物館, 講師.
2014 年 8 月 25 日, 琵琶湖博物館へ行こう, ホタルの学校, 観察会, 琵琶湖博物館, 講師.
2014 年 10 月 4 日, 復刻版川探検に行こう, コープしが, 観察会, 千丈川 (滋賀県大津市), 講師.
2014 年 10 月 18 日, 博物館の概要と展示のについて, 公益財団法人生涯学習かめおか財団, 博物館見学, 琵琶湖博物館, 講師.
2015 年 1 月 24 日, 川で見られる昆虫, 京都府立亀岡高等学校, 博物館見学, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2014 年 7 月 16 日, 環境学習施設先進地視察, かごしま環境未来館, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2014 年 4 月 20 日, 琵琶湖博物館フィールドレポーターの交流会を開催します, 資料提供.
2014 年 5 月 2 日, 三重テレビ放送, フィールドレポーター制度・はしかけ制度について, (2014 年 4 月 18 日取材).
2015 年 2 月 22 日, KBS 京都放送, 地域発見! 参加型移動博物館について, (2015 年 2 月 22 日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース, 維持管理.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），500件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップの展示，更新と維持管理。

2014年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」顕微鏡で虫を観る展示，更新と維持管理。

2014年度，研究最前線，更新。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，交流事業について，講師，2014年4月15日，琵琶湖博物館。

新任職員等研修，C展示室空からみた琵琶湖・わたしたちのくらし50年・川岸林と川の生き物たち・川の生き物をしらべる・ホテルと人と環境と，講師，2014年4月23日，琵琶湖博物館。

事業に関する資料提供，1件。

JICA博物館学コース，交流空間のリニューアルについて，講義，2014年5月28日，琵琶湖博物館。

地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2015年2月22日，イズミヤ堅田店（滋賀県大津市）。

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

2014年度，交流ワーキング総括。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度，滋賀県博物館協議会，広報委員会，委員。

【海外渡航】

2014年8月7日～20日，ドイツ，第8回国際双翅目会議参加・発表。

【館外の活動】

2014年4月～2015年3月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員。

2014年8月～，International Congresses of Dipterology, Members of the Council.

2015年1月～，日本昆虫学会、電子化推進委員。

2015年3月～10月，博物館白書編集委員会，編集委員。

事業活動である新琵琶湖博物館創造準備室の一員として、年度内の実施設計策定に向け多くの時間を費やし、C 展示室におけるとりまとめ補助や、展示評価、行政機関への調整を主に担当した。また、展示担当においては、「集う・使う・創る 新空間」運営の主担当を務め、年間を通じて継続して展示を行った。また、企画展示「魚米之郷ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」における進行管理およびディスカバリールーム運営の副担当を務めた。

研究活動としては、「県環境行政施策資料の整理と活用」をテーマとした。県の環境行政は、県公害防止条例が制定されてから約 40 年が経過し、複雑かつ多様化しつつある。この県の各環境行政施策の位置づけを明確にするため、個別事業を系統立てて整理することなどにより、施策の概観をとりまとめるべく検討を進めている。

今年度は、過去の行政資料、滋賀県史などを調べることにより、県の公害問題初期における県と全国での対応を年表形式で比較するとともに、県公害行政機関の成り立ちやこれまでの変遷、環境白書記載内容の変遷などについてとりまとめを行った。また、環境行政の広がりを示すために、県環境行政の主な施策と開始時期や、施策分野ごとの変遷年表および施策の流れについて整理し、県環境行政施策を策定していく上での特徴（変化していく対応と変化しない対応など）について考察を行った。検討した結果の一部については、研究セミナーや滋賀県琵琶湖環境部主催の部門研修で発表・話題提供を行った。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

浦山重雄（2014 年 11 月 21 日）県環境行政施策の成り立ちと概要について。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「県環境行政施策資料の整理と活用」，（2014 年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8 件。
はしかけ運営「ザ・ディスカバはしかけ」，副担当。

他の博物館・機関等主催行事

2014 年 7 月 28 日，びわ湖の水のひみつ，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，出張出前講座「びわ湖の日制定 30 周年記念事業」，私立東山中学校（京都市），講師。

2014 年 11 月 9 日，環境と人間～滋賀県環境行政からの視点を中心に～，天理市井戸堂公民館，講演，琵琶湖博物館，講師。

2015 年 1 月 23 日，滋賀の環境行政史序説～行政施策資料から歴史をひも解く～，滋賀県琵琶湖環境部，平成 26 年度琵琶湖環境部部門研修（一般研修），滋賀県庁，話題提供・パネラー。

2015年3月14日, 身近な環境から考える, パナソニック株式会社アプライアンス社, 講演, 琵琶湖博物館, 講師.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年7月19日～11月24日, 琵琶湖博物館第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」, 進行管理, 担当.

「集う・使う・創る 新空間」運営, 主担当.

ディスカバリールーム運営, 副担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース, 実地研修・講師, 2014年6月9日～11日, 国立新美術館(東京都港区)・国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市).

地域発見!参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年7月27日～28日, 私立東山中学校(京都市).

地域発見!参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年8月5日～6日, 滋賀県立文化産業交流会館(滋賀県米原市).

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

C展示室実施設計, とりまとめ補助・展示評価担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課環境管理担当, 副主幹を兼務.

2014年度は、イバラモについての申請専門研究の1年目であった。十数年ぶりに琵琶湖での潜水調査を行い、1990年代に調査地であった長浜市湖北町・びわ町沖で、かつての調査群落を探索することからフィールドワークを再開することができた。この研究は学位論文に関わるものであるが、2014年度は研究に適した沈水植物群落を求めて琵琶湖北湖の東岸と西岸を見て歩いた。本格的な実験やデータ採取はこれからの課題である。

研究全般については、博物館学の分野で科研費の基盤研究S「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」(代表者：国立科学博物館・小川義和)に関して、滋賀県東近江市の複数の博物館に協力館として入ってもらうことになり、今後の発展が見込めるようになった。次年度には、複数館でテーマを決めて学習プログラムを展開したいと考えている。またこの科研については、学会発表も行った。

事業に関しては、交流担当に異動し、自由研究講座の担当となった。また「タンポポ調査・西日本2015」という広域調査が2014年3月より始まり、2014年度は予備調査として約650の頭花サンプルを収集した。この調査は2015年の5月末まで続くので、2014年の調査では手薄であった湖東地域の調査を積極的に行いたいと考えている。引き続きJICA博物館学集中コースの副担当者として、企画や受け入れを行った。2015年度から新たな契約期に入る予定であり、コースも博物館学に集中した内容というよりも地域開発を主眼に入れたものとなり、専門委員として策定に関わった。

これら研究、事業以外の仕事としては、C展示室のリニューアルの実施設計に、「ヨシ原を歩いてみると」と「生き物コレクション」の一部(陸上植物、水生植物・湿生植物・海浜植物、菌類)の担当者として関わった。

印刷物

【専門分野の著作】

芦谷美奈子・北村美香(2014) 関西地区(滋賀県)における「科学リテラシーパスポートβ」の実践と考察. 日本科学教育学会年会論文集, 38, 日本科学教育学会: 71-72.

【一般向けの著作】

芦谷美奈子(2014) 湖岸より 226 ヨシの価値を考える. 中日新聞, 中日新聞社, 12月14日.

芦谷美奈子(2015) 身近なタンポポを調べてみませんか?—5年に一度の広域調査を実施中—. 琵琶博だより, 20, 琵琶湖博物館: 1-2.

芦谷美奈子(2015) いっしょにタンポポをしらべませんか?—「タンポポ調査・西日本2015」という調査をやっています—. うみっこ通信, 13, 琵琶湖博物館: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芦谷美奈子・北村美香(2014年9月15日) 関西地区(滋賀県)における「科学リテラシーパスポートβ」の実践と考察. 第38回年会, 日本科学教育学会, 埼玉大学(さいたま市), [口頭発表].

芦谷美奈子(2014年9月20日) 水生植物の雌雄と花粉媒介～文献レビュー～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「イバラモの繁殖生態学的研究」，(2014年度).

琵琶湖博物館共同研究『人をつなぐ人材』を軸とした戦略的博物館学への展開(研究代表者：戸田 孝)，副代表者(2012～2014年度).

科学研究費助成事業(基盤 C)「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」(研究代表者：平賀伸夫)，研究分担者(2013～2018年度).

科学研究費助成事業(基盤 S)「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」(研究代表者：小川義和)，研究分担者(2012～2016年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「植物観察の会」，運営.

はしかけ「タンポポ調査」，運営.

2014年4月26日，からすま半島たんぼぼ調査，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師.

2014年5月10日，タンポポ調査にチャレンジ，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師.

2014年7月20日，夏休み自由研究講座，琵琶湖博物館，担当者.

2014年8月3日，展示評価，博物館実習，琵琶湖博物館，講義と実習.

2014年8月9日，日光写真でアート 水草編，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師.

2015年3月22日，タンポポ勉強会，タンポポ調査関連行事，琵琶湖博物館，担当者.

他の博物館・機関等主催行事

2014年6月7日，博物館概要，独立行政法人 土木研究所，防災政策プログラム 水災害リスクマネジメントコース，琵琶湖博物館，講師.

2014年6月9日，赤野井・オオバナミズキンバイから琵琶湖の明日を考える，びわ湖の水と環境を守る会，びわ湖サロン，明日都大津(滋賀県大津市)，講師.

2014年6月17日，ヨシの生態と固有魚保全におけるその役割，開智未来中学校，琵琶湖湖沼学習フィールドワーク探究活動，琵琶湖博物館，講師.

2014年11月19日，琵琶湖 湖辺の植物観察，NHK 学園，現地研修，琵琶湖博物館，講師.

2015年2月1日，ヨシのお話，コミュニティセンター大宝西，館外研修，琵琶湖博物館，講師.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

JICA 博物館学コース，ディスカバリールームの考え方と運営，講師，2014年5月27日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学コース個別研修，ワークショップの説明「インターナショナルコーナーをつくろう」，講師，2014年7月8日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学コース，副担当者，2014年5月22日～28日(一般研修)・2014年7月8日～12日(個別研修)，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員(黒岩啓子)，受入担当.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

C 展示室リニューアル，ヨシ原を歩いてみると，担当者.

C 展示室リニューアル，生き物コレクション（陸生植物・水生湿生海浜植物・菌類），担当者.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員.

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員.

2011年4月～2015年3月，JICA 博物館学コース運営委員会，専門委員.

本年度の研究は5つの分野を重点的に行った。日本の淡水カイミジンコの分類と生態についての研究を続け、論文を書き、そのなかには4新種の記述が含まれている。カイミジンコの精子の長さについての最初の論文を終了し、この研究は出版された。この主題についての第2の論文のためのデータ収集を開始した。マルカイミジンコについての論文を書き、これはかつて日本で誤って同定された種である。オーストラリアの世界遺産の場所で見つかった化石カイミジンコについて各国の科学者と協力し、この研究は出版された。「新たな生物進化モデルの展開：日本海多様化工場説とその世界的インパクト」プロジェクトのために、金沢大学の研究者とともにカナダへ10日間行き、淡水カイミジンコと海水カイミジンコを収集した。そしてその淡水カイミジンコの分類を行っている。

6月に韓国のソウルで開かれたAsian Ostracod Meetingにゲストスピーカーとして参加した。学術誌Zootaxaの編集者として招かれ、了承した。

自分のホームページにある淡水カイミジンコのチェックリストを更新し、韓国の淡水カイミジンコのチェックリストを追加した。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J., Matzke-Karasz, R., Kamiya, T. and De Deckker, P. (2014) Sperm lengths of non-marine cypridoidean ostracods (Crustacea). *Acta Zoologica*, doi: 10.1111/azo.12099.
- Smith, R. J., Lee, J. and Chang, C. Y. (2014) Nonmarine Ostracoda (Crustacea) from Jeju Island, South Korea, including descriptions of two new species. *Journal of Natural History*, <http://dx.doi.org/10.1080/00222933.2014.946110>, 1-40.
- Smith, R. J. and Kamiya, T. (2014) The freshwater ostracod (Crustacea) genus *Notodromas* Lilljeborg, 1853 (Notodromadidae) from Japan; taxonomy, ecology and lifestyle. *Zootaxa*, 3841: 239-256.
- Matzke-Karasz, R., Neil, J. V., Smith, R. J., Symonová, R., Morkovský, L., Archer, M., Hand, S. J., Cloetens, P. and Tafforeau, P. (2014) Subcellular preservation in giant ostracod sperm from an early Miocene cave deposit in Australia. *Proceedings of the Royal Society Series B*, 281, 20140394.

【専門分野の著作】

- Smith, R. J. (2014) Chapter 28 - Introduction to the Ostracoda. In: Martin, J.W., Olesen, J. and Hoeg, J.T. Eds., Atlas of Crustacean Larvae, *Johns Hopkins University Press*, Baltimore: 164.
- Smith, R. J. (2014) Chapter 29 - Ostracoda:Podocopa. In: Martin, J.W., Olesen, J. and Hoeg, J.T. Eds., Atlas of Crustacean Larvae, *Johns Hopkins University Press*, Baltimore: 165-168.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- スミス ロビン (2014年5月16日) オーストラリアのクイーンズランド州リバースレー世界遺産で発見された中新世時代のカイミジンコの巨大精子の化石について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Smith, R. J., Matzke-Karasz, R., Kamiya, T. and De Deckker, P. (2014年6月24日) Sperm lengths of non-marine cypridoidean ostracods (Crustacea). Asian Ostracod Meeting, Seoul, South Korea.

【インターネットページでの公表】

Nature News (2014年5月14日) Giant sperm found in crustacean fossils.

<http://www.nature.com/news/giant-sperm-found-in-crustacean-fossils-1.15218>, Nature Publishing Group.

History in the Headlines (2014年5月14日) Scientists Find World's Oldest Sperm.

<http://www.history.com/news/scientists-find-worlds-oldest-sperm>, A&E Television Networks.

Morning Mix (2014年5月14日) World's oldest sperm discovered. And it's gigantic.

<http://www.washingtonpost.com/news/morning-mix/wp/2014/05/14/worlds-oldest-sperm-discovered-and-its-gigantic/>, The Washington Post.

News, Technology & Science (2014年5月14日) Giant 17 million-year-old sperm found in shrimp fossil in Australia.

<http://www.mirror.co.uk/news/technology-science/science/giant-17-million-year-old-sperm-found-3542658>, The Daily Mirror.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「東アジアのカイミジンコデータベースの拡大」, (2014年度).

科学研究費助成事業(基盤B)「新たな生物進化モデルの展開: 日本海多様化工場説とその世界的インパクト」(研究代表者: 神谷隆弘), 研究分担者 (2014~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zootaxa, 編集者.

Zootaxa, 査読, 3件.

Revista Mexicana de Biodiversidad, 査読, 1件.

Universitat De València, PhDの査読, 1件.

琵琶湖博物館学芸員の書いた英文(論文等)の英文添削, 11件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

田んぼの生き物調査グループ, ミーティング・調査, 協力.

2014年12月21日, アトリウムコンサート, 運営補助, 琵琶湖博物館.

他の博物館・機関等主催行事

2014年5月21日, Lake Biwa, 講義, 高校生, 琵琶湖博物館.

2014年5月28日, Lake Biwa, 講義, 高校生, 琵琶湖博物館.

2014年6月11日, Lake Biwa, 講義, 京都インターナショナルスクール, 琵琶湖博物館.

視察対応

2014年4月12日, 講義・展示案内, ベトナム科学アカデミー環境科学技術研究員.

2014年5月22日, 展示案内, 研修員.

2014年6月21日, 講義, 研修員.

2014年7月15日, 展示案内, インドネシア共和国パプア州ジャヤプラ県首長.
2014年7月22日, 講義・展示案内, JICA 草の根プロジェクト (フィリピン).
2014年9月21日, 展示案内, 大阪教育大学 JICA プログラムアフリカ各国.
2014年11月4日, 展示案内, 校長.
2014年11月16日, 講義, JICA 課題研修「アフリカ地域都市上水道技術者養成」コース.
2015年1月27日, 講義, 中国昆明理工大学等.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新, 多数.
英語版ホームページのデザイン, 変更.
日本の淡水カイミジンコの検索表, 更新.
図書業務, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

世界の湖の展示コーナー, 清掃・管理.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

マイクロアクアリウム, 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2014年8月17日～27日, カナダ, 共同研究のための標本収集.

専門研究のテーマである、ろ過槽等飼育器材の消毒に及ぼす阻害物質の影響について調査・研究を開始した。当館で飼育している魚類に毎年同じ魚病が発生する原因のひとつは飼育環境中に感染源が残存しているためと仮説を立てた。本年度は感染源がろ過槽中にあると仮定してなぜ残存するかを検証した。具体的には水槽の消毒に使われている十分な殺菌濃度の有効塩素（次亜塩素酸ナトリウム）がろ材を通過すると瞬時に不活化されることを現場レベルで確認した。今後は、次亜塩素酸ナトリウムの不活化に影響する要因を明らかにするとともに、ろ過槽等の飼育環境から病原体の検出を試みる予定である。また、農林水産省からの委託研究として水田における環境保全型農業と慣行農業が生物多様性に及ぼす影響調査の魚類・両生類分野を共同研究者として琵琶湖周辺と愛知県の3地域において実施した。その他研究成果として、産卵床で卵を守るオオクチバスを竿釣りで効率的に捕獲する方法を開発し、日本水産増殖学会で発表した。

水族展示では水族維持管理、飼育技術習得するとともに、第27回水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』ーヨシ原を利用するいきものたちー」およびミュージアム活性化推進事業連携企画展示水族トピック展示「鯉についての四方山話（よもやまばなし）」を分担担当した。

博物館の事業では、地域発見！参加型移動博物館事業の主担当として県外8件（東京都、大阪府、京都府は各2回、愛知県、三重県は各1回）および県内15件の計23件を企画・運営した。今年度は移動博物館への来場者の関心をより高めるために「ヨシ笛づくりに挑戦」と「オリジナル缶バッジ作り」のワークショップを行い、何れも非常に好評だった。また、国際交流担当として外国からの来館者の対応・調整を行い国際な交流を推進した。

新琵琶湖博物館創造準備室では、水族・マイクロアクアリウム展示担当として実施設計のとりまとめ補助、展示評価・アドバイザー等を担当した。

印刷物

【一般向けの著作】

山本充孝（2014）琵琶湖における外来魚（オオクチバス・ブルーギル）対策について．ヨシでびわ湖を守るネットワーク通信，20，コクヨ工業滋賀：2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山本充孝（2014年10月18日）オオクチバス繁殖なわばり雄の効率的な捕獲方法（アユの友釣りならぬバスの敵釣り）．日本水産増殖学会第13回大会，日本水産増殖学会，広島大学（広島県東広島市），[口頭発表].

山本充孝（2014年10月17日）琵琶湖におけるコイヘルペスウイルスの現状．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表].

笹川 洸・山本充孝・小林俊将・安川洋生（2014年11月30日）生命科学教育試料としてのアユ冷水病菌の検討．平成26年度第2回日本科学教育学会研究会，日本科学教育学会，山形大学（山形市），[口頭発表].

菅原 友・山本充孝・安川洋生（2015年1月10日）アユ冷水病菌ニジマス由来株のGxGxxGモチーフを有するタンパク質．第2回水環境学会東北支部研究発表会，日本水環境学会東北支部，東北工業大学八木山キャンパス（仙台市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「ろ過槽等飼料器材の消毒に及ぼす阻害物質の影響」, 2014年度.

琵琶湖博物館共同研究「スレ症を目的とした塩水浴の治療メカニズムの解明」(研究代表者: 山本充孝), 研究代表者(2014年度).

農林水産省委託プロジェクト「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト研究」(研究代表者: 夏原由博), 水田魚類調査担当(2013~2017年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 7件.

2014年6月14日, びわこの魚を解剖しよう, わくわく探検隊, 体験プログラム, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月26日・27日, 初心者のためのふなずし作り体験, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 企画・講師, 2件, (松田征也と共同).

2014年8月5日, 外来魚について調べよう, 第38回自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年9月6日, 水族展示バックヤードツアー, 発見!びわ博フェスティバル とっておきの展示解説, 琵琶湖博物館, 案内, 2件.

2015年1月25日・2月22日, 水族バックヤード探検, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 案内, 2件, (藤岡康弘・松田征也・桑原雅之・金尾滋文と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2014年5月15日, 外来魚について, レイカディア大学, 琵琶湖外来魚駆除釣り大会, 琵琶湖湖岸, 講師.

2014年6月18日, 琵琶湖の魚について, サロン七光, 琵琶湖の魚とフナずしについて, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年6月29日, 琵琶湖外来魚の現状と問題点に関する講義, 外来魚駆除と解剖の実習, プランクトン採集と観察の実習, 近畿大学水産学科, 学外実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年7月9日, 外来魚解剖教室, 私立東山高等学校, 講座, 東山高等学校(京都市左京区), 講師.

2014年7月13日, 博物館夏祭り, ビバシティ彦根, 企画.

2014年7月22・23日, 琵琶湖の魚, 滋賀県水産課, 夏休み親子水草と魚学習会, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2014年11月12日, アユの病気と放流事業について, 岐阜県漁業協同組合連合会, 琵琶湖博物館, 講師.

2015年2月10日, 琵琶湖のアユについて, 大津ロータリークラブ, 琵琶湖ホテル(滋賀県大津市), 講師.

視察対応

2014年4月30日, Alien fish species in Lake Biwa, アルバータ大学(カナダ)・京都大学農学部.

メディアへの協力

2014年7月1日, 県広報誌「滋賀プラスワン」平成26年(2014年)7・8月号vol.150, 特集 水の流れとともに、ひろがる琵琶湖への想い 7月1日は「びわ湖の日」に移動博物館を紹介, (2014年5月15日取材対応).

2015年1月5日, 朝日新聞, トピック展示「鯉についての四方山(よもやま)話」, コメント, (2015年1月4日取材対応).

2015年3月22日, 朝日新聞三重地方版, 三重県立総合博物館での移動博物館開催, コメント, (2015年3月21日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.
魚類等資料収集, 5件 (淡水魚、甲殻類、扁形動物) .

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

2014年7月19日～8月31日, 第27回水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』ーヨシ原を利用するいきものたちー」, 分担担当.

2015年1月2日～3月18日, 水族トピック展示「鯉についての四方山話 (よもやまばなし)」, 分担担当.
モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

国際交流事業の推進, 主担当.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 主担当.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年4月27・29日, ピアザ淡海.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年5月10日, なごや生物多様性センター (名古屋市) .

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年7月20・21日, ウォーターステーション琵琶.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年7月27・28日, 東山中学校 (京都市) .

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年8月5・6日, 滋賀県立文化産業交流会館.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年8月27日, 草津市役所.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年8月31日, 三井アウトレットパーク竜王.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年9月5日～7日, イオンモール草津.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, , 2014年9月13日～14日, 烏丸半島芝生広場.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年10月12日, 湖南省総合体育館.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年10月21日, グランドプリンスホテル高輪 (東京都港区) .

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年11月7日, 瀬田北中学校 (滋賀県大津市) .

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年11月8・9日, JR大阪駅 (大阪市) .

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2014年12月14日, ピアザ淡海.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, , 2014年12月31日～2015年1月6日, 大津プリンスホテル.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2015年2月22日, イズミヤ堅田店.

地域発見! 参加型移動博物館事業, 展示説明・維持管理, 2015年3月21・22日, 三重県総合博物館 (三重県津市) .

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

水族・マイクロアクアリウム展示室実施設計, とりまとめ補助・展示評価・アドバイザー担当.

2014年11月29日, マイクロアクアリウム展示評価, 運営 (共同) .

2014年12月18日, 水族展示アドバイザー (水族館プロデューサー中村元氏) 来館, 運営 (共同) .

2014年12月20日～23日, 水族ドライ展示展示評価, 企画・運営 (共同) .

2015年1月22日, マイクロアクアリウム展示アドバイザー (神戸大学洲崎准教授) 来館, 運営 (共同) .

専門研究のテーマである水田地帯における各魚種の季節消長や利用目的、そして保全にむけた試みについて、今年度も継続して調査・研究を行った。また、これまでの研究成果をまとめ、「琵琶湖周辺域における水田利用魚類の保全生態学的研究」と題して学位論文を滋賀県立大学に提出し、公聴会を経て、2015年1月に博士（環境科学）を取得した。

共同研究者となっている総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」では、魚類班班長として各研究の取りまとめを行ったほか、滋賀県内における各河川魚類相について分布パターンが検討できる基礎資料をまとめた。今年度は主に湖東地域を流れる犬上川水系と芹川水系の魚類相について、これまで長年行ってきた調査の成果をまとめ、論文を投稿した。また、ナマズ類などの遺伝的多様性に関する研究のため、滋賀県内に生息するナマズ属3種のうち、特にイワトコナマズのサンプリングを行ない、合計100個体からDNAを抽出するためのサンプルを採集した。また、博物館学研究領域にかかわる研究として、観察会や学校の授業を通じた参加型調査に関わる学会発表を行った。今後も、観察会などを通じたモニタリング調査の有効性や、観察会が地域自然史の知見を得るための場となりうる可能性について研究を続けていく予定である。

また、今年度、事業部資料活用グループでは資料活用担当となり、博物館資料の特別観覧、貸出しの手続きを行った。当館の資料の中でも映像資料のニーズは高く、印刷物、教育、報道目的に加え、近年では企業の環境活動の一環としてのニーズも増加しはじめており、利用目的の申請が多様化している。これらのニーズに適応できるよう今後とも工夫をしていく予定である。

水族展示では水族維持管理、飼育のためのノウハウを実務も交えながら学んでおり、早期の専門的な技術習得を目指している。

新琵琶湖博物館創造準備室では、水族展示担当としてワーキンググループの運営や展示業者との話し合いを行ない、展示空間水族展示部分の基本計画をまとめた。まだまだ課題は多いが、魅力ある展示をめざし、多くのスタッフと協力して計画をまとめていきたいと考えている。

印刷物

【学術論文】

金尾滋史（2014）琵琶湖周辺域における水田利用魚類の保全生態学的研究．滋賀県立大学大学院環境科学研究科博士論文．

【専門分野の著作】

藤野勇馬・金尾滋史（2014）中池見湿地で確認されたナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea eogea* Pilsbry, 1919 について．福井市自然史博物館研究報告，61，福井市自然史博物館：75-76．

金尾滋史（2015）野生生物生息状況調査～魚類・貝類編～ 滋賀県におけるモツゴの分布について．平成25年度滋賀県生きもの総合調査報告書，滋賀県生き物総合調査委員会：34-42．

【一般向けの著作】

金尾滋史（2015）湖岸より 233 水族展示に川魚屋さんが出現!?. 中日新聞，中日新聞社，3月28日．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 金尾滋史（2014年6月4日）滋賀県における地域と協働した希少淡水魚カワバタモロコの生息域外保全にむけた取り組み. 第58回近畿ブロック水族館技術者研究会, 日本動物園水族館協会, ホテル蒲郡（愛知県蒲郡市）. [口頭発表].
- 金尾滋史（2014年6月20日）魚のゆりかご水田にはどのような効果があったのか?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史（2014年12月14日）水辺の観察会は重要な調査の場でもある ～小学校の授業から発展した河川魚類相モニタリング～. 第55回日本動物園水族館教育研究会仙台大会, 日本動物園水族館教育研究会, 東京エレクトロンホール宮城（仙台市）, [口頭発表].
- 大塚泰介・金尾滋史（2014年12月21日）第5回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [企画運営].
- 金尾滋史（2014年12月21日）滋賀県東部のため池群における魚類の分布とその由来. 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史（2014年12月21日）ミニシンポジウム「知られざる田んぼの生き物とその研究者たち」. 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [司会進行].
- 金尾滋史（2015年3月14日）琵琶湖周辺域における水田利用魚類の保全生態学的研究. 第60回魚類自然史研究会, びわこ成蹊スポーツ大学（滋賀県大津市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究」, (2014年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」(研究代表者：大塚泰介), 研究協力者 (2012～2016年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：マーク J. グライガー), 共同研究者 (2011～2015年度).
- 科学研究費補助金（基盤 A）「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者：夏原由博), 連携研究者 (2012～2014年度).
- 農林水産省委託プロジェクト「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト研究」(研究代表者：安田耕司), 共同研究者 (2013～2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本生態学会, 日本生態学会誌, 編集委員.
- 日本貝類学会, 情報誌「ちりぼたん」, 編集委員.
- 農業農村工学会, 農村生態工学研究部会, 代表幹事.
- 日本動物園水族館教育研究会, 運営委員.
- 日本魚類学会, 魚類学雑誌, 査読, 1件.
- 日本生態学会, 日本生態学会誌, 査読, 1件.
- 日本貝類学会, ちりぼたん, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2014年6月21日, 龍谷大学, 「里山学」.
- 2015年1月6日, 滋賀県立大学, 「博物館資料保存論」
- 2015年1月17日, びわこ学院大学, 「滋賀の環境」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

はしかけ運営「温故写新」，担当。

2014年5月24日，滋賀のカタツムリを調べよう，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師（林 竜馬と共同）。

2014年7月26日，船に乗ってビワマス漁をみてみよう，観察会，長浜市，副担当，（桑原雅之と共同）。

2014年8月1日，収蔵庫解説，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2014年8月2日，夜の屋外展示を探検しよう！，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師（林 竜馬・澤邊久美子と共同）。

2014年8月5日，夜の昆虫観察，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，指導。

2014年9月6日，水族展示バックヤードツアー，発見！びわ博フェスティバル とっておきの展示解説，琵琶湖博物館，案内，2件。

2014年9月7日，とっておきビワコオオナマズの話，発見！びわ博フェスティバル とっておきの展示解説，琵琶湖博物館，フロアトーク，2件。

2014年10月25日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか！，観察会，高島市マキノ町，副担当，（桑原雅之と共同）。

2015年1月25日・2月22日，水族バックヤード探検，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，講師，2件，（藤岡康弘・松田征也・桑原雅之・山本充孝と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2014年4月20日，座談会『今昔写真から見る湖東の歴史』，多賀町立文化財センター・多賀町立博物館（滋賀県犬上郡），コーディネーター。

2014年5月22日，生物多様性キックオフシンポジウム，株式会社ダイフク（滋賀県日野町），パネラー。

2014年6月8日，みずすまし水田観察会，みずすまし水田連絡協議会，みずすまし水田（滋賀県高島市），講師。

2014年6月21日，須原ゆりかご水田観察会，せせらぎの郷須原，観察会，須原魚のゆりかご水田（滋賀県野洲市），講師。

2014年7月20日，かつべ水フェスタ水辺の生き物観察会，勝部自治会，観察会，エルセンター（滋賀県守山市），講師。

2015年7月30日，水族バックヤードツアー，安土城考古博物館，ミュージアム活性化事業，琵琶湖博物館，講師（松田征也と共同）。

2014年8月5日，犬上川の生き物観察会，快適環境づくりをすすめる会，犬上川（滋賀県彦根市），講師。

2014年8月19日，KODOMO ラムサール，琵琶湖博物館，講師

2015年1月10日，淡海の川づくりフォーラム実行委員会，淡海の川づくりフォーラム，コラボしが21（滋賀県大津市），選考委員。

2015年2月1日，大阪市立自然史博物館，ジュニア自然史クラブ，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2014年7月5日，館内案内，竜王町宮川環境保全協議会。

2014年10月9日，館内案内，ベトナム大学生。

2015年2月26日，水族展示・バックヤード見学，鹿児島県立博物館。

2015年3月27日，水族展示・保護増殖センター見学案内，環境省自然環境局。

メディアへの協力

2014年5月15日、ナマズ釣り攻略Mook.
2014年6月、NHK 大津、関西夕方のニューススジシマドジョウ、出演、(2014年5月12日取材).
2014年7月、NHK プラネット、さわやか自然百景、取材、(2014年5月14日取材)
2014年7月、NHK 大津、おうみ発 610 クイズで知るびわ湖、出演、(2014年6月28日取材).
2014年8月13日、産経新聞、カイツブリの雛誕生、コメント、(2014年8月13日取材).
2014年8月13日、朝日新聞、カイツブリの雛誕生、コメント、(2014年8月13日取材).
2014年8月13日、産経新聞、カイツブリの雛誕生、コメント、(2014年8月13日取材).
2014年8月13日、びわ湖放送、カイツブリの雛誕生、コメント、(2014年8月13日取材).
2014年8月14日、NHK 大津放送局、カイツブリの雛誕生、コメント、(2014年8月14日取材)
2014年8月14日、朝日新聞、魚のゆりかご水田、16種の遡上確認、コメント (2014年8月14日取材).
2014年8月16日、読売新聞、ニッポンバラタナゴの稚魚、コメント (2014年8月16日取材)
2014年9月21日、NHK 総合、ダーウィンがきた! 「ビワコオオナマズ」、出演、(2014年7月7日取材)
2015年2月21日、NHK 大津、おうみ発 610 大橋洋さん、(2015年2月4日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電話・窓口・メールによる質問対応、350件.
窓口・メールによる生物の同定依頼、18件55点.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集、担当.
水族資料維持管理、担当.
動物資料貸出・特別観覧対応.
魚類資料提供受入.
映像資料特別観覧対応、50件.
魚類資料収集、100件(淡水魚).
昆虫資料収集、50件(水生昆虫等).
貝類資料収集、50件(陸産貝類、淡水貝類等).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理、担当.
2014年7月19日～8月31日、第27回水族企画展示「琵琶湖のふるさと『ヨシ原』ーヨシ原を利用するいきものたちー」、副担当.
展示交流員と話そう、内容指導.
モーニングレクチャー、講義、3回.

他博物館・機関の活動

多賀町立文化財センター・多賀町立博物館、ギャラリー展「大橋宇三郎・洋 親子の写真展『写真で見る昭和の近江』」、共催・展示協力.

【企画調整活動】

新任職員等研修、水族展示案内、2014年4月16日、講師、琵琶湖博物館.
イナズマロックフェス出展ブース、展示解説、2014年9月14日、からすま半島広場(滋賀県草津市).

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

2014年度、リニューアル展示空間水族展示、取りまとめ担当.

リニューアル展示アドバイザー（講師：中村 元 氏）、企画・運営、2014年12月18日、琵琶湖博物館.

リニューアル展示評価、水族展示室川魚屋設置およびアンケート、展示・運営、12月20日～23日、琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年4月～2015年3月、シヨップ会議.

【海外渡航】

2015年3月23日～25日、中国科学院水生生物研究所（中国湖北省武漢市）、研究協力協定締結調印.

【館外の活動】

2006年8月～、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課、滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会、委員.

2010年7月～、環境省自然環境局、希少野生動植物種保存推進員.

2010年4月～、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課、滋賀県希少野生動植物調査監視指導員.

2011年11月～、滋賀県農政水産部農村振興課、豊かな生き物を育む水田づくり懇話会、委員.

2012年2月～、NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク、標本救済ネット、ケースワーカー.

2014年10月～、環境省自然環境局、淡水魚保全に係る検討会、検討委員.

研究部では、滋賀県内のカヤネズミの生息地評価を目的とした現地調査を繁殖期の9月から11月を中心に実施した。県内で114カ所調査を行い、うち71地点でカヤネズミの生息を確認した。二次草地における、生物の生息環境としての草地と人間による管理下で生み出される草地の二面性を切り口に、滋賀県のカヤネズミの生息状況を明らかにする。調査にあたっては、地域からの情報収集が重要であるため地域の人々へ呼びかけを行い、本種の存在を知ってもらおうと共に、身近な環境に棲む動植物に関心を持つきっかけづくりを行っていくことを重要視してきた。

「景観構造がカヤネズミの生息に及ぼす影響」は現在投稿中である。今回行った滋賀県内の調査結果は滋賀県におけるカヤネズミの生息適地として新たに論文にまとめる予定である。

また、2014年度から開始した博物館周辺に生息するほ乳類相調査の自動撮影カメラ設置も引き続き調査を行った。調査結果は、日本哺乳類学会の発表に加えて、観察会およびフロアトークなどで紹介し、最も近いフィールド（展示室のすぐ外）である屋外展示にすんでいる動物たちの暮らしについて情報発信を行った。

来館者は屋外展示を利用した人が少なく、身近なフィールドに動物たちがすんでいることに驚く人が多い。今後屋外展示の活用にも生かしていく。生き物との出会いは、博物館の展示室から一步外に出れば待っていることであり、そのきっかけを作るのが博物館の役割であることを改めて確認できた。本物の体験を増やし、それをきっかけに人間と自然との接点に気づくような教育普及活動が大切であると考えている。

事業部では展示グループでディスカバリールームを担当した。今年度は開館日が例年と異なり対応に違いがでたが特に問題はなかった。昨年度から課題であった、展示物の老朽化を改善するために多くの修理、更新を行った。

「人形げきじょう」では人間6人の人形を新しく製作した。素材や構造など、議論を重ねて新しいものを制作した。さらに「いきものつながり」の歯車は、長年組み合わせが異なる状態でも動くように劣化が進んでいたため、歯車の位置を変えるなどして修理・改善した。「土の中の生きもの」では、劣化し使用できなくなっていた種類のレプリカを新しく購入するとともに、生き物の種類を新しくして内容を更新した。

ディスカバリールームのはしかけグループ「ザ!ディスカバはしかけ」の担当を1年終えた。今までのディスカバ主体の活動を、よりメンバーの積極性、自主性をもった活動に変化するように運営した。今後もメンバーが動きやすいサポートを続けていく。

新琵琶湖博物館創造準備室によるリニューアル業務では、ほ乳類と骨格標本コーナーを分担し、実施設計をおこなった。さらにヨシコーナーでは、ヨシ原の生き物に関する部分に関わり展示内容を計画した。特にヨシ原の生き物として展示予定のカヤネズミの映像撮影を2~3月に行い、展示用の映像を収集した。加えて、ヨシ刈りやヨシ焼きの資料収集にも努めた。

資料整理業務ではほ乳類標本を担当し、リニューアルに関連してほ乳類の資料整理を行った。開館からデータ整理が終わっていなかったほ乳類標本データをまとめなおし、データベースに追加した。さらに他館からの標本受入を行い、燻蒸、修理等をリニューアルに向けて整理を行った。今後も、リニューアルに使う展示物を中心に哺乳類標本の収集を行う。

滋賀県博物館協議会ガイドブック制作委員会では副幹事を担当し、原稿執筆および最終校正を行い、「滋賀ミュージアムガイド」が2014年12月に完成した。

印刷物

【専門分野の著作】

澤邊久美子 (2015) 全科協ニュース特集記事「フィールドレポートスタッフの魅力ー遊び場となった博物館ー」.
全科協ニュース, 4 (44), 全国科学博物館協議会: 7-8.

【一般向けの著作】

澤邊久美子 (2015) どこでもだれでもフィールド情報1「虫送り」. *琵琶博だより*, 19, 琵琶湖博物館:3.

澤邊久美子 (2015) 滋賀のカヤネズミを求めて. *全国カヤネズミ・ネットワークリレーエッセイ*, 41, 全国カヤネズミ・ネットワーク.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

澤邊久美子 (2014年4月18日) カヤネズミが棲みやすい景観と環境とは?. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

澤邊久美子 (2014年9月5~7日) 自動撮影カメラによるほ乳類記録と学習ツールとしての活用. 日本哺乳類学会2014年度大会, 日本哺乳類学会, 京都大学(京都市), [ポスター発表].

澤邊久美子 (2014年11月6日) カヤネズミの生息に影響を及ぼす要因 - 周辺環境と人為的管理 -. 都市環境学研究会, 名古屋大学(名古屋市), [口頭発表].

澤邊久美子 (2015年1月25日) 二次草原に棲むカヤネズミ-人と生物の関係-. 総合研究研究会「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「草地利用の変化に伴う半自然草地の変容と草地性生物への影響」, (2014年度).

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産~滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究~」(研究代表者:大塚泰介), 研究協力者(2012~2016年度).

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者:橋本道範), 研究分担者(2014~2018年度).

科学研究費助成事業(基盤A)「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者:夏原由博), 連携研究者(2013~2014年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

はしかけ運営「ザ!ディスカバはしかけ」, 担当.

2014年4月19日・26日, 飛び出せ☆「フナのぼりカードをつくろう!」, 琵琶湖博物館, 運営, 2件.

2014年6月15日, はくぶつかんで、おはなし会!, ザ!ディスカバはしかけ・草津おはなし研究会, 琵琶湖博物館, 補助.

2014年8月2日, ディスカバリーボックスの作製, 学芸員実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年8月2日, 夜の屋外展示を探検しよう!!, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 企画運営.

2014年8月5日, ほ乳類, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2014年11月22日, からすま半島のどうぶつ探偵団, 博物館で楽しもう, 琵琶湖博物館, 企画運営.

2014年12月20~21日, 琵琶湖博物館アトリウムコンサート フロアトーク「ヨシって知ってる?」, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2015年12月28日, はたきを作ろう!, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年6月22日, 第7回さとかん環境職業座談会, 大阪府立大学里環境の会 OPU, 大阪府立大学(大阪市), 講演.
- 2014年7月11日, ヨシ原に棲む生き物たち, 株式会社コクヨ工業滋賀, 琵琶湖博物館, 講演.
- 2014年7月27日, なつやすみいきものしぜんかんさつかい, ウォーターステーション琵琶, ウォーターステーション琵琶(滋賀県大津市), 講師.
- 2014年10月16日, 葦原に自生するカヤネズミについて, 守山琵琶湖よし笛アンサンブル, よし笛アンサンブル環境学習一貫事業, 守山市小津公民館(滋賀県守山市), 講師.
- 2014年11月8日, 湖上フォーラム「みんなで語る「ふなずし」の歴史」, 滋賀県ミュージアム活性化推進委員会, 運営補助.
- 2014年12月14日, カヤネズミの暮らし, びおっこの会, 見学会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2015年1月5日, カヤネズミの暮らし, TANAKAMI こども環境クラブ, 新春!カヤネズミ探訪 in 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2015年2月1日, 生物多様性の一端を知る!聴く!語る!“絶滅危惧種VS特定外来生物”, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会, 講演会, 環境情報プラザ(大阪市), 運営.

メディアへの協力

- 2014年12月29日, 中日新聞・読売新聞, ディスカバリーイベント はたきをつくろう!について, (2014年12月28日取材対応).
- 2015年2月21日, 株式会社コクヨ工業滋賀, 社内普及ビデオ「ヨシ原の生きもの」, 出演.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリー質問対応, ほ乳類、両生類、爬虫類、外来種に関する質問への回答, 3件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本整理, 朽木いきものふれあいの里より受入.

剥製標本, 受入(登録), 37件.

ほ乳類標本, 受入(未登録), 17件.

ほ乳類標本, 収集(未登録), 3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリールーム運営, 主担当.

ディスカバリールーム展示物, 修繕・展示更新.

2014年7月19日~8月31日, 第27回水族企画展示「びわ湖のふるさと『ヨシ原』ーヨシを利用するいきものたちー」, 副担当.

2015年2月24日~3月22日, 大学生のお兄さん・お姉さんが作ったディスカバリーボックス, 運営補助.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

新任職員等研修, ディスカバリールームの紹介, 講師, 2014年4月16日, 琵琶湖博物館.

滋賀県博物館協議会, 第1回ガイドブック制作委員会, 2014年6月5日, 琵琶湖博物館.

滋賀県博物館協議会, 第1回委員会幹事会, 2015年2月18日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014 年度，滋賀県博物館協議会ガイドブック制作委員会，副幹事.

2014年6月まで開催された「湖国ハッタミミズ・ダービー」の事務局長として、滋賀県内のハッタミミズの分布解明に努めた。また、ダービー終了後の2014年7月に、記録が残るものとしては最長となる92cmのハッタミミズを甲賀市で掘り当て、2015年3月現在、日本記録保持者になっている。

日本珪藻学会第34回研究集会を、琵琶湖博物館はしかけ「たんさいぼうの会」の協力の下、集會会長として琵琶湖博物館で開催した。発表は、一般講演16件、ポスター発表8件、シンポジウム講演8件の計32件だった。集會参加者はスタッフを含めると60名に及び、他に琵琶湖博物館関係者の聴講や新聞の取材もあって盛会となった。シンポジウムは「珪藻の過去と現在をつなぐ」と題して行われ、現生珪藻の分類学・生態学と古環境解析との連携、あるいは珪藻の進化を探るための分子系統解析と化石研究の連携に向けて、様々な視点からの研究紹介や問題提起がなされた。

今年も、琵琶湖地域で田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、「第5回 琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。第1部のミニシンポジウム「知られざる田んぼの生き物とその研究者たち」では、イタチムシ、ウズムシ、ミズダニ、ヒルといった、あまり注目されることのない田んぼの小動物に焦点を当て、その分類学的・生態学的な魅力を、それぞれの当代随一（オンリーワン）の若手研究者たちに語っていただいた。第2部は例年と同様の多数のショートセッションを行った。ポスター発表も含めて24題の発表、133名の参加があった。

日本珪藻学会の編集委員長として、会誌Diatomを編集・発行した。2014年の30巻は特集号「珪藻と古環境」（6月発行）と通常号（12月発行）の2冊を刊行し、計243頁と久々の大部になった。なお、2014年末をもって3期6年務めた編集委員長を引退した。

他に事業部の仕事、リニューアル関係の仕事も多々あったため、博物館の総合研究・共同研究、およびはしかけ「たんさいぼうの会」との共同研究の成果発信は遅れがちとなった。それでも、前年度までに投稿していた論文・総説をいくつか出版することができた。

琵琶湖博物館の理念とこれまでの実践が、社会教育、社会的イノベーション、環境ガバナンスなどにどのように寄与してきたか、また寄与しうるのかを、博物館学研究領域のメンバーを巻き込んで議論し、考察を深めた。これをもとに、博物館学分野の学会発表および論文執筆を初めて行った。

印刷物

【学術論文】

Ohtsuka, T. (2014) Nursery grounds for round crucian carp, *Carassius auratus grandoculis*, in rice paddies around Lake Biwa. In: Nishikawa, U. and Miyashita, T. (eds) *Social-ecological restoration in paddy-dominated landscapes*. Springer, Berlin·Heidelberg: 139-164.

Maruyama, A., Shinohara, K., Sakurai, M., Ohtsuka, T. and Rusuwa, B. (2015) Microhabitat variations in diatom composition and stable isotope ratios of the epilithic algae in Lake Malawi. *Hydrobiologia*, 748, Springer, Berlin·Heidelberg: 161-169.

大塚泰介・有田重彦・白川勝信(2015)八幡湿原の水質と珪藻. *高原の自然史*, 16, 北広島町教育委員会・高原の自然館: 1-11.

【専門分野の著作】

大塚泰介(2015)「人間と湖のよりよい共存関係」へと向かう博物館の学習と研究. *MUSEUM 2015 Papers*, Museum 2015 実行委員会 (CD-Book) .

【一般向けの著作】

大塚泰介 (2015) 湖岸より 227 社会的共通資本としての田んぼ. *中日新聞*, 中日新聞社, 1月10日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 山本真里子・大塚泰介・上野振一郎・杉谷健一郎 (2014年4月26日) 干潟堆積物中の形態別リン分布に対する珪藻の寄与. 日本珪藻学会第35回大会, 日本珪藻学会, 名古屋大学(名古屋市千種区), [ポスター発表].
- 石井健一郎・大塚泰介・宮下英明・神川龍馬・今井一郎・石川 輝 (2014年4月27日) 伊勢湾海底堆積物中の珪藻類休眠期細胞. 日本珪藻学会第35回大会, 日本珪藻学会, 名古屋大学(名古屋市千種区), [口頭発表].
- 大塚泰介・木原靖郎・有田重彦・片山慈敏・打越崇子 (2014年8月15日) 中間湿原の水質と珪藻. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介 (2014年10月11日) 共(コモン)を創造する博物館の学びへ. コモンズ研究会10月定例会, コモンズ研究会, 京都大学(京都市左京区), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2014年11月8~9日) 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [集會会長].
- 富 小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトメンバー (2014年11月8日) 滋賀県多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した珪藻化石. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 三村武士・大塚泰介 (2014年11月8日) 山室湿原(滋賀県米原市)の珪藻. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 木原靖郎・石井千津・津田久美子・石角江里佳・大塚泰介 (2014年11月8日) 中池見湿地(福井県敦賀市)の珪藻. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 有田重彦・大塚泰介 (2014年11月8日) Naviculoid 珪藻の条線の傾斜角分布について. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 大塚泰介・辻 彰洋 (2014年11月9日) シンポジウム「珪藻の過去と現在をつなぐ」. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [企画運営].
- 石井健一郎・大塚泰介・神川龍馬・石川 輝・今井一郎・宮下英明 (2014年11月9日) 珪藻類休眠期細胞研究の現状と展望. 日本珪藻学会第34回研究集会, 日本珪藻学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介・金尾滋史 (2014年12月21日) 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [企画運営].
- 大塚泰介 (2014年12月21日) 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [座長].
- 大塚泰介・浦部美佐子・金尾滋史・Mark J. Grygier・日比野愛子・渡辺弘之 (2014年12月21日) 湖国ハッタミミズ・ダービー結果発表. 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介・中村優介・向井康夫・岩渕成紀 (2014年12月21日) 東北地方太平洋沖地震による津波と地盤沈下で海水化した水田の珪藻. 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 大塚泰介 (2015年1月15日) 「人間と湖のよりよい共存関係」へと向かう博物館の学習と研究. MUSEUM 2015 Tokyo, MUSEUM 2015 実行委員会, 明治大学(東京都千代田区), [口頭発表].
- 富 小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトメンバー (2015年2月8日) 古琵琶湖層群蒲生層から得られた珪藻化石. 第30回地学研究発表会, 地学研究会・滋賀大学, 滋賀大学大津サテライトプラザ(滋賀県大津市), [口頭発表].
- 大塚泰介 (2015年2月22日) Interactive museum activities provide venues for innovation: case studies from the Lake Biwa Museum. 国際シンポジウム「アジアにおける新しい博物館・博物館学の展望」, 国立民族学博物館, 国立民族学博物館(大阪府吹田市), [口頭発表].

富 小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト（2015年2月28日）
多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第一次発掘調査で得られた珪藻化石。平成26年度多賀町立博物館研究発表会，多賀町立博物館，多賀町立博物館（滋賀県犬上郡），[口頭発表]。
石角江里佳・大塚泰介・打越崇子・木原靖郎（2015年3月1日）福井県中池見湿地における珪藻群集と水環境に関する研究。地域自然史と保全研究発表会—関西自然保護機構2015年度大会—，関西自然保護機構，大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区），[ポスター発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「中池見湿地の珪藻群集と環境指標性」，（2014年度）。
琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～」(研究代表者：大塚泰介)，研究代表者（2012～2016年度）。
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者：マーク J. グライガー)，研究副代表者（2014～2015年度）。
琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖を支える生命と物質の循環系に関する研究－I」(研究代表者：藤岡康弘)，共同研究者（2013～2016年度）。
科学研究費助成事業（基盤 A）「水田の生物がもたらす生態系サービスの賢い利用を導く技術と社会の総合研究」(研究代表者：夏原由博)，研究分担者（2012～2014年度）。
総合地球環境学研究所機関連携プロジェクトプレリサーチ「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会—生態システムの健全性」(研究代表者：奥田 昇)，研究協力者（2014年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会，Diatom，編集委員長，2009年1月～2014年12月。
日本珪藻学会，Diatom，編集委員，2015年1月～。
日本珪藻学会，運営委員，2011年1月～2014年12月。
関西自然保護機構，運営委員，2014年2月～。
日本珪藻学会，Diatom，担当編集委員，2件。
International Phycological Society，Phycologia，査読，1件。
日本陸水学会，Limnology，査読，1件。
藻類学会，Phycological Research，査読，1件。
日本珪藻学会，Diatom，査読，2件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2014年9月23日，京都府立大学，「環境微生物学」。
2014年4月～2015年3月，芝崎美世子（大阪市立大学理学研究科博士課程），研究指導・助言。
2014年4月～2015年3月，石角江里佳（京都造形芸術大学大学院修士課程），研究指導・助言。
2014年4月～2015年3月，富 小由紀（滋賀県立大学環境科学部），研究指導・助言。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

はしかけ運営「たんさいぼうの会」，担当。

2014年7月20日，プランクトン，夏休み自由研究講座，講座，琵琶湖博物館，講師，（楠岡 泰と共同）。

2015年1月24日，はじめてのたんさいぼう，博物館で楽しもう，琵琶湖博物館，講師，（たんさいぼうの会と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年6月14日、田んぼでニゴロブナが育つと、何が起こるのか？、虎姫高校 SSH, 講義, 文化産業交流会館（滋賀県長浜市）, 講師.
- 2014年6月15日、ゆりかご水田観察会, 栗見出在家魚のゆりかご水田協議会ほか, 講義と観察, 栗見出在家町の田んぼ（滋賀県東近江市）, 講師.
- 2014年6月29日、プランクトン実習, 近畿大学農学部水産学科, 学外実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年6月30日・10月1日、生き物さがし, 草津市立笠縫東小学校・草津塾, 観察会, 平井町の休耕田, 協力.
- 2014年7月15日、プランクトン実習, 京都府立桃山高校 SSH, 実習, 琵琶湖博物館, 講師（楠岡 泰と共同）.
- 2014年7月16日、プランクトン実習, 滋賀県立彦根東高校 SSH, 実習, 琵琶湖博物館, 講師（楠岡 泰と共同）.
- 2014年8月17日、NICCO ふゆみずたんぼ生き物観察会, 公益社団法人日本国際民間協力会（NICCO）, 観察会, 中戸町のふゆみずたんぼ（滋賀県東近江市）, 調査指導と解説.
- 2014年8月26日、琵琶湖南湖のヨシとその周りの生きものの咄, びわ湖の水と環境を守る会, 明日都浜大津（滋賀県大津市）, 講師.
- 2014年10月9日、学校の田んぼの生き物について, 長岡京市立長岡第九小学校, ワークショップ, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2013年11月19日、水田の生物多様性と多面的機能, 関西大学社会安全学部, 講義, 関西大学高槻ミュージアムキャンパス（大阪府高槻市）, 講師.

メディアへの協力

- 2014年5月31日、中日新聞, 日本最長ミミズ情報求む 研究者ら生態調査 撮影きょう締切, 取材対応.
- 2014年6月27日、中日新聞, 日本最長! 85 cm ミミズ, 甲賀の耕作放棄地で発見, 取材対応.
- 2013年7月2日、NHK ラジオ第一, 私も一言! タ方ニュース タ方トピック, 出演.
- 2014年7月3日、朝日新聞, 日本一長〜いミミズ発見 体長 89 センチ 甲賀, 取材対応.
- 2014年7月11日、京都新聞, ハッタミミズ 甲賀の92センチ最長 準絶滅危惧種 湖国ダービー1年 大きき続々更新 琵琶湖博物館が情報募集を継続 「まだ見ぬ大物が…」, 取材対応.
- 2014年8月4日、京都新聞, 凡語, 取材対応.
- 2014年8月11日、JFN ラジオ, Face Face Japan, 出演.
- 2014年10月9日、毎日新聞, ミミズ「最長」競争過熱 日本最大「ハッタ」種 「本家」石川 滋賀に挑戦状 記録続々更新 92センチ←89センチ←85センチ, 取材対応.
- 2014年10月12日、毎日新聞, 狙え大物ハッタミミズ 笠縫東小3年 78人が挑戦, 取材対応.
- 2014年10月14日、フジテレビ, 有吉弘行のダレトク!?, 出演.
- 2014年10月28日、読売新聞しが県民情報, 日本一のミミズ探し 草津市立笠縫東小学校, 取材対応.
- 2014年11月16日、NHK 総合テレビ, ダーウィンが来た! 生きもの新伝説 ダーウィン・ニュース, 出演.
- 2014年12月22日、京都新聞, 国内最長ミミズを探せ 草津 水田の生態系, 研究発表, 取材対応.
- 2015年3月2日、毎日新聞, 琵琶湖ルーツに新説 450万年前 東海地方の巨大湖 滋賀県立博物館が検証 固有種の遺伝子解析 50万年さかのぼる, 取材対応.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料, 収集・整理・監督・指示.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員の管理運営に関すること, 主担当.

集う・使う・創る新空間, 副担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（朱偉、柏尾珠紀、廣石伸互、篠原耕平），受け入れ担当.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

C展示室田んぼコーナー，主担当.

マイクロアクアリウム，副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

新琵琶湖博物館創造準備室，マイクロアクアリウム，担当.

【館外の活動】

2001 年4月～，島根大学汽水域研究センター，協力研究員.

総合研究の一環で共同研究者と共に琵琶湖から共生藻類をもつ繊毛虫 *Pelagodileptus trachelioides*, *Stokesia vernalis*, *Bursellopsis spumosa*, *Cyclotrichium viridi*, *Didinium* sp. および、琵琶湖博物館生態観察池から *Coleps hirtus viridis* を単離し、それぞれの遺伝子および共生藻の遺伝子を解析した。その結果、1) ほとんどの繊毛虫内で藻類のクローン化が起こっていること、2) 琵琶湖から単離した 4 種の繊毛虫は同種の藻類(呼称 ‘chlorella B’) を保持していたが、DNA 配列のわずかな相違から、どの繊毛虫種の共生体が識別できること、3) 2) の DNA 配列は年が異なっても、烏丸半島と長浜港の異なる地域でも、同じ繊毛虫には同じ差異を持つ “chlorella B” が共生していた。このことから、琵琶湖の共生藻をもつ繊毛虫は安定して長期にわたり同じ共生藻を保持しており、藻類の分化が始まっている可能性が示された。

日本学術振興会研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型 “New Horizon in Asian Museums and Museology” 「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」の一環で 8 月 24 日～8 月 28 日タイに出張し “JSPS Core-to-Core Program Public Seminar” “Social Roles of the Museum” で “Community based activities of the Lake Biwa Museum” 「地域に根差した琵琶湖博物館の活動」と題して発表した。

事業部展示グループではリーダーとしてとりまとめを行った。

リニューアルではマイクロアクアリウムの副担当として展示計画を推進した。また、成安造形大学との「科学と芸術の融合」プロジェクトでは中心的に活動した。また、リニューアルの一環で 10 月 3 日から 11 日までロシアのバイカル湖を訪れ、バイカル博物館やロシア科学アカデミー・シベリア局・陸水学研究所とバイカル湖の魚や無脊椎動物の捕獲および日本への輸送について協議した。

印刷物

【学術論文】

Hu, X. and Kusuoka, Y. (2015) Two oxytrichids from the ancient Lake Biwa, Japan, with notes on morphogenesis of *Notohymena australis* (Ciliophora, Sporadotrichida). *Acta Protozool*, 54: 107-122.

【専門分野の著作】

楠岡 泰 (2014) 博物館活動における地域との連携: 琵琶湖博物館の事例. 園田直子・小長谷有紀・Lkhagvasuren I. 共編, アジアにおける博物館・博物館学の「いま」—モンゴル、ミュージアム・クリルタイ—, モンゴル国立文化遺産センター: 67-76.

Kusuoka, Y. (2014) ОРОН НУТАГ ЛАХЬ УЛСЫН МУЗЕЙН УЙЛ АЖИЛЛАГААНЫ ОНЦЛОГ: “Бива нуур музей”-н жишээндээр (上記のモンゴル語訳) 園田直子・小長谷有紀・I Lkhagvasuren 共編, アジアにおける博物館・博物館学の「いま」—モンゴル、ミュージアム・クリルタイ—, モンゴル国立文化遺産センター: 255-266.

Kusuoka, Y. (2015) Cooperation between museums and the local community. Sonoda, Tamura K., Nu Mra Zan eds. Asian Museums and Museology 2013 International research meeting on museology in Myanmar. *Senri Ethnological Reports*, 125: 153-164.

Kusuoka, Y. (2015) Community based activities of the Lake Biwa Museum. Sonoda, Hirai K., Incherdchai J. eds. Asian Museums and Museology 2014 International workshop on Asian museums and museology in Thailand. *Senri Ethnological Reports*, 129: 119-126.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Kusuoka, Y. (2014年8月26日) Community based activities of the Lake Biwa Museum. Asian Museums and Museology 2014, Thai National Museum(Bangkok), [口頭発表] .
- Hoshina, R. and Kusuoka, Y. (2014年11月28日) The Possibility of persistent symbiosis in ciliate algae symbioses. 2nd Asian Congress of Protistology, University of Kalyani, (West Bengal, India), [ポスター発表] .
- 保科 亮・早川昌志・楠岡 泰・洲崎敏伸 (2015年3月22日) シェアされる共生藻. 第39回日本藻類学会大会, 九州大学(福岡市), [口頭発表] .
- 楠岡 泰・保科 亮 (2015年3月20日) 琵琶湖周辺の共生藻をもつ繊毛虫とその共生藻. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表] .

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「マミズクラゲの性決定機構の解析」, (2014年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「微小な生物の飼育技術開発および展示方法」(研究代表者:松田征也), 副代表(2013~2015年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」(研究代表者:マーク J. グライガー), 研究分担者(2011~2015年度).
- 日本学術振興会研究拠点形成事業 B. アジア・アフリカ学術基盤形成型「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」(研究代表者:園田直子), 研究分担者(2012~2014年度) .

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本原生生物学会, 評議員, 2012年11月~.
- 日本原生生物学会, 活性化委員, 2012年11月~.
- 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川自然誌資料, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2014年6月24日~25日, タイ王国シラパコーン(Silpakorn)大学, 「Lecture on the Environment of Lake Biwa and workshop on plankton」.
- 2014年9月24日, 京都府立大学, 「繊毛虫の分類および生態」.
- 2014年10月21日, JICA「湖沼環境保全のための統合的流域管理」コース, Environment education in the Lake Biwa Museum.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.
- はしかけ運営「田んぼの生き物調査グループ」, 主担当.
- はしかけ運営「里山の会」, 副担当.
- 2014年4月~2015年1月, 里山の四季を楽しむ, 里山体験教室, 滋賀県野洲市大篠原, 講師, (安福俊幸・はしかけ「里山の会」と共同).
- 2014年7月19日, プランクトンでアート, からすま半島で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講師, (成安造形大学宇野君

平氏と共同).

- 2014年7月20日, プランクトン, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 講師, (大塚泰介と共同).
- 2014年7月23日, プランクトンの観察, 石部高等学校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年7月31日, 琵琶湖博物館の展示事業, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年8月5日, プランクトンの研究指導, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年9月7日, 田んぼのエビ類のペーパークラフトを作ろう, 発見!びわ博フェスティバル!, 琵琶湖博物館, 講師, (はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」と共同).
- 2014年9月7日, ハンモックを作ろう, 発見!びわ博フェスティバル!, 琵琶湖博物館, 講師, (はしかけ「里山の会」と共同).
- 2014年11月8日, 秋の里山を歩こう, 観察会, 甲賀市水口町山, 講師, (安福俊幸・はしかけ「里山の会」共同・カワセミ自然の会と共催).
- 2015年2月7日・2月15日, プランクトンの研究指導, 立命館守山中学校ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年4月27日, プランクトンの採集および観察, 全国高等学校総合文化祭自然科学部門研修, 全国高等学校総合文化祭, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年5月20日, プランクトン観察および展示案内, University of Illinois, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年6月5日, プランクトンの採集船上実習および観察, 全国高等学校文化祭実行委員会, 琵琶湖湖上および琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年7月15日, プランクトン実習, 京都府立桃山高校, 琵琶湖博物館, 講師, (大塚泰介と共同).
- 2014年7月16日, プランクトン実習, 滋賀県立彦根東高校, 実習, 琵琶湖博物館, 講師, (大塚泰介と共同).
- 2014年8月11日, プランクトンの観察, 全国高等学校文化祭実行委員会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年8月13日, プランクトンの観察, いきものみつけファーム滋賀推進協議会里学部会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2014年9月21日, 環境教育における博物館の利用および展示案内, JICA 英語圏サブサハラアフリカ理科授業改善コース, 琵琶湖博物館, 講師, (ロビン スミスと共同).
- 2014年11月16日, プランクトンの観察, 自然大学琵琶湖実習, NPO 自然と緑, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

- 2014年6月21日, 博物館の概略説明および展示案内, タイ王室 財産管理局.
- 2014年10月28日, 展示案内, NAHRIM (マレーシア国立水理学研究所).
- 2015年3月11日, 展示案内, 駐日本国マケドニア大使, (篠原館長・グライガーと共同).

メディアへの協力

- 2014年6月28日, 新種発見 (ツリガネムシ), 朝まで夜ふかし, 読売テレビ, (2013年8月19日の再放送).
- 2015年2月27日, 毎日新聞, 自然大学琵琶湖でも学ぶ.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物静止画, 撮影および指導, 約500件.

微小生物動画, 撮影および指導, 約20件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年度, 常設展示: プランクトンコーナー, 維持管理、展示更新 (年4回).

2014年度, 常設展示: ミクロの世界, 維持管理.

2014年度, 常設展示: どぶ川の生き物たち, 維持管理.

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

新任職員等研修，琵琶湖博物館の交流事業，講師，2014年4月15日，琵琶湖博物館.

新任職員等研修，C展示室個別コーナー説明，講師，2014年4月23日，琵琶湖博物館.

地域発見！参加型移動博物館事業，体験指導・展示物維持管理，2014年4月29日，ピアザ淡海（滋賀県大津市），JICA博物館学コース，講義：Design and realization of programs for the public and for schools，2014年5月22日，琵琶湖博物館

JICA博物館学コース，琵琶湖博物館の展示を評価する，実習指導，2014年5月23日，琵琶湖博物館，（黒岩啓子・マーク グライガー・芦谷美奈子と共同）.

JICA博物館学コース，フィールドレポーター・はしかけとの情報交換会，司会進行，2014年5月24日，琵琶湖博物館，（林 竜馬と共同）.

JICA博物館学コース，フィールドレポーター交流会参加，2014年5月24日，琵琶湖博物館，（林 竜馬と共同）.

JICA博物館学コース，烏丸半島でのカタツムリ観察会への参加，2014年5月24日，琵琶湖博物館，（林 竜馬・金尾滋文と共同）.

JICA博物館学コース，エコクラブ アイキッズの活動に参加，2014年5月25日，琵琶湖博物館，（中村大輔氏共同）.

JICA博物館学コース，東京研修旅行同行，2014年6月8日～11日，東京（国立新美術館，汐留ミュージアム，国立科学博物館，東京国立博物館）および千葉（国立歴史民俗博物館，DIC川村記念美術館）.

JICA博物館学コース個別研修，プランクトンの模型作り，実習指導，2014年7月9日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度，マイクロアクアリウム，副担当.

【海外渡航】

2014年8月24日～28日，タイ王国バンコク周辺，国際研究会“JSPS Core-to-Core Program Public Seminar”で発表.

2014年10月3日～11日，ロシア連邦イルクーツク市・バイカル湖周辺，バイカル博物館およびロシア科学アカデミー・シベリア局・陸水学研究所とバイカル湖の魚や無脊椎動物の捕獲および日本への輸送について協議.

本年度は、共に3年計画の2年目である2件の科学研究費助成事業2件が中心となった。その一方で、琵琶湖博物館共同研究事業は、中期的な方向性は明らかであっても短期的な方向性を見出すのに難渋している状況に変化が無く、中断を余儀なくされることとなった。

科学研究費助成事業のうち1件は日本博物館協会が数年おきに行ってきた博物館総合調査を継承するものであり、昨年度実施した調査の集計結果を受けた分析成果の公表に関わる事務作業と、関連するテーマに関わる海外調査を実施した。

もう1件の科学研究費助成事業は博物館の「副次的機能」を理論化しようとするものである。年度前半は「副次的機能」の全体像を「本来機能」との関連に着目して整理した昨年度の成果を学会発表して議論を進めることによって論点を整理していった。その結果、短期間で整理できそうな論点として博物館施設の目的外利用（貸館利用など）や併設施設との共用に関わる問題が浮び上がってきたため、作業員を雇用して主にネット公開データの分析によって現状把握を進めた。

琵琶湖博物館共同研究事業については、博物館教員に関する全国の博物館を対象とするアンケート調査結果の分析結果を論文公表する作業を進め、主となる論文については公表を実現した。分析の過程で追加実施した、教員人事を取扱う各教育委員会への調査結果に関する論文は、査読修正の作業が続いている。

この共同研究事業では、博物館教員の他に「はしかけ」など博物館に関わる人々の動きを対象とするテーマを進めようとしていた。しかし、このテーマを担うことを予定していた学芸員が退職したり学位取得を優先すべき状況になったりしたうえ、博物館全体として展示リニューアル計画を優先すべき状況となったことから、当面これ以上の進捗が見込めない状況に陥り、研究事業の中断を余儀なくされるに至った。

研究以外の事業の面では、引続き資料整備事業の総括を担っている。また、滋賀県博物館協議会の研修事業を担う責任者を輪番で引き受けることになった。

資料整備事業では昨年度「収蔵庫環境改善プロジェクト」を実施したが、その成果を踏まえて、特に喫緊の問題である排水環境について包括的な現況調査を業者委託により実施した。また、滋賀県博物館協議会の研修事業の企画でも施設老朽化の問題が浮上したため、同プロジェクトの経験を背景に、反復アンケートによって加盟館相互で問題点を共有するという新しい形の研修事業を企画し、実施した。

印刷物

【学術論文】

戸田 孝 (2014) 博物館教員に関する全国調査. *科学教育研究*, 38 (4), 日本科学教育学会 : 248-259.

【一般向けの著作】

戸田 孝 (2014) 博物館と博物館学. *うみっこ通信*, 12, 琵琶湖博物館 : 1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

戸田 孝 (2014年6月20日) 「癒し」機能の位置づけを手がかりとする博物館の副次的機能論に向けた試み. 研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝 (2014年6月30日) 「癒し」機能の位置づけを手がかりとする博物館の副次的機能論に向けた試み. 全日

本博物館学会第40回研究大会，全日本博物館学会，明治大学（東京都千代田区），[口頭発表]。

戸田 孝（2014年9月15日）学校利用における博物館の「本来機能」と「副次的機能」。日本科学教育学会第38回年会，日本科学教育学会，埼玉大学（さいたま市桜区），[口頭発表]。

戸田 孝（2015年1月15日）博物館の「副次的機能論」の試み。Museum2015，大妻女子大学博物館・国立基北教育大学（台湾）・国立歴史博物館（台湾）・全日本博物館学会・東京国立博物館・明治大学文学部・レスター大学博物館学研究室（イギリス），明治大学（東京都千代田区），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」，（2014年度）。

琵琶湖博物館共同研究「『人をつなぐ人材』を軸とした戦略的博物館学への展開」（研究代表者：戸田 孝），研究代表者（2012～2015年度）。

科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」（研究代表者：篠原 徹），研究分担者（2013～2015年度）。

科学研究費助成事業（挑戦的萌芽）「『癒し』を手がかりとする博物館の副次的機能論の構築」（研究代表者：戸田 孝），研究代表者（2013～2015年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理研究会，運営委員。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2014年7月28日，滋賀大学，「社会教育主事講習 社会教育施設の役割と機能 I（博物館）」。

2015年1月6日，滋賀県立大学，「博物館資料保存論 資料保存環境を支える設備」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

2014年8月5日，回転実験室で水槽実験を！，講座，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2014年6月27日，琵琶湖博物館の概要，滋賀県教育委員会学校教育課，滋賀県高校生海外相互派遣事業，琵琶湖博物館，講義。

2014年10月22日，琵琶湖の水の流れ，鳥取県立倉吉東高等学校，フィールドワークイン関西，琵琶湖博物館，講義。

2014年10月26日・12月18日，回転実験室体験実習および県外高校生への解説活動の指導，滋賀県立草津東高等学校，全国高等学校総合文化祭準備，琵琶湖博物館，実習指導，2件。

2014年11月13日，回転実験室体験実習，東大寺学園中学校，体験学習，琵琶湖博物館，実習指導。

メディアへの協力

2015年3月4日，京都新聞，「びわこの学校2時間目」算数・理科，琵琶湖環流の研究史や研究の意義についての情報提供，（2014年11月26日～2015年3月3日）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

個人管理ページの運営。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料整備活動，総括.

資料データベース，管理運営、総合調整およびセキュリティ管理.

電子図鑑，管理運営、総合調整（将来計画策定など）.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014 年度，気象に関する展示の維持管理，主担当.

2014 年度，水理に関する展示の維持管理，主担当.

【企画調整活動】

地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2014 年 4 月 29 日，ピアザ淡海（滋賀県大津市）.

JICA 博物館学コース，Information Use and Equipment for Information Use—Learning from History—，講義，
2013 年 5 月 27 日，琵琶湖博物館.

JICA 博物館学コース，Collections Management and Use (2) Current Situation and Problems in Collections
Management at the Lake Biwa Museum，講義，2013 年 5 月 27 日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究備品管理情報の再整理，主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014 年度，滋賀県博物館協議会，研修委員会，研修委員幹事.

【海外渡航】

2014 年 9 月 21 日～29 日，ロシア連邦（バイカル湖周辺・ウラジオストク）・大韓民国（ソウル），科学研究費助成事業「日本の博物館総合調査研究」にかかる調査.

本年度は、「小学校の高度利用」というテーマで研究を進めた。

昨年までの研究で、伝える側の博物館学芸員が総花的に対応するのではなく、伝えたいこと（キーワード）を明確に持つことで伝わり方が違うことを実証した。また、指導者としての小学校教員の意識を上げること、また、感想等を書いていただくときに、漠然と書いてもらうのではなく、伝えなかったことを3つ程度のキーワードにして、感想文に入れてもらうようにするとよいことが確認できた。また、キーワードをつかって書いてもらう過程も重要で、書くことによって獲得したものが確かになることも確認できた。

研究当初、学校団体の博物館での学習を高度化するにあたり、ニーズを探り、ニーズに合わせてどのようなサポートの形があるかを考えたが、小学校の場合「社会科の学習」「理科の学習」「環境学習」「地域学習」という決められた課題に対しての定型的な（教科書的な）答えを求める傾向が強く、博物館が提示したい「湖と人間のより良い共存関係」というものとは目的も活動時間スケールも違うことが改めて見えてきた。

また、博物館の利用方法としても、「学校の学習で課題意識を持ち、その解決の糸口を見つけに来る」というよりは「学習に対して課題意識や問題意識を持たせるきっかけにする」という来館の方が圧倒的に多い。

そのような小学校の先生方には、来館時の体験学習やワークシートよりも、ふだん、学校で話題にできるような、また、したくなるような琵琶湖の基礎知識が来館の有無にかかわらず得られる冊子づくりの方が近道ではないかと考え、「教員ハンドブック」の作製を試み、アンケートをとった。

その結果としては、環境学習を進められている学校によっては有益な情報であることは分かってきたが、教員1人ひとりの関心としては、外来魚のことをお伝えすると外来魚の関心が高まり、水位問題について話すと水位問題の関心が、という具合で、その情報に触れるか否かが重要であることも見えてきた。つまり、従来から言われてきたことではあるが、琵琶湖博物館が、博物館として伝えたいことをまずは大人向けに分かりやすく発信することが「湖と人間のより良い共存関係」を築くことになることがわかった。そのためには、来館者の関心事にあわせて対応することも大切であるが、博物館として伝えたいこともこちらが明確に持っている必要がある。

印刷物

【専門分野の著作】

- 蜂屋正雄（2014）琵琶湖博物館と学校. さざなみ国語教室, 391, 滋賀児童文化協会：4.
蜂屋正雄（2015）環境教育と言語活動①. さざなみ国語教室, 393, 滋賀児童文化協会：3.
蜂屋正雄（2015）環境教育と言語活動②. さざなみ国語教室, 395, 滋賀児童文化協会：3.
蜂屋正雄（2015）理科で求められる言語活動. さざなみ国語教室, 396, 滋賀児童文化協会：3.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「学校現場に伝える滋賀県の環境の基礎と実際」, (2014年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2014年10月～2015年3月, 滋賀の教師塾塾生, ヨシ笛作り実習・琵琶湖の深さについての実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」、担当。

2014年4月～2015年3月、「春の草花でしおりをつくろう」等12講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業、琵琶湖博物館、企画運営、14件、(はしかけグループ「びわたん」「緑のくすり箱」「タンポポ調査はしかけ」「ほねほねくらぶ」と共催)。

2014年4月～2015年3月、「よし笛づくり」と環境学習、サテライト博物館事業、東近江市立能登川東小学校、企画・運営・講師、2件、(間所忠昌と共同)。

2014年5月～2015年3月、琵琶湖学習、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、5件、(間所忠昌と共同)。

2014年6月8日、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、企画運営、4件(滋賀県中学校教育研究会理科部会、びわたんと共催・間所忠昌と共同)。

2014年7月～11月、「生き物飼いか講座」等2講座、指導者のための博物館活用講座、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、2件、(滋賀県立総合教育センター共催・間所忠昌と共同)。

2014年7月20日、「夏休み自由研究講座」昆虫コース等3講座、夏休み自由研究講座、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、(間所忠昌と共同)。

2014年9月6日、びわたんと絵本で楽しもう、発見！琵琶博フェスティバル はしかけオープンハウス、琵琶湖博物館、(はしかけ「びわたん」と共催・間所忠昌と共同)。

2014年9月6日、星空観察会、発見！琵琶博フェスティバル、琵琶湖博物館、(ダイニクアストロパーク天究館友の会と共催・間所忠昌と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2014年4月～2015年3月、学校団体向け体験学習、県内県外小中高等特別支援学校大学、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、121件、(間所忠昌と共同)。

2014年4月～2015年3月、博物館ガイド研修等、2015 滋賀びわこ総合文化祭実行委員会、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、11件、(間所忠昌と共同)。

2014年4月～2015年3月、一般団体向け体験学習、各団体、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、7件、(間所忠昌と共同)。

2014年4月～2015年3月、教員研修会、コアサイエンスティーチャー事業、滋賀大学、草津市立志津南小学校・守山市立物部小学校、企画・運営・講師、3件。

2014年8月5日、草津市環境教育研修、草津市教育研究所、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、(間所忠昌と共同)。

2014年11月7・8・9・12・13日、職場体験学習(実習)、草津市立新堂中学校、琵琶湖博物館、講師・コーディネーター、5件。

2014年11月19・21・28・30日、琵琶湖博物館での体験学習(実習)、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、4件、(間所忠昌と共同)。

視察対応

2014年7月～8月、琵琶湖博物館の概要と体験活動について、旅行会社、2件、(間所忠昌と共同)。

2014年7月31日、昔くらし体験の進め方について、石部小学校ボランティアグループ、(間所忠昌と共同)。

2015年2月14日、琵琶湖博物館の学校連携について、国営木曾三川公園・自然発見館、(間所忠昌と共同)。

2015年2月22日、琵琶湖博物館の学校連携について、七尾市自然史博物館設置準備室、(間所忠昌と共同)。

2015年2月26日、琵琶湖博物館の学校連携について、鹿児島県立博物館、(間所忠昌と共同)。

2015年3月12日、琵琶湖博物館の学校連携について、香川県立ミュージアム、(間所忠昌と共同)。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

県内学校の質問対応・コーディネート，担当，10件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年4月～2015年3月，学校等標本貸出事業，担当，51件.

【企画調整活動】

琵琶湖博物館の活動

JICA 博物館集中コース，博物館の学校連携について，講師，2014年5月28日，琵琶湖博物館，（間所忠昌と共同）.
地域発見！参加型移動博物館事業，展示説明・維持管理，2014年8月31日，三井アウトレットパーク（滋賀県蒲生町），（山本充孝と共同）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014年6月～2015年2月，笠縫東小学校葉山川博物館支援委員会，委員.

2014年6月～2015年3月，しが環境教育リーディング事業推進委員会，委員.

2014年4月～2015年3月，滋賀大学コア・サイエンスティチャー推進事業，推進委員.

本年度は、「教員の専門性を支える博物館の役割について」というテーマで、滋賀県内の中学校理科教員を対象に聞き取り調査を行い、理科に関する教材研究の近年の傾向や環境教育の実践状況を調べた。特に、琵琶湖博物館で行われた自然調査ゼミナールの運営に参加いただいた中学校理科教員の傾向と一般の理科教員とを比較し、博物館の学芸員から学んだ理科教員の教材観の変容を分析した。

調査より分かったことは、教科書や指導書に掲載されている情報やインターネットの情報を活用して教材研究を行っている教員が多い中、自然調査ゼミナール参加教員は、(1)勤務校以外で行われる研修会に進んで参加し、(2)大学や博物館等の研究機関からの情報も取り入れて教材研究を行う割合が高かった。また、環境教育の実践においても、地域の教材や話題を普段の授業で取り上げ、実感を伴った理解につながるように工夫していることが分かり、自然調査ゼミナールの活動を通して、身近な自然環境を観察する能力が育まれている可能性が示唆された。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

間所忠昌 (2014年9月15日) 教材研究の楽しさを伝える CST 活動. 日本科学教育学会第38回年会企画 小中学校教員研修会「全国のコア・サイエンス・ティーチャー (CST) から学ぼう」, 日本科学教育学会・埼玉大学 Saitama CST 事業・独立行政法人科学技術振興機構, 埼玉大学 (さいたま市), [口頭発表].

間所忠昌 (2014年10月28日) 琵琶湖博物館の活用について. 滋賀県中学校教育研究会理科部会・研究協議会, 滋賀県総合教育センター・滋賀県中学校教育研究会理科部会, 東近江市立能登川中学校 (滋賀県東近江市), [口頭発表].

間所忠昌 (2015年1月16日) 教員の専門性を支える博物館の役割について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「教員の専門性を支える博物館の役割について」, (2014年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2014年4月～2015年3月, 滋賀の教師塾塾生, ヨシ笛作り実習・交流事業研修受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」, 担当.

2014年4月～2015年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等12講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業, 琵琶湖博物館, 企画運営, 14件, (はしかけグループ「びわたん」「緑のくすり箱」「タンポポ調査はしかけ」「ほねほねくらぶ」と共催・蜂屋正雄と共同).

2014年5月～2015年2月, 琵琶湖学習, 立命館守山中学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 5件, (蜂屋正雄と共同).

2014年6月～12月, よし笛づくりと環境学習, 東近江市立能登川東小学校, サテライト博物館, 能登川東小学校

(滋賀県東近江市), 講師, 2 件, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 6 月～8 月, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 企画運営・講師, 4 件, (滋賀県中学校教育研究会理科部会・はしかけ「びわたん」と共催・蜂屋正雄と共同).

2014 年 7 月 22 日～28 日, 琵琶湖探究, 滋賀県立石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 5 件, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 7 月～11 月, 「生き物飼い方講座」等 2 講座, 指導者のための博物館活用講座, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 2 件, (滋賀県総合教育センターと共催・蜂屋正雄と共同).

2014 年 7 月 20 日, 「夏休み自由研究講座～昆虫コース～」等 3 講座, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 9 月 6 日, 「びわたんと絵本で楽しもう♪」, 発見!びわ博フェスティバル!, はしかけオープンハウス, 琵琶湖博物館, (はしかけ「びわたん」と共催・蜂屋正雄と共同).

2014 年 9 月 7 日, 星空観察会, 発見!びわ博フェスティバル!, 琵琶湖博物館, (蜂屋正雄と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2014 年 4 月～2015 年 2 月, 学校団体向け体験学習, 県内県外小中高等特別支援学校大学, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 121 件, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 4 月～12 月, 博物館ガイド研修等, 2015 滋賀びわこ総文実行委員会, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 11 件, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 6 月 7 日, 姉川地震の学習会, 長浜市市立小谷小学校 PTA, 長浜市立小谷小学校 (滋賀県長浜市), 講師.

2014 年 7 月 4 日, 琵琶湖固有種の魚について, 豊中市教育委員会, 豊中市中学理科科学技術研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2014 年 7 月 9 日, 頭骨標本の活用について, 彦根市立南中学校 (滋賀県彦根市), 講師.

2014 年 7 月 13 日, 第 7 回ビバシティに博物館がやってきた!「博物館夏祭り」, 博物館夏祭り実行委員会, ビバシティ彦根 (滋賀県彦根市), 運営.

2014 年 7 月 28 日, 滋賀の特産品と琵琶湖博物館の紹介, 滋賀県琵琶湖環境部環境政策課, 出張出前講座「びわ湖の日制定 30 周年記念事業」, 私立東山中学校 (京都市), 講師.

2014 年 7 月～2015 年 2 月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 7 件, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 8 月 2 日, 魚の観察会, 飯給会館 (滋賀県長浜市湖北町河毛), 講師.

2014 年 8 月 5 日, 草津市環境教育研修会, 草津市教育研究所, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 8 月 22 日, 真綿づくりに学ぶ, 滋賀県中学校教育研究会理科部会, 琵琶湖博物館, 講師.

2014 年 10 月 8 日, 脊椎動物の骨格標本の活用について, 長浜市立西中学校 (滋賀県長浜市), 講師.

2014 年 10 月 8 日, 皆既月食の観察会, 長浜市立湯田小学校 (滋賀県長浜市), 講師.

2014 年 10 月 22 日, オリオン座流星群の観察会, 長浜市立湯田小学校 (滋賀県長浜市), 講師.

2014 年 11 月 7 日～13 日, 職場体験学習(実習), 草津市立新堂中学校, 琵琶湖博物館, コーディネーター・講師, 5 件.

2014 年 11 月 18 日～27 日, 琵琶湖博物館での体験学習(実習), 滋賀県総合教育センター, 初任者研修, 琵琶湖博物館, 講師, 4 件, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 12 月 13 日, 偏光フィルムを使った万華鏡づくり, 虎姫コミュニティセンター (滋賀県長浜市), 講師.

2015 年 1 月 23 日, 琵琶湖についての環境学習, 高島市立高島小学校 (滋賀県高島市), 講師.

視察対応

2014 年 7 月～8 月, 琵琶湖博物館の概要と体験活動について, 旅行会社, 2 件, (蜂屋正雄と共同).

2014 年 7 月 31 日, 昔くらし体験の進め方について, 石部小学校ボランティアグループ, (蜂屋正雄と共同).

2015 年 2 月 14 日, 琵琶湖博物館の学校連携について, 国営木曾三川公園・自然発見館, (蜂屋正雄と共同).

2015 年 2 月 22 日, 琵琶湖博物館の学校連携について, 七尾市自然史博物館設置準備室, (蜂屋正雄と共同).

2015年2月26日，琵琶湖博物館の学校連携について，鹿児島県立博物館，（蜂屋正雄と共同）。

2015年3月12日，琵琶湖博物館の学校連携について，香川県立ミュージアム，（蜂屋正雄と共同）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

県内学校の質問対応・コーディネート，担当，10件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年4月～2015年3月，学校等標本貸出事業，担当，51件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

JICA 博物館学集中コース，博物館の学校連携について，講師，2014年5月28日，琵琶湖博物館，（蜂屋正雄と共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014年6月～2015年2月，渋川いきものがたり作成支援委員会，委員。

2014年6月～2015年2月，滋賀大学コア・サイエンスティチャー推進事業，推進委員。

2014年度は、村落の自治と祭りを研究テーマとして、近江における宮座の歴史民俗誌の作成をめざしたフィールドワークを実施した。とくに戦国時代から現代に至る頭役帳のデータをもとに、過去500年間にわたる長期的な祭りの変動過程を明らかにし、論文等の公表を進めた。並行して京都大学人文科学研究所の共同研究「日本宗教史像の再構築」に加わり、肥後和男の近江宮座調査の学史的特徴を考察するとともに、類似する祭祀儀礼として、奈良県御所市・同天理市・茨城県北茨城市等の当屋祭祀に関する調査にも参画した。

専門研究の課題は「集落用水系をめぐる民俗儀礼の研究：近世湖南地域の虫送りと雨乞いを例に」とし、水田・用水に関連して近世に活発化する民俗儀礼をとりあげた。とくに近江地方にみられる、複数ムラが連帯して寺社に参籠する雨乞い習俗や、長距離用水に沿ってムラからムラへ連鎖的に送り継がれる虫送り習俗は、いずれも集落用水系の保全や管理に関わる村々の共同の祭りとして注目される。思うに任せない水環境に対し、村社会が働きかけを強める過程に分析を加えつつある。

さらに今年度は、地縁社会による自然資源の開発・管理とその近代化過程をテーマとした共同研究を進めた。2010～2013年度科学研究費補助金(基盤研究(B))「東北地方における地域資源の管理・利用に関する社会史的研究」(研究代表者加藤衛拓)および2014年度一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会研究助成「冠婚葬祭における献立書・料理書の受容と「男性調理」に関する研究」による研究成果として、秋田藩領の森林資源管理に関わる多層的な地域主体の存在を明らかにした原著論文を公表するとともに、いくつかの現地講演会で成果発信を進めた。

印刷物

【学術論文】

渡部圭一・芳賀和樹・福田 恵・湯澤規子・加藤衛拓(2014)阿仁銅山山麓における山村社会の森林資源管理—秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻. 筑波大学農林社会経済研究, 30, 筑波大学大学院生命環境科学研究科農林社会経済学領域: 1-54.

【専門分野の著作】

- 渡部圭一(2014)氏神と氏子. 民俗学事典編集委員会 編, 民俗学事典, 丸善出版, 東京: 430-431.
- 渡部圭一(2014)仏教と民俗. 民俗学事典編集委員会 編, 民俗学事典, 丸善出版, 東京: 438-439.
- 渡部圭一(2014)宮座とオコナイ. 民俗学事典編集委員会 編, 民俗学事典, 丸善出版, 東京: 586-587.
- 渡部圭一(2015)“門前の花屋”の商いと暮らし—中山参道商店会・花吾商店の場合. 市川市史編さん民俗部会 編, 市川のくらしと伝承II (市川市史編さん民俗部会成果報告書③), 市川市文化振興課, 市川: 23-36.
- 渡部圭一(2015)六 鐵家と鈴木家(第2章第3節)、五 鐵家代表として一鐵昭二郎さんの場合(第2章第4節)、四 鐵家と鈴木家(第3章第2節)、五 不寝番(第3章第3節)、十一 潮垢離(第3章第4節)、十二 還御・神事・当番引き継ぎ(第3章第4節). 北茨城市教育委員会 編, 常陸大津の御船祭総合調査報告, 北茨城市教育委員会, 北茨城: 122-130・142-145・175-176・203-204・239-240・241-243.
- 渡部圭一(2015)特集・〈妖怪の近代〉へのアプローチ. 現代民俗学研究, 7, 現代民俗学会: 1-3.
- 渡部圭一(2015)ベテラン助産師を助産教育の場へ—“現役最高齢”助産師 林むつさんの場合. 現代民俗学研究, 7, 現代民俗学会: 92-96.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

渡部圭一（2014年12月19日）村の祭りの長期変動をどう捉えるか：宮座儀礼における食と消費を例に。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

渡部圭一（2015年1月18日）「行き倒れ」と砂川村一役場文書からみた人の生と死。多摩郷土誌フェア関連講演会「砂川村役場文書からみた地域社会」，女性総合センターAIM（東京都立川市），[口頭発表]。

渡部圭一（2015年3月15日）肥後和男は近江で何を見たか『宮座の研究』の情熱を読み解く。京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」第7回研究会，ワークショップ「宮座をめぐる冒険－肥後和男『宮座の研究』とその周辺」，京都大学人文科学研究所（京都市左京区），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「集落用水系をめぐる民俗儀礼の研究：近世南湖地域の虫送りと雨乞いを例に」，（2014年度）。

科学研究費助成事業(基盤C)「近代地方公文書アーカイブズと民間アーカイブズの構造・情報・関連性に関する総合研究」(研究代表者：白井哲哉)，研究協力者(2014～2016年度)。

京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」(班長：大谷栄一)，班員(2014～2016年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本民俗学会，評議員。

現代民俗学会，運営委員(編集委員会)。

千葉歴史学会，委員(民俗部会)。

国立歴史民俗博物館，国立歴史民俗博物館研究報告，査読，1件。

現代民俗学会，現代民俗学研究，査読，2件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，3件。

フィールドレポーター，琵琶湖博物館，助言指導，5件。

他の博物館・機関等主催行事

2014年11月27日，むらの不思議なおまつり，社会福祉法人日本保育協会，全国保育所理事長・所長研修会，琵琶湖博物館，講師。

2014年12月21日，阿仁銅山山麓の暮らしを支えた重層的コミュニティー本郷・枝郷・孫枝郷の発見，阿仁合駅周辺活性化実行委員会・阿仁合駅ぶらぶらガイドグループ・北秋田市，平成26年度市民提案型まちづくり事業「古文書から見る」近世の村の林業について(本郷支郷・森林管理等)講演会，阿仁ふるさと文化センター(秋田県北秋田市)，講師。

2015年3月1日，地域の暮らしの核としての米内沢一町場と農村のネットワークを読み解く，森吉歴史研究会・北秋田市文化遺産保存活用実行委員会，「山と水と米内沢」講演会，北秋田市森吉公民館(秋田県北秋田市)，講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整備・収蔵庫維持管理，担当。
民俗資料，貸出対応。
写真資料，貸出対応。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう，内容指導。
モーニングレクチャー，講義，4回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011年6月～，茨城県土浦市史編さん事業，調査員。
2011年4月～，千葉県市川市史編さん事業，調査編集委員。
2012年4月～，茨城県北茨城市常陸大津御船祭記録作成事業，保護調査委員。
2014年4月～，奈良県御所市献灯行事・習俗に関する記録作成・調査事業，調査員。
2014年4月～，奈良県天理市ちゃんちゃん祭り記録作成事業，調査員。

印刷物

【一般向けの著作】

池田 勝 (2014) 第 28 回：滋賀県立琵琶湖博物館環境学習センター 池田勝さん、リアルヴォイス、こどもクラブ 全国事務局.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

池田 勝 (2013) NPO における実践の成果と課題. 水山光春 編, よくわかる環境教育, ミネルヴァ書房：162-163.

研究活動に関する業績

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2014 年 5 月～12 月, 滋賀大学, 環境学習現場実習「環境ほっとカフェの企画・広報・運営・振り返り」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2014 年 5 月 21 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2014 年 6 月 18 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2014 年 7 月 16 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2014 年 9 月 28 日, ヒノキでアロマ, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 運営.

2014 年 11 月 5 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2014 年 12 月 9 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2014 年 12 月 14 日, 淡海こどもエコクラブ活動交流会, 淡海こどもエコクラブ活動交流会, 琵琶湖博物館, 企画・全体管理・運営.

2015 年 1 月 14 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2015 年 2 月 25 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2015 年 3 月 18 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

2015 年 3 月 21 日, カトラリーワークショップ, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画・ファシリテーター・全体管理・広報・運営.

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年4月23日、琵琶湖に関する環境学習、大津市立真野北小学校、琵琶湖学習（総合的な学習）、大津市立真野北小学校（滋賀県大津市）、講師。
- 2014年6月2日、プランクトン調査と水質調査体験、関市立小金田中学校、琵琶湖学習（研修旅行）、一番丸船上（滋賀県大津市）、講師・体験サポート。
- 2014年6月7日、親子ふれあい活動一昔の暮らし体験、若鮎保育園、琵琶湖博物館、体験指導。
- 2014年6月10日、川の生きもの観察、草津市立志津南小学校、総合学習、伯母川（滋賀県草津市）、講師。
- 2014年7月11日、琵琶湖の生き物について、同志社小学校、みちくさ学習、同志社小学校（京都市）、講師。
- 2014年7月31日、学校支援メニューフェア、滋賀県教育委員会生涯学習課、ピアザ淡海（滋賀県大津市）、出展。
- 2014年7月13日、お魚タッチコーナー、第8回博物館夏祭り、ビバシティ彦根ビバシティホール（滋賀県彦根市）、運営。
- 2014年8月3日、みんなで思い川を調査しよう～!!、岩根東生涯学習委員会、岩根東公民館（滋賀県湖南市）、講師。
- 2014年8月5日、河川の生き物観察、杉江農地・水・環境保全推進協議会、杉江自治会館（滋賀県守山市）、講師。
- 2014年9月23日、手づくり味噌を使った伝統料理とでっちゃんづくり、びわ湖エコアイデア倶楽部、琵琶湖博物館、コーディネーター。
- 2014年10月24日、近江舞子の砂浜はどうしてできたのか、大津市立志賀中学校、環境学習、近江舞子（滋賀県大津市）、講師。
- 2014年10月31日、川の生き物について、同志社小学校、みちくさ学習、同志社小学校（京都市）、講師。
- 2014年11月25日、琵琶湖と川の生き物について、同志社小学校、みちくさ学習、琵琶湖博物館、講師。
- 2015年1月31日、草津こども環境会議、草津市環境政策課、草津市役所（滋賀県草津市）、出展。
- 2015年2月3日、餅つきと石臼体験、せた♪森のようちえん、琵琶湖博物館、講師。
- 2015年2月9日、野洲川での子どもたちの活動に関する情報交換会、琵琶湖河川レンジャー、野洲川ミニフォーラム、立命館守山中学校（滋賀県守山市）、コメンテーター。
- 2015年3月22日、ミズベリング大津瀬田川会議、国土交通省琵琶湖河川事務所、ウォーターステーション琵琶（滋賀県大津市）、ワークショップメンバー。

視察対応

- 2014年6月18日、幼児親子向け博物館体験プログラムについて、大森海苔のふるさと館、琵琶湖博物館。
- 2014年10月18日、環境教育視察、台湾台南市小中学校長、琵琶湖博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2014年度、メールマガジン「そよかぜ」、情報収集・編集・発行、10件。
- 2014年度、ホームページ「エコロレーが」、お知らせ更新、30件。
- 2014年度、ホームページ「エコロレーが」、情報更新、3件。
- 2014年度、ホームページ「エコロレーが」、新規図書ビデオ登録、10件。
- 2014年度、市民活動支援県域団体ブログ、情報収集・記事編集・更新、54件。
- 2014年度、相談対応、情報収集・依頼・企画、226件。
- 2014年度、団体活動取材・イベント取材・勉強会出席出張、59件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2014年度、図書ビデオ貸出し、35件。

【企画調整活動】

- 地域発見！参加型移動博物館事業、展示説明・維持管理、2014年4月27日、ピアザ淡海（滋賀県大津市）。
- 地域発見！参加型移動博物館事業、展示説明・維持管理、2014年10月12日、湖南市総合体育館（滋賀県湖南市）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2014年7月9日・9月10日～11日・11月12日～13日，研修会，（一財）鹿児島県環境技術協会，未来へ！幼児童向け環境教育プログラム開発，生命と環境の学習館（県鹿児島市），研修員，3件。
- 2014年7月17日，指導者研修会，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，大津市立皇子が丘保育園（滋賀県大津市），講師。
- 2014年7月23日，プログラム実践，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，大津市立皇子が丘保育園（滋賀県大津市），講師。
- 2014年10月1日，田んぼ遊び，せた♪森のようちえん，田んぼ（滋賀県大津市），プログラム実演。
- 2014年10月22日，指導者研修会，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，近江兄弟社学園もりの風こども園（滋賀県守山市），講師。
- 2014年10月29日，プログラム実践，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，近江兄弟社学園もりの風こども園（滋賀県守山市），講師。
- 2014年11月7日，指導者研修会，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，守山市立物部幼稚園（滋賀県守山市），講師。
- 2014年11月17日，指導者研修会，関西広域連合広域環境保全局，幼児期環境学習指導者育成研修会，神戸市立玉津第二幼稚園（神戸市），講師。
- 2014年11月19日，プログラム実践，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，守山市立物部幼稚園（滋賀県守山市），講師。
- 2014年12月3日，指導者研修会，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，社会福法人湖北報恩会長浜学舎（滋賀県長浜市），講師。
- 2014年12月10日，指導者研修会，関西広域連合広域環境保全局，幼児期環境学習指導者育成研修会，大阪市立梅本保育所（大阪市），講師。
- 2014年12月11日，プログラム実践，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，社会福法人湖北報恩会長浜学舎（滋賀県長浜市），講師。
- 2014年12月17日，指導者研修会，関西広域連合広域環境保全局，幼児期環境学習指導者育成研修会，神戸市立神戸幼稚園（神戸市），講師。
- 2015年1月24日，指導者研修会，関西広域連合広域環境保全局，幼児期環境学習指導者育成研修会，学校法人めぐみ学園紀南幼稚園（和歌山県紀伊田辺市），講師。
- 2015年2月12日，指導者研修会，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，あゆみ保育園（滋賀県草津市），講師。
- 2015年2月12日，プログラム実践，滋賀県琵琶湖環境部環境政策課，平成26年度幼児自然体験型環境学習指導者育成実践学習会，あゆみ保育園（滋賀県草津市），講師。

博物館事業に関する業績

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵資料展示情報の web 発信, 準備, 9 件.

野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)企画展「近江の自然災害—地震と水害の歴史—」へ『農稼業事』『瀬田川自普請組合村絵図』『近江国之図』貸出情報の web 発信, 準備.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)企画展「近江の自然災害—地震と水害の歴史—」へ『農稼業事』『瀬田川自普請組合村絵図』『近江国之図』, 貸出対応.

野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)企画展「近江の自然災害—地震と水害の歴史—」へ『農稼業事』『瀬田川自普請組合村絵図』『近江国之図』, 返却対応.

大津市歴史博物館へ『瀟湘八景図』, 返却対応.

『木村忠兵衛家文書』(琵琶湖博物館所蔵)仮目録, 入力, 1068 点.

「鮎ずしの記」「映波楼より琵琶湖近江八景の風勝を眺む図」, 翻刻, 実施.

「奠乃記文」(滋賀県立図書館所蔵), 翻刻, 実施.

近江関係散逸古文書履歴, 入力, 163 件.

定期収蔵庫清掃(特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 12 回.

定期清掃(収蔵庫廊下), 実施, 5 回.

定期清掃(B 展示室), 実施, 42 回.

大掃除(B 展示室・古文書整理室), 実施, 1 回.

虫カビ対策としての重点追加清掃(燻蒸室・荷解き室・トラックヤード・写場), 実施, 5 回.

IPM 対策の年次計画, 作成.

防虫防黴調査, トラップ設置回収・報告書作成, 3 回.

生物発見履歴の整備, 入力, 45 件.

pH 測定(7ヶ所), 実施, 2 回.

脱酸素処理, 実施, 3 回.

収蔵庫・展示室等の温湿度記録計用紙交換(10ヶ所), 実施, 12 回.

防虫剤投入(特別収蔵庫実施), 1 回.

収蔵庫担当者会議発表(生物環境調査結果), 実施, 2 回.

乳剤散布, 実施, 6 回.

図書室蔵書点検作業, 4 回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014 年 7 月 19 日～8 月 3 日, 第 22 回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」琵琶湖博物館所蔵「近江八景」, 企画・調査・準備・展示.

2014 年 8 月 5 日～9 月 7 日, 第 22 回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」琵琶湖博物館所蔵「近江八景」, 企画・調査・準備・展示.

2014年9月9日～10月5日, 第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」琵琶湖博物館所蔵「近江八景」, 企画・調査・準備・展示.

2014年10月7日～11月24日, 第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」琵琶湖博物館所蔵「近江八景」, 企画・調査・準備・展示.

2014年4月15日～5月18日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第46回, 企画・調査・準備・展示.

2014年5月20日～6月22日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第47回, 企画・調査・準備・展示.

2014年6月24日～8月3日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第48回, 企画・調査・準備・展示.

2014年8月5日～9月7日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第49回, 第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」関連企画Ⅰ, 企画・調査・準備・展示.

2014年9月9日～10月5日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第50回, 第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」関連企画Ⅱ, 企画・調査・準備・展示.

2014年11月18日～12月28日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第51回, 企画・調査・準備・展示.

2015年1月2日～2月8日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第52回, 企画・調査・準備・展示.

2015年2月10日～3月15日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第53回, 企画・調査・準備・展示.

2015年3月17日～4月19日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第54回, 企画・調査・準備・展示.

B展示室常設展示陳列替え, 実施, 6件.

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉 (2014) 相思社40年への賛歌. ごんずい, 134, 水俣病センター相思社, 東京: 11-12.
- 川那部浩哉 (2014) 「末期」高齢者の辯. 京大広報, 706, 京都大学: 4316.
- 川那部浩哉 (2015) (ずいひつ) 新潟水俣病と私 そして生態学 (6). 新潟水俣病第三次訴訟を支援する会たより, 21, 新潟水俣病第三次訴訟を支援する会, 新潟: 3-4.
- 川那部浩哉 (2015) 2014年読書アンケート. みすず, 57(1), みすず書房, 東京: 30-31.

研究活動に関する業績

【学会・研究会等への参加】

- 2014年11月14日～17日, 日本魚類学会, 日本魚類学会評議員会・同年会, 生命の星地球博物館 (神奈川県小田原市).
- 2015年3月18日～22日, 第62回日本生態学会, 鹿児島大学郡元キャンパス (鹿児島市).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年5月12日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会総会, 京都平安ホテル (京都市), 提言.
- 2014年5月15日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム100人委員会, リーガロイヤルNCB (大阪市), 提言.
- 2014年5月16日, 自然保護助成基金理事会, 自然保護助成基金, 渋谷区文化総合センター大和田 (東京都), 提言.
- 2014年5月20日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社 (京都市), 提言.
- 2014年5月28日, 京都市青少年科学センター, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター (京都市), 提言・コメント.
- 2014年5月30日～31日, 柿田川生態系研究会, 柿田川生態系研究会, 御殿場市民会館 (神奈川県御殿場市) ほか, コメント・現地調査.
- 2014年6月3日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン (東京都), 提言.
- 2014年6月4日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 大阪駅前第3ビル (大阪市), 提言.
- 2014年6月13日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社 (京都市), 提言.
- 2014年6月21日, アユと縄文時代からの日本人のつながり, 小国川を守る会, 小国川のアユに関する講演会, 舟形公民館 (山形県舟形町), 講演.
- 2014年6月26日～27日, 国際高等研究所, 国際高等研究所研究企画・研究推進委員会, 同研究プロジェクト「わが国の学術研究の現状の解析と将来のありかたに関する高級とアカデミアの提言」会, 国際高等研究所 (京都府木津川市), 提言.

- 2014年9月1日, 国際生物学賞委員会, 国際生物学賞委員会, 日本学術振興会(東京都), コメント.
- 2014年9月2日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), 提言.
- 2014年9月4日, 国際高等研究所, 国際高等研究所研究企画・研究推進委員会, 同研究プロジェクト「わが国の学術研究の現状の解析と将来のありかたに関する高級とアカデミアの提言」会, 国際高等研究所(京都府木津川市), 提言.
- 2014年9月16日~17日, 河川生態学術研究会, 河川生態学術研究会, 十勝ガーデンズホテル(北海道帯広市)ほか, コメント・現地調査.
- 2014年9月29日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 環境パートナーシップ=オフィス(東京都), 提言・コメント.
- 2014年10月2日, 国土交通省河川技術研究開発制度委員会, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.
- 2014年10月8日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム生物多様性部会, 阪急ターミナルビル(大阪市), コメント.
- 2014年10月16日, 京都市青少年科学センター, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター(京都市), コメント.
- 2014年10月18日, 琵琶湖の面白さ:その自然と文化, 京都大学芝蘭会滋賀支部, 京都大学芝蘭会滋賀支部総会, 北ビワコホテルグラツィエ(滋賀県長浜市), 講演.
- 2014年10月19日, 淀川本流のアユ, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会フォーラム「淀川のアユの見聞」, 京都大学防災研究所オープンラボラトリー(京都市), 講演・提言.
- 2014年11月6日, 国土交通省河川技術研究開発制度委員会, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.
- 2014年11月8日, 柿田川生態系研究会, 柿田川生態系シンポジウム・同研究会, 三島商工会議所(静岡県三島市)ほか, コメント.
- 2014年11月11日, 国際生物学賞委員会, 国際生物学賞委員会, 日本学術振興会(東京都), コメント.
- 2014年11月12日, 河川生態学術委員会, 河川生態学術委員会発表会, 発明会館(東京都), コメント.
- 2014年11月18日, 京都市青少年科学センター, 京都市青少年科学センター学術顧問会, 京都市青少年科学センター(京都市), コメント.
- 2014年11月29日, 自然保護助成基金, プロナトウラファンド助成成果発表会, こどもの城(東京都), コメント.
- 2014年12月9日~12日, 琵琶湖:その自然と文化、それに環境問題, 川那部特別講演会, 河海大学(中華人民共和国南京特別市), 講演・南京博物院見学.
- 2014年12月14日, 自然と緑, 自然大学:水域生態系一水と生きる, 近畿中国森林管理局(大阪市), 講演.
- 2014年12月26日, 日本自然保護協会, 日本自然保護協会参与会, 日本自然保護協会(東京都), コメント.
- 2015年1月21日~22日, 山階鳥類研究所, 山階鳥類研究所科学研究費特定奨励費研究成果発表会・研究調整会議, 東京大学フィールドサイエンス(東京都), コメント.
- 2015年1月26日, 国土交通省河川技術研究開発制度委員会, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.
- 2015年2月1日, 里山と水, 「自然と緑」自然大学, シンポジウム「里山から考える」, アネックス=パル法円坂(大阪市), 講演・パネルディスカッション.
- 2015年2月13日, 国土交通省河川技術研究開発制度委員会, 国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会, 国土交通省(東京都), 座長.
- 2015年2月16日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都), 提言.
- 2015年2月27日~28日, 国際高等研究所, 国際高等研究所研究企画・研究推進委員会, 同研究プロジェクト「わが国の学術研究の現状の解析と将来のありかたに関する高級とアカデミアの提言」会, 国際高等研究所(京都府木津川市), 提言.
- 2015年3月2日~3日, 国際高等研究所, 国際高等研究所研究プロジェクト「東アジアの古典演劇」会, 国際高等

研究所（京都府木津川市），コメント。
2015年3月3日～4日，京都市青少年科学センター，京都市青少年科学センター学術顧問会，京都市青少年科学センター（京都市），提言・コメント。
2015年3月11日，河川生態学術研究会，河川生態学術研究委員会，大手町ファーストスクエアカンフェレンス（東京都），コメント。
2015年3月15日，自然保護助成基金，自然保護助成基金理事会，環境パートナーシップオフィス（東京都），提言。
2015年3月19日～22日，日本生態学会，日本生態学会大会，鹿児島大学郡元キャンパス（鹿児島市），コメント。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度，琵琶湖博物館名誉学芸員。
2014年度，琵琶湖博物館特別研究員。

【海外渡航】

2014年4月17日～28日，スペイン・ポルトガル，イベリア半島北部の自然と文化に関する調査研究。

【館外の活動】

朝日21関西スクエア，会員。
生き物文化誌学会，評議員。
石垣島白保に空港を作らせない会，会員。
International Journal of Ecology and Environmental Biology，編集顧問。
Environmental Biology of Fishes，編集顧問。
応用生態工学会，名誉会員。
環境問題研究会，会員。
九条科学者の会，会員。
京大植物園を考える会，会員。
京都市青少年科学センター，学術顧問。
京都新聞社会福祉事業団，理事。
京の川の恵みを活かす会，顧問。
魚類自然史研究会，会員。
黒潮実感センター，会員。
国際高等研究所研究企画会議，委員。
国際生物学賞委員会，委員。
国土交通省河川技術研究開発制度河川生態委員会，委員長。
子どもと川とまちのフォーラム，顧問。
自然と緑「自然大学」，教授。
生態学琵琶湖賞運営委員会，委員。
世界自然保護基金ジャパン，理事。
地球環境関西フォーラム企画委員会，委員。
地球環境関西フォーラム生物多様性，委員。
地球環境関西フォーラム100人委員会，委員。
DIVERSTAS（生物多様性科学国際共同計画）科学委員会，顧問。
長良川河口堰に反対する会，会員。
長良川市民学習会，会員。
日本魚類学会，評議員。

日本自然保護協会, 参与.
日本自然保護基金, 理事.
日本生態学会, 名誉会員.
日本陸水学会, 会員.
Hydrobiologia, 編集顧問.
Brazilian Journal of Biology, 編集顧問.
水俣病センター相思社, 会員.
水俣フォーラム, 会員.
八重山白保の海を守る会, 会員.
山階鳥類研究所研究推進協議会, 委員.
リバーフロント整備センター河川・海岸環境機能等検討委員会, 委員.

印刷物

【学術論文】

- 布谷知夫・中村千恵 (2014) 博物館の仕事を知ってもらうことを目的とした事業. *博物館学雑誌*, 29 (2), 全日本博物館学会 : 15-22.
- 布谷知夫 (2015) 博物館で行われる教育学習活動と展示の関係. *三重県総合博物館研究紀要*, 1, 三重県総合博物館 : 1-7.

【専門分野の著作】

- 布谷知夫 (2014) 地域博物館的社會職責. 林秋芳・蔡明志 編, *2013 博物館興地方文化發展*, 蘭陽博物館 : 25-36
- 布谷知夫 (2014) みんなの博物館 MieMu. *日本展示学会第33回研究大会資料集*. 日本展示学会 : 4-5.
- 布谷知夫 (2014) 博物館にとっての自然保護. *地域自然史と保全*, (36) 2. 関西自然保護機構 : 81-82.
- 布谷知夫 (2014) 朝見遺跡 (第2次) 木製品の樹種同定結果. *朝見遺跡 (第1・2次) 発掘調査報告書*, 三重県埋蔵文化財センター : 159-162.
- 布谷知夫 (2015) 博物館にとっての新しい社会的役割. *museum2015 自己変革する博物館変化し続ける組織作り要旨集*, Museum2015 実行委員会 : 22-23.
- 布谷知夫 (2015) 今、求められる新しい博物館像. *博物館研究*, 50 (3). 日本博物館協会 : 14-15.

【一般向けの著作】

- 布谷知夫 (2014) ネイチャーフィーリングの観察会 自然観察のテーマ・104. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会機関誌*, 106, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4.
- 布谷知夫 (2014) 読者の皆様へ. *月刊MieMu通信*. *月刊Simple*, 6月号 : 6.
- 布谷知夫 (2014) 歩み出した、MieMu making of 三重の新県立博物館. *ミュゼ*, 108 : 22-23.
- 布谷知夫 (2014) 芭蕉翁へのあこがれ. *芭蕉さんと私II芭蕉翁生誕70年記念事業実行委員会* : 97-98.
- 布谷知夫 (2014) サクラの枝の伸び方 自然観察のテーマ・105. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会機関誌*, 107. NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-3.
- 布谷知夫 (2014) MP の発足おめでとうございます. *ミュージアム・パートナー通信*, 1. 三重県総合博物館MieMuミュージアムパートナー : 1.
- 前葉泰幸・布谷知夫・伊藤久美子・内田淳正・朴 恵淑・成 岡市・河村海斗・中村浩俊 (2015) 環境対談「世界一の環境先進大学」三重大学の地域の環境や文化向上への貢献. *環境報告書2014*, 三重大学 : 16-20.
- 布谷知夫 (2014) 館長の仕事. *みえんしず*, 1. 三重県総合博物館 : 3.
- 森 正人・布谷知夫・清水みき・代田美里 (2014) 鼎談「大学と博物館と地域」. *三重大学TRIO* : 2-7.
- 布谷知夫 (2014) 森のお仕事. *三重の森林とわたしたちの暮らし*, 三重県農林水産部みどり共生推進課 : 5.
- 布谷知夫 (2014) 自然観察の話題と勘違い 自然観察のテーマ・106. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会機関誌*, 108. NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会 : 2-4.
- 布谷知夫 (2015) 三重県総合博物館のその後. *日本の文化施設*, 水曜社 : 254-255.
- 布谷知夫 (2015) 日本の博物館が目指そうとしてきたこと. *内田塾*, 内田塾編集委員会 : 84-85.
- 布谷知夫 (2015) ごあいさつ三重県総合博物館資料叢書, 三重県総合博物館 : 1.
- 布谷知夫 (2015) 大阪自然環境保全協会はどこを目指しているのだろうか. *都市と自然*, 469. 大阪自然環境保全協会 : 3.
- 布谷知夫 (2015) その後三重県総合博物館 館長の夢に向けて. *日本の文化施設を歩く* (松本茂章・著), 水曜社 :

研究活動に関する業績

【学会・研究会などでの発表】

- 布谷知夫 (2014年5月12日) みえむの考え方と経過. 関西博物館研究会, 長岡京市市民会館, [講演].
- 布谷知夫 (2014年6月21日) みんなの博物館 MieMu. 日本展示学会研究大会講演とシンポジウム, 三重県総合文化センター, [講演].
- 布谷知夫 (2014年10月25日) 基調講演「博物館と地域社会」, 文化経済学会研究大会, 文化経済学会, 三重県総合博物館, [講演].
- 布谷知夫 (2014年11月9日) 三重県総合博物館でESD. ESD 2014 in 三重実行委員会, 三重県総合博物館, [講演].
- 布谷知夫 (2014年11月20日) 今、求められる博物館像. 日本博物館協会, 第62回全国博物館大会シンポジウム, 三重県総合文化センター, [講演].
- 布谷知夫 (2014年12月9日) 日本の博物館は何を目指そうとしてきたのか. 内田塾, 津グリーンホテル, [講演].
- 布谷知夫 (2015年1月13日) 住民とともに活動する博物館. Museum 2015「The Agile Museum, Building Institutions for Continual Change」. Museum 2015 実行委員会, 明治大学, [基調講演].
- 布谷知夫 (2015年1月13日) 研究発表9・10. Museum 2015「The Agile Museum, Building Institutions for Continual Change」, Museum 2015 実行委員会, 明治大学, [座長].
- 布谷知夫 (2015年2月18日) 今求められている新しい博物館像～三重県総合博物館～. 長野県博物館協会研修会, 長野県博物館協会・長野県教育委員会, 長野県立歴史館, [講演].

【学会等の役職・運営・論文の査読など】

- 全日本博物館学会, 運営委員.
- 全日本博物館学会, 学会誌, 編集委員.
- 博物館学雑誌, 査読, 2件.
- 2014年11月19日～21日, 第62回全国博物館大会, 実行委員会, 委員長.
- 2014年11月19日～20日, 第62回全国博物館大会, 全体会議, 議長.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催事業

- 2014年5月18日, 安土の植物, 琵琶湖博物館植物はしかけ観察会, 滋賀県近江八幡市, 講師.
- 2014年9月21日, 近江八幡の植物, 琵琶湖博物館植物はしかけ観察会, 滋賀県近江八幡市, 講師.
- 2014年11月30日, 近江神宮の植物観察, 琵琶湖博物館植物観察はしかけ観察会, 近江神宮, 講師.
- 2015年1月10日, 博物館でスゴロクをつくろう, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館はしかけ「びわたん」, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2015年3月15日, 十六坊周辺の植物観察, 琵琶湖博物館植物観察はしかけ観察会, 滋賀県甲賀市, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年4月6日, タンポポ調査の進め方, サポートスタッフ, 三重県総合博物館, 講師.
- 2014年4月6日, 博物館の紹介, サポスタ内覧会, 三重県総合博物館, 講師, 5件.
- 2014年4月8日, MieMu: 三重県総合博物館の紹介, 東海4県議会議長会, 三重県総合博物館, 講師.
- 2014年4月13日, 博物館の紹介, 内覧会, 三重県総合博物館, 講師, 8件.
- 2014年4月14日, 博物館の紹介, 内覧会, 三重県総合博物館, 講師.

2014年4月15日、レイモンドホールに関わって大学との連携を、三重大学レイモンドホール・リニューアル式典、三重大学、三重大学レイモンドホール、講師。

2014年4月16日、博物館の紹介、内覧会、三重県総合博物館、講師、6件。

2014年4月18日、ご挨拶とMieMuの紹介。三重県総合博物館MieMu開館記念式典、三重県総合博物館MieMu、三重県総合文化センター、講師。

2014年5月7日、MieMu：三重県総合博物館がやろうとしていること、鈴鹿市ロータリークラブ、鈴鹿市商工会議所、講師。

2014年4月26日、植物観察とタンポポ調査、学芸員フリートーク、三重県総合博物館、講師。

2014年5月3日、館長と歩こう、観察の林、みえむミュージアムフィールド、三重県総合博物館、講師。

2014年5月9日、MieMu：三重県総合博物館がやろうとしていること、三重県経営者協会、三重県総合博物館、講師。

2014年5月17日、三重県総合博物館1 MieMuを観る、都市環境ゼミナール、三重県総合博物館、講師。

2014年5月21日、MieMuの理念と現在、東近江市博物館群、三重県総合博物館、講師。

2014年5月23日、企画展示「日本の心」ごあいさつ。内覧会、三重県総合博物館、講師。

2014年5月24日、身近な植物観察。学芸員フリートーク、三重県総合博物館、講師。

2014年5月30日、博物館でできること、千種公民館女性教室、三重県総合博物館、講師。

2014年5月31日、身近な環境について考える、ミュージアムパートナー設立総会、三重県総合博物館、講師。

2014年7月3日、みえむの活動と紹介、津市商工会議所、三重県総合博物館、講師。

2014年7月31日、植物の観察と調査をしてみよう、三重県生物研究会、三重県総合博物館、講師。

2014年8月1日、館長と歩こう観察の森、三重県総合博物館、三重県総合博物館ミュージアムフィールド、講師。

2014年8月7日、三重県総合博物館：みえむの運営の考え方、都道府県立美術館副館長等事務責任者会議、愛知芸術文化センター、講師。

2014年8月28日、大学と地域、三重大学国際環境教育研究センター環境座談会、三重大学、講師。

2014年9月3日、森の観察会、大川学園、風の森オズ、講師。

2014年9月6日、野外実習・森の観察、NACS-J自然観察指導員講習会、三重県自然観察指導員連絡会・三重県環境教育情報センター、四日市少年自然の家、講師。

2014年9月6日、講義「自然の観察」/NACS-J自然観察指導員講習会、三重県自然観察指導員連絡会・三重県環境教育情報センター。四日市少年自然の家、講師。

2014年9月7日、野外実習・テーマひろい、NACS-J自然観察指導員講習会。三重県自然観察指導員講習会、三重県自然観察指導員連絡会・三重県環境教育情報センター、四日市少年自然の家、講師。

2014年9月10日、森 正人・布谷知夫・清水みき・代田美里鼎談、三重大学TRIO編集部、三重県総合博物館、講師。

2014年9月11日、MieMuがやろうとしていること、津西ライオンズクラブ、三重県総合博物館、講師。

2014年9月13日、博物館で身近な問題について考える、近大高専土曜講座、近畿大学工業高等専門学校、講師。

2014年9月14日、シュロでバッタを作ろう、週末ワークショップ、三重県総合博物館ワークショップコーナー、講師。

2014年9月17日、博物館とミュージアムエデュケーター、第4回文化庁エデュケーター研修、文化庁、東京国立博物館黒田記念館、講師。

2014年9月17日～19日、第4回文化庁エデュケーター研修前期、文化庁、東京国立博物館黒田記念館・東京都立葛飾天文と郷土博物館、全体コーディネーター。

2014年9月28日、ミュージアムフィールドの観察会、三重県自然観察指導員連絡会、三重県総合博物館ミュージアムフィールド、講師。

2014年10月8日、三重県の文化と自然、おもてなし三重観光ボランティアガイド連絡協議会研修会、三重県男女共同参画センター、講師。

2014年10月16日、三重県総合博物館：MieMuこれまでとこれからやりたいこと、学校事務職員研究大会、学校事務職員会総合文化センター、講師。

2014年10月18日、里山保全活動から暮らしを見つめる、三重県森林ボランティア交流大会、津市青少年野外活動

センター、講師。

2014年10月18日、みえむの使い方と楽しみ方、私学協会、総合文化センター、講師。

2014年10月26日、博物館での学びとは博物館に求められるものとボランティアの役割、四日市市立博物館ボランティア研修、四日市中部地区市民センター、講師。

2014年10月28日、MieMuの紹介、津南ロータリークラブ、三重県総合博物館、講師。

2014年11月2日、MieMuの紹介、伊賀の歴史を学ぶ会、三重県総合博物館、講師。

2014年11月3日、三重県総合博物館(MieMu)がやろうとしていること、三重県互助組合三支部合同津地区居住者の会総会及び地域魅力ディスカバリー事業、総合文化センター、講師。

2014年11月11日、MieMu 三重県総合博物館がやろうとしていること、津市商工会議所金融保険部会、三重県総合博物館、講師。

2014年11月14日、三重県総合博物館MieMu、地方自治体議員フォーラム、三重県総合博物館、講師。

2014年11月22日、大阪城公園観察会、NACS-J自然観察指導員大阪連絡会、大阪城公園、講師。

2014年11月22日、自然観察から始まる自然保護、インストラクター養成講座特別企画、大阪自然環境保全協会そよごの会、大阪府環境情報センター、講師。

2014年12月4日、博物館という場を生かす～ESDの視点から～、館長懇談会、三重県総合博物館、講師。

2014年12月6日、昭和東南海地震70年シンポジウム～過去の災害から学び、未来に生かす～、みえ防災・減災センター・三重県・三重大学、津リージョンプラザ、講師。

2014年12月10日、日本の博物館の役割・位置、第4回文化庁ミュージアムマネジメント研修、東京国立博物館黒田記念会館、講師。

2014年12月10日～12日、第4回文化庁ミュージアムマネジメント研修、東京国立博物館黒田記念会館、全体コーディネーター。

2015年1月24日、天然記念物と泉葛城山ブナ林保全の経過、和泉葛城山ブナ林リレートーク、岸和田市教育委員会、岸和田市公民館、講師。

2015年1月25日、三重県総合博物館が目指す仕事と社会的役割、三重大学医学部同門会、津都ホテル、講師。

2015年1月28日、三重の自然と文化の多様さ、医師会一志支部、久居病院、講師。

2015年1月30日、全体のまとめ、文化庁第4回エデュケーター研修、文化庁、葛飾区郷土と天文の博物館、講師。

2015年2月11日、生物多様性と私たちそして暮らし、朽木生きものふれあいの里多様性講演会、滋賀県生きものふれあい室、安曇川公民館団体活動室、講師。

2015年2月13日、三重県総合博物館の活動について、三重県埋蔵文化財専門担当者会議、三重県埋蔵文化財センター、三重県総合博物館、講師。

2015年2月27日、三重県総合博物館:MieMuで私たちの暮らしを考える、伊賀市社会福祉協議会法人内研修、伊賀市文化会館、講師。

2015年3月7日、三重県総合博物館について、滋賀県里山の会、三重県総合博物館、講師。

2015年3月11日、三重県総合博物館:MieMuで私たちの暮らしを考える、四日市市市民大学熟年クラス、四日市市教育委員会、四日市市文化会館、講師。

2015年3月21日、三重県総合博物館の運営とボランティアの考え方、三重県総合博物館、三重県総合博物館、講師。

2015年3月28日、タンポポ調査の話、三重県総合博物館・三重県ミュージアムパートナー、三重県総合博物館、講師。

館内の人事・館外活動に関すること

【館内の人事】

2014年4月1日～2015年3月31日、琵琶湖博物館名誉学芸員。

2014年4月1日～2015年3月31日、琵琶湖博物館特別研究員。

【館外の活動】

- 2014年7月12日, 皇学館大学神道博物館, 「博物館経営論」, 講義.
- 2014年8月20日, 博物館学専攻大学生, 博物館学入門「博物館実習」, 講義.
- 2014年9月19・25・26日, 滋賀県立大学, 「博物館教育論」講義.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 三重県総合博物館, 館長.
- 2014年9月25日～2015年3月31日, ESDin 三重実行委員会, 外部委員.
- 2014年3月31日～2015年3月31日, 放送大学「博物館概論」, 担当講師.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 滋賀県立大学「博物館教育論」, 非常勤講師.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 文化庁研修企画運営委員会, 座長.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会, 委員・会長代理.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, タカラフオールディング助成評価委員会, 委員.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会, 委員.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会, 委員.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 日本ヨシ笛協会, 顧問.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 関西自然保護機構, 監事.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 日本自然保護協会自然観察指導員講習会, 講師.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会, 委員.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会植物ワーキンググループ, 委員.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 顧問.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 自然観察指導員三重県連絡会, 顧問.
- 2014年4月1日～2015年3月31日, 特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 監事.
- 2014年4月1日～2015年3月1日, 三重県博物館協会, 理事.

印刷物

【学術論文】

中島経夫・呂 鹏・張 居中・中島美智代・榎林启介・袁 靖 (2015) 河南省舞阳县贾湖遗址出土の鯉科鱼类咽齿研究. *第四纪研究*, 35(1) : 192-198.

【専門分野の著作】

張 居中・程 志傑・中島経夫 (2014) 9000 年前の漁撈民—賈湖遺跡の漁撈についての試論—. *岡山理科大学紀要 B*, 50, 岡山理科大学 : 13-20.

中島経夫・大野愛有実・秋吉雄太 (2015) 南方遺跡のコイ科魚類咽頭骨 (歯) 遺存体. *岡山市埋蔵文化財センター紀要* : 55-64.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「古代農耕社会の魚 : 東アジアにおける養魚の成立」 (研究代表者 : 中島経夫), 研究代表者 (2014~2017 年度).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014 年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2014 年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

2014 年 4 月~, 岡山理科大学生物地球学部, 教授.

2014 年 4 月~, 岡山理科大学大学院総合情報学研究所, 教授.

印刷物

【専門分野の著作】

前畑政善 (2014) 魚類 (4). 菅浦の湖岸集落景観保存活用計画報告書, 滋賀県長浜市: 16-30.

【専門分野の著作】

前畑政善 (2014) 田んぼの生きものたち ナマズ. (社) 農山漁村文化協会, 東京: 56.

前畑政善 (2015) 淡水魚類. 滋賀自然研究会 編, 草津市の自然, 草津市環境経済部環境課, 草津: 24-26.

前畑政善 (2015) ワタカ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 32-33.

前畑政善 (2015) アブラヒガイ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 40-41.

前畑政善 (2015) ホンモロコ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 42-43.

前畑政善 (2015) イサザ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 128-129.

前畑政善 (2015) ゲンゴロウブナ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 154-155.

前畑政善 (2015) ニゴロブナ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 156-157.

前畑政善 (2015) カワバタモロコ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 168-169.

前畑政善 (2015) ハス. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 264-265.

前畑政善 (2015) デメモロコ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 268-269.

前畑政善 (2015) スゴモロコ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 270-271.

前畑政善 (2015) カワヒガイ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 346.

前畑政善・後藤 晃 (2015) サクラマス (ヤマメ). レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 347.

前畑政善 (2015) サツキマス (アマゴ). レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 348.

前畑政善 (2015) ビワマス. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 348.

前畑政善 (2015) ナガブナ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 361.

前畑政善 (2015) ビワヨシノボリ. レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4 汽水・淡水魚類, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京: 375.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

2014年6月～，日本魚類学会自然保護委員会，淡水魚部会長。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

2015年3月19日，HNKテレビ おうみ発610，びわ湖興味新深～謎の固有種「イワトコナマズ」を追え！，コメント出演。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年度，琵琶湖博物館名誉学芸員。

2014年度，琵琶湖博物館特別研究員。

【館外の活動】

2014年5月～2016年3月，長浜市（滋賀県）文化的景観保存活用委員会，委員。

2000年5月～2015年4月，滋賀県生きもの総合調査委員会（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課），委員（魚貝類部会長）。

2012年3月～2014年2月，滋賀県環境審議会自然環境部会指定希少野生動植物種および指定外来種に関する選定専門委員（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課）。

2012年7月～2015年6月，希少野生動植物保存推進員（滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課）。

2014年3月～2015年3月，外来種中国産オオサンショウウオ対策検討会（京都市），委員。

2014年6月～2015年3月，京都府建設交通部河川課，畑川ダム環境保全検討委員会，委員。

2014年9月～2016年8月，大阪府環境影響評価審査会，委員。

2014年6月～2015年3月，農村まるごと保全推進委員会（滋賀県農政水産部農村振興課），委員。

2010年～，ハリヨ問題検討会，委員。

2014年11月～2015年11月，近畿地方ダム等管理フォロー～アップ委員会（独）水資源機構，委員。

2014年7月～2015年3月，日吉ダム冷濁水対策検討会（（独）水資源機構），委員。

2014年5月～2015年3月，琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度（国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所），委員。

2012年7月～2015年6月，希少野生動植物種保存推進員（環境省自然環境局）。

2014年8月～2015年3月，絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会（環境省自然環境局），検討員（淡水魚類作業部会）。

2012年4月～，神戸学院大学人文学部，教授。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- H., E. Amano (2014年8月14日) Population genetic structure of an invasive species, the Red-billed Leiothrix. Invasion Genetics: The Baker and Stebbins Legacy Symposium, Asilomar Conference Grounds (Pacific Grove, CA), [ポスター発表].
- H., E. Amano and K., Eguchi (2014年8月20日) Nest-site selection and foraging behavior of introduced Red-billed Leiothrix and native species of Japan. 26th International Ornithological Congress, Rikkyo University (Tokyo), [ポスター発表].
- 天野一葉 (2014年11月29日) 外来種ソウシチョウの分布の変化. 第9回バードリサーチ研究集会, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [ポスター発表].
- 天野一葉 (2015年1月16日) 外来鳥類ソウシチョウの現状と地域集団の遺伝的關係. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 天野一葉 (2015年3月8日) ソウシチョウの暮らしとウグイスへの影響. 大阪鳥類研究グループ総会, 大阪鳥類研究グループ, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業 (基盤 C) 「遺伝情報に基づいた侵略的外来種ソウシチョウの駆除管理ユニットの策定」 (研究代表者: 天野一葉), 研究代表者 (2013~2015年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Bird Research, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2014年12月23日, 鳥の観察会, 観察会, 瀬田川・大津市, 講師, (ホテルの学校・琵琶湖博物館共催).

他の博物館・機関等主催行事

- 2014年6月8日, 千丈川の水生昆虫についての講話, ほたるの集い, ホテルの学校, 千丈川 (滋賀県大津市), 補助.

印刷物

【専門分野の著作】

- 植田文雄 (2014) 馬王堆漢墓を訪ねて. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—, 琵琶湖博物館: 18.
- 植田文雄 (2014) エリの歴史とそのルーツ. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—, 琵琶湖博物館: 44-45.
- 植田文雄 (2014) 長江流域の先史時代. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—, 琵琶湖博物館: 54.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 植田文雄 (2015年3月20日) 先史時代の漁撈民—あまとやな—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- アジア考古学研究機構, 研究部長.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2006年度～, 東近江市史編纂委員会, 調査執筆委員.
- 2008年度～, 佛教大学, 非常勤講師.

印刷物

【学術論文】

- Ota, Y. (2014) Three new gnathiid species with larvae ectoparasitic on coastal sharks from southwestern Japan (Crustacea: Isopoda). *Zootaxa*, 3857 (4), Magnolia Press: 478-500.
- 太田悠造 (2014) 外来種ツノオウミセミ *Paracerceis sculpta* (甲殻亜門; フラジムシ目; コツブムシ科) の報告とクビレヅタへの影響. *日本ベントス学会誌*, 69, 日本ベントス学会: 1-5.
- Ota, Y. (2015) Pigmentation patterns are useful for species identification of third-stage larvae of gnathiids (Crustacea: Isopoda) parasitizing coastal elasmobranchs in southern Japan. *Systematic Parasitology*, 90, Springer: 269-284.

【専門分野の著作】

- 太田悠造 (2015) 普及・教育のための超ぬいぐるみ製作法. *うみうし通信*, 86, 公益財団法人 水産無脊椎動物研究所: 8-11.

【一般向けの著作】

- 太田悠造 (2015) エビの佃煮のダンゴムシを探せ!. *琵琶博だより*, 19, 琵琶湖博物館: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 太田悠造 (2014年5月19日) 日本におけるウミクワガタ類の分類と生態. 京都大学理学部動物系統学セミナー, 京都大学 (京都市左京区), [口頭発表].
- 太田悠造 (2014年6月15日) トンボウミクワガタ *Tenerognathia visus* (甲殻亜門: フラジムシ目) の幼生および雌成体の形態と交尾行動. 日本動物分類学会第50回大会, 国立科学博物館 (茨城県つくば市), [口頭発表].
- 柘原 宏・太田悠造 (2014年9月11日) 公募型シンポジウム「数ミリ以下の動物学 III」. 日本動物学会第85回大会, 東北大学川内北キャンパス (仙台市青葉区), [企画・運営].
- 太田悠造 (2014年9月25日) エビノコバン (甲殻亜門, フラジムシ目, ニセウオノエ科) の自然史の解明. 広島大学生物生産学部 第2回寄生生物学セミナー, 広島大学 (広島県東広島市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 公益財団法人 水産無脊椎動物研究所 個別助成「ウミクワガタ科における大顎の種内変異の要因、機能、内部構造の解明」(研究代表者: 太田悠造), 研究代表者 (2014年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本動物学会, 日本動物学会第85回大会の一般公開企画「動物学ひろば」, 数ミリ以下の動物学 企画・運営, 2014年9月13日.
- 沖縄生物学会, 沖縄生物学会誌, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2014年8月2日，夜の屋外展示を探検しよう!!，からすま半島で楽しもう，琵琶湖博物館，協力.

他の博物館・機関等主催行事

2014年8月21日，虫について，NPO法人百菜劇場，はたけっこ vol.5，島コミュニティーセンター（滋賀県近江八幡市），講師.

2015年1月18日，滋賀県の昆虫，森好きあつまれ～1，びわこ文化公園（滋賀県大津市瀬田南大萱町），講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2014年6月16日～20日，デンマーク（コペンハーゲン大学・デンマーク自然史博物館・動物学博物館），ウミクワガタ類のタイプ標本調査.

【館外の活動】

2014年度，環境省，平成26年度の海産生物のレッドリスト 甲殻類の一部，担当者.

印刷物

【学術論文】

柏尾珠紀 (2014) 環境配慮的な農業を支える田をめぐる記憶—琵琶湖畔の農村集落の調査から—, 滋賀大学環境総合センター研究年報, 11(1), 滋賀大学環境総合センター: 33-43.

【専門分野の著作】

柏尾珠紀 (2014) 地域における女性の力. 家族・集落・女性の底力 シリーズ地域の再生, 11. 農村漁村文化協会: 225-344.

柏尾珠紀 (2014) 西の湖水辺の暮らしの特徴. 滋賀ふるさとの食と環境再生型暮らし, 滋賀の食事文化研究会, 滋賀大学教育学部久保加織研究室: 14-16.

【一般向けの著作】

柏尾珠紀 (2014) 湖国の食シリーズ 野洲市須原のよし団子. 中日新聞, 中日新聞社, 7月2日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

柏尾珠紀 (2014年7月25日) 第11回守山ほたるパーク&ウォークアンケート調査結果報告. 守山ほたるパーク&ウォーク全体会, 守山ほたるパーク&ウォーク実行委員会, 守山市エルセンター (滋賀県守山市), [口頭発表].

柏尾珠紀 (2014年9月28日) 滋賀における女性の漁労. 日本村落研究学会中国四国地区研究会, 日本村落研究学会, 岡山大学津島キャンパス (岡山市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業「食・農・暮らしの再編とむらの女性力についての社会学的研究」(研究代表者: 柏尾珠紀), 研究代表者 (2014~2017年度).

滋賀大学環境総合研究センター「統合的湖沼流域管理においてハートウェア(心・水文化・記憶)が果たす機能の研究—琵琶湖の環境保全を担う新しい公共性を体現した高度人材の効果的育成に向けて」(研究代表者: 梅澤直樹), 研究分担者 (2012~2014年度).

科学研究費助成事業「森林・林業における女子力の解明とジェンダー主流化」(研究代表者: 中道仁美), 研究分担者 (2013年度~2015年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2014年8月7日, 私たちの食と農, 伊丹市ラスタ教養大学, 伊丹市ラスタ教養大学一般教養コース第4回, ラスタホール (兵庫県伊丹市), 講師.

メディアへの協力

2014年6月27日, KBS 京都ラジオ, 近江美味しもの 野洲須原のよし団子, 出演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2009年4月～, 京都府中山間地域等直接支払制度委員会, 委員.

2011年4月～, 京丹後市丹後広域振興局、第2次ふるさと協援活動事業, 調印.

2014年7日～, 守山ほたるパーク&ウォーク実行委員会, 委員.

2014年度, 龍谷大学社会学部, 非常勤講師.

2014年後期, 高知大学人文学部, 非常勤講師.

印刷物

【学術論文】

小西雅樹・川瀬成吾 (2014) 淀川水系木津川へのコクチバスの侵入. *魚類学雑誌*, 61: 46-48.

【一般向けの著作】

川瀬成吾 (2014) ヨドゼゼラ 新種記載への道. *月刊アクアライフ*, 7月号, エムピージェー: 22-23.

川瀬成吾 (2014) 魚の科学スケッチ入門. *月刊アクアライフ*, 9月号, エムピージェー: 52-53.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

川瀬成吾 (2014年8月15日) ゼゼラ類の保全分類学的研究～琵琶湖・淀川流域における魚類多様性解析と保全を目指して～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Kawase, S. (2014年8月16日) Systematics of *Biwia* and *Microphysogobio* (Cyprinidae; Gobioninae) with conservation implication. International Natural History of Fish Conference, 丹陽生態学習館 (韓国忠清北道 丹陽), [ポスター発表].

田中和大・川瀬成吾・早坂大亮・細谷和海 (2014年12月21日) 京都市の伝統的農業水路における魚類相. 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

川瀬成吾 (2014年12月21日) 琵琶湖地域の水田生物研究会. 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [座長].

川瀬成吾・石橋 亮・内藤 馨・山本義彦・鶴田哲也・田中和大・木村亮太・小西雅樹・上原一彦 (2015年1月25日) 淀川流域における外来魚類の生息状況. 第十回外来魚情報交換会, 草津市立市民交流プラザ (滋賀県草津市), [口頭発表].

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014年9月～2015年1月, 近畿大学, 講師.

印刷物

【一般向けの著作】

- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 1:満州報国農場勤労奉仕隊旗. 京都新聞, 京都新聞社, 4月12日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 2:清酒【大飛行政宗】の看板. 京都新聞, 京都新聞社, 4月26日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 3:日章旗の為め書き. 京都新聞, 京都新聞社, 5月10日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 4:「命の恩人」の双眼鏡. 京都新聞, 京都新聞社, 5月31日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 5:飛行場拡張に関わる書類. 京都新聞, 京都新聞社, 6月14日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 6:飛行機の無線機を改造した受信機. 京都新聞, 京都新聞社, 6月28日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 7:70年前の学習机. 京都新聞, 京都新聞社, 7月12日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 8:田んぼで見つかった機銃弾. 京都新聞, 京都新聞社, 7月26日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 9:神風特別攻撃隊竜虎隊の飛行靴. 京都新聞, 京都新聞社, 8月16日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 11:夫の形見の観音. 京都新聞, 京都新聞社, 9月13日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 12:捕虜収容所に投下された箱. 京都新聞, 京都新聞社, 9月27日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 13:戦地からのハガキ. 京都新聞, 京都新聞社, 10月11日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 14:絵日記. 京都新聞, 京都新聞社, 10月25日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 15:城南国民学校の卒業写真. 京都新聞, 京都新聞社, 11月8日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 16:戦死した義兄の遺書. 京都新聞, 京都新聞社, 11月22日.
- 北村美香(2014)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 17:日の丸の鉢巻き. 京都新聞, 京都新聞社, 12月13日.
- 北村美香(2015)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 18:学校で描いた軍艦の絵. 京都新聞, 京都新聞社, 1月24日.
- 北村美香(2015)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 20:遺書として書いた寄せ書き. 京都新聞, 京都新聞社, 2月28日.
- 北村美香(2015)モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 21:主人との思い出の水筒. 京都新聞, 京都新聞社, 3月14日.

北村美香（2015）モノが語る県民の戦争 滋賀県平和祈念館収蔵品から 22：父が作った竹やり．*京都新聞*，京都新聞社，3月28日．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

日高昭子・北村美香（2014年6月29日）情報に着目した博物館資料論の一考察 滋賀県平和祈念館の取り組みから③．第40回研究大会，全日本博物館学会，明治大学（東京都），[口頭発表]．

佐久間大輔・北村美香・佐々木秀彦（2015年1月15日）博物館を取り巻くユーザーコミュニティの形成．Museum2015 TOKYO パネルディスカッション4，Museum 2015 TOKYO 実行委員会，明治大学（東京都），[口頭発表・パネリスト]．

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」（研究代表者：小川義和，研究協力者（2013～2015年度））．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2014年4月13日，博物館での調査研究，滋賀県平和祈念館ボランティア勉強会，滋賀県平和祈念館，講師．

2014年4月26日・7月19日，博物館ボランティアについて，滋賀県平和祈念館ボランティア勉強会，滋賀県平和祈念館，講師．

2014年5月17日，博物館展示論，滋賀県平和祈念館ボランティア勉強会，滋賀県平和祈念館，講師．

2014年7月13日，紙芝居，博物館夏祭り，博物館夏祭り実行委員会，ビバシティ彦根（滋賀県彦根市），講師・実行委員．

【展示活動】

他博物館・機関の活動

+plants 企画展「染司よしおか 染の仕事～烏梅と紅花染作品展」，叶匠壽庵 寿長生の郷，2015年3月7日～15日，展示デザイン．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県平和祈念館，学芸員．

博物館夏祭り実行委員会，実行委員．

2014年6月11日，桃山学院大学，講師．

2014年9月～2015年3月，びわこ学院大学子ども学科，講師．

印刷物

【専門分野の著作】

- Kuroiwa, K. (2014) The Power of Museum for a Better Future with Diverse People. *3rd Asian Children's Museum Conference "Children and Cultural Diversity" Conference book*, Gyeonggi Children's Museum, Gyeonggi Children's Museum: 96-104.
- 黒岩啓子 (2014) 展示企画につながる展示評価. *第33回研究大会発表要旨集*, 日本展示学会: 32-33.
- 黒岩啓子 (2014) 学芸員養成課程受講生の実態調査と博物館マーケティング. *第40回研究大会発表要旨集*, 全日本博物館学会: 13-14.
- Kuroiwa, K. (2014) Collaborative Approach to Create Communicative Learning Environment. *13th ICOM-UMAC & 45th annual ICOM-CECA Conference "Squaring the Circle? Research, Museum, Public: A Common Engagement towards Effective Communication" Conference book*, ICOM: 46-47.
- 渡邊淳子・黒岩啓子・中川あや (2014) 平城宮跡資料館来館者を対象とした展示評価調査と都城関連遺跡展示の現状と課題. *奈良文化財研究所紀要 2014*, 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所: 76-78.
- 黒岩啓子 (2014) 平成24年度第3回基礎部門部会・第2回近畿支部会 合同研究会開催報告. *日本ミュージアム・マネージメント学会会報*, 69 (18) 4, 日本ミュージアム・マネージメント学会: 8-12.
- 黒岩啓子 (2014) 韓日研究国際フォーラム②. *日本ミュージアム・マネージメント学会会報*, 71 (19) 2, 日本ミュージアム・マネージメント学会: 25-27.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Kuroiwa, K. (2014年5月29日) The Power of Museum for a Better Future with Diverse People. *3rd Asian Children's Museum Conference "Children and Cultural Diversity"*, Gyeonggi Children's Museum, Gyeonggi Children's Museum (Gyeonggi, Korea), [Invited Speaker].
- 黒岩啓子 (2014年6月22日) 展示企画につながる展示評価. *第33回研究大会*, 日本展示学会, 三重県総合博物館 (三重県津市), [口頭発表].
- 黒岩啓子 (2014年6月28日) 学芸員養成課程受講生の実態調査と博物館マーケティング. *第40回研究大会*, 全日本博物館学会, 明治大学 (東京都千代田区), [口頭発表].
- Kuroiwa, K. (2014年10月10日) Collaborative Approach to Create Communicative Learning Environment. *13th ICOM-UMAC & 45th annual ICOM-CECA Conference "Squaring the Circle? Research, Museum, Public: A Common Engagement towards Effective Communication"*, ICOM, Bibliotheca Alexandrina (Alexandria, Egypt), [Oral presentation].
- Kuroiwa, K. (2014年10月14日) Museums' Responsibility for Our Future. *National Museum of Egyptian Civilization, Museum staff training seminar*, National Museum of Egyptian Civilization (Cairo, Egypt), [Speaker].
- 黒岩啓子 (2014年12月21日) 韓国と日本における博物館専門職員養成課程の現状と課題. *平成26年度日本ミュージアム・マネージメント学会基礎部門研究部会第7回研究会*, 日本ミュージアム・マネージメント学会基礎部門研究部会, 千葉市科学館 (千葉市), [口頭発表].
- 黒岩啓子 (2015年3月20日) 展示企画開発段階における展示評価. *琵琶湖博物館研究セミナー*, 琵琶湖博物館,

琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業「ミュージアムと地域活性化ー変容するミュージアムの新たな経営課題」(研究代表者:河島伸子), 研究分担者:佐々木亨(北海道大学)への研究協力者(2014年4月~2016年3月).

国立民族学博物館「文化資源プロジェクト博学連携教員研修ワークショップ 2014 in みんなぽく」(研究代表者:上羽陽子), 共同研究員(2014年度).

笹川科学研究助成(実践研究)「東近江市で育まれた有形・無形の先人の遺産を次代へ伝え, 未来のまちづくりを担う人材を育むためのシステムの構築」(研究代表者:上平千恵), アドバイザー(2013年4月~2016年3月).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネジメント学会, 基礎部門研究部会幹事, 2009年4月~.

日本ミュージアム・マネジメント学会, 近畿支部幹事, 2009年4月~.

全日本博物館学会, 役員, 2014年6月~.

日本展示学会, 査読, 1件.

全日本博物館学会, 査読, 2件.

日本学術振興会研究拠点形成事業「アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流」特別講演会「ミュージアムの最前線における学びと創造性」, 企画コーディネーター・総合司会, 2014年11月~2015年1月.

日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門研究部会, 平成26年度第9回研究会「指定管理者制度の開始と博物館法改正~制度改正の概観と博物館の社会的役割の多様性~」, 司会進行, 2015年3月1日.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月~, 奈良女子大学, 「博物館教育論」.

2012年4月~, 京都光華女子大学, 「博物館教育論」.

2012年9月~, 関西学院大学, 「博物館教育論」.

2013年4月~, 奈良女子大学, 「博物館情報・メディア論」.

2014年4月~2015年3月, 近畿大学, 「博物館概論」.

2014年11月~2015年3月, 京都光華女子大学, 「博物館展示論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2014年8月5日, 国立民族学博物館・日本国際理解教育学会共催 博学連携教員研修ワークショップ 2014 in みんなぽく「学校と博物館でつくる国際理解教育ーセンセイもつくる・あそぶ・たのしむ」, 国立民族学博物館(大阪府吹田市), ワorkshop「モノとの対話:何が聞こえる?何が見える?」, 企画・実施.

【展示活動】

他博物館・機関の活動

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館, 2013年6月~2016年3月, 展示評価・来館者調査企画実施.

【企画調整活動】

JICA博物館学コース, Museum Evaluation Methods, Evaluation of the LBM, 講師, 2014年5月23日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2014年5月29日～31日，韓国（京畿道），3rd Asian Children's Museum Conference "Children and Cultural Diversity" で招待講演.

2014年10月9日～14日，エジプト（アレキサンドリア），13th ICOM-UMAC & 45th annual ICOM-CECA Conference "Squaring the Circle? Research, Museum, Public: A Common Engagement towards Effective Communication" で講演・発表.

【館外の活動】

2003年9月～，日本ミュージアム・マネジメント学会，会員.

2003年9月～，全日本博物館学会，会員.

2005年4月～，関西博物館研究会，会員.

2006年2月～，日本国際理解教育学会，会員.

2009年4月～，日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門研究部会，幹事.

2009年4月～，日本ミュージアム・マネジメント学会近畿支部，幹事.

2010年10月～，日本展示学会，会員.

2012年3月～，文化遺産国際協力コンソーシアム，会員.

2012年4月～，国立民族学博物館文化資源共同研究員.

2012年11月～，東近江市博物館グループ 博物館評価ワーキンググループ，外部協力者.

2012年12月～，三重県立博物館 博物館評価ワーキンググループ，外部協力者.

2013年7月～2015年3月，東近江市西堀榮三郎記念探検の殿堂（滋賀県東近江市），運営協議会委員.

2014年4月～，ICOM（International Council of Museums，国際博物館会議）会員.

2014年6月～，全日本博物館学会，役員.

2014年10月～11月，天王寺公園・動物園における表示板デザイン作成等業務委託にかかる公募型プロポーザル方式受託者選考委員会，外部有識者.

2014年12月，一般社団法人自然環境共生技術協会，多言語化対応サイン表示に関する聞き取り調査，外部有識者.

印刷物

【学術論文】

- Shinohara, K., Maruyama, A., Rusuwa, B. and Ohtsuka, T. (2014) Taxonomic revision of three diatoms found in Lake Malawi: *Afrocybella brunii* (Fricke) comb. nov., *Afrocybella rossii* (Kociolek & Stoermer) comb. nov., and *Aulacoseira euareolata* (O. Müller) comb. nov. et nom. nov. *Phycological Research*, 62, Wiley: 9-15.
- Maruyama, A., Shinohara, K., Sakurai, M., Ohtsuka, T. and Rusuwa, B. (2015) Microhabitat variations in diatom composition and stable isotope ratios of the epilithic algae in Lake Malawi. *Hydrobiologia*, 748, Springer: 161-169.

印刷物

【学术论文】

- Zhu, W., Li, M., Luo, Y.G., Dai, X.X., Guo, L.L. Xiao, M., and Tan, X. (2014) Vertical distribution of *Microcystis* colony size in Lake Taihu: Its role in algal blooms. *Journal of Great Lakes Research*, 40, Elsevier: 949-955.
- Zhao, X.L., Zhu, W., Huang, J.Y., Li, M. and Gong M. (2014) Emission characteristics of PCDD/Fs, PAHs and PCBs during the combustion of sludge-coal water slurry. *Journal of the Energy Institute*, 88, Elsevier: 105-111.
- Zhu, W., Dai, X.X. and Li, M. (2014) Relationship between extracellular polysaccharide (EPS) content and colony size of *Microcystis* is colonial morphology dependent. *Biochemical Systematics and Ecology*, 55, Elsevier: 346-350.
- Zhang, H.W., Zhu, W., Xu, Z.R. and Gong, M. (2014) Gasification of cyanobacterial in supercritical water. *Environmental Technology*, 35, Taylor & Francis: 2788-2795.
- Li, M., Zhu, W., and Gao, L. (2014) Analysis of cell concentration, volume concentration, and colony size of *Microcystis* via laser particle analyzer. *Environmental Management*, 53, Springer: 947-958.
- Li, M., Zhu, W., Dai, X.X. Xiao, M., Appiah-Sefah, G. and Nkrumah, P.N. (2014) Size-dependent growth of *Microcystis* colonies in a shallow, hypertrophic lake: use of the RNA-to-total organic carbon ratio. *Aquatic Ecology*, 48, Springer: 207-217.
- Gong, M., Zhu, W., Z.R. Xu, Zhang, H.W. and Yang, H.P. (2014) Influence of sludge properties on the direct gasification of dewatered sewage sludge in supercritical water. *Renewable Energy*, 66, Elsevier: 605-611.
- Zhu, W., Li, M, Dai, X.X. and Xiao, M. (2014) Differences in vertical distribution of *Microcystis* morphospecies composition in a shallow hypertrophic lake (Lake Taihu, China). *Environmental Earth Sciences*, Springer (published online).
- Zhu, W., Wang, R., Zuo, J., Lin, C. and Min, F.L. (2014) Improved isotropically consolidated undrained triaxial test method for non-self-supporting materials. *Geotechnical Testing Journal*, 37, ATSM International: 1-11.
- Gong, M., Zhu, W., Zhang, H.W., Ma, Q., Su, Y. and Fan, Y.J. (2014) Influence of NaOH and Ni catalysts on hydrogen production from the supercritical water gasification of dewatered sewage sludge. *International Journal of Hydrogen Energy*, 39, Elsevier: 19947-19954.
- Zhao, X.L., Zhu, W., Xu, D.F., Ying, C., Xia, Y., Chu, Y. and Yang, X.X. (2014) Contents and characteristics of phthalic acid esters in municipalsewage sludge in Jiangsu Province. *Advanced Materials Research*, 864, Trans Tech Publications: 861-865.
- Min, F.L., Zhu, W., Lin, C. and Guo, X.J. (2015) Opening the excavation chamber of the large-diameter size slurry shield: A case study in Nanjing Yangtze River Tunnel in China. *Tunnelling and Underground Space Technology*, 46, Elsevier: 18-27.
- 魏代伟·朱伟·闵凡路 (2014) 砂土地层泥水盾构泥膜形成时间及泥浆压力转化率的试验研究. *岩土力学*, 35, 中国科学院武汉岩土力学研究所: 423-428.
- 徐骏·朱伟 (2014) 污水处理厂脱水污泥中重金属的分布规律. *水资源保护*, 30(2), 河海大学: 62-66.
- 张会文·朱伟·包建平·魏代伟·舒实 (2014) 污泥原位固化-稳定化处理中试研究. *环境工程*, 2014(8),

冶金部建筑研究总院;中国环境工程学会:101-104.

史海岭·朱伟·闵凡路·张亚洲(2014)扬州瘦西湖盾构隧道泥水系统中黏土块的溶崩规律研究. *科学技术与工程*, 14(11), 中国技术经济学会:61-64.

钱勇进·朱伟·孙政·龚森(2014)蓝藻藻泥固结特性的试验研究. *水资源与水工程学报*, 25(2), 西北农林科技大学:136-139.

李小平·朱伟(2014)土壤孔径分布对污染物迁移过程中弥散系数的影响. *水资源与水工程学报*, 25(2), 西北农林科技大学:172-175.

姜腾·朱伟·闵凡路·魏代伟(2014)泥水盾构开舱时的泥膜闭气性能及改性方法. *地下空间与工程学报*, 10(3), 永兴土木:504-509.

程康睿·朱伟·董婵·汤苏晨(2014)水力条件对芦苇湿地系统D0质量浓度的影响. *水资源保护*, 30(3), 河海大学:76-80.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2014年11月1日,太湖の水辺の暮らし,プレミアム・レストラン スペシャルトーク,琵琶湖博物館,講演.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木隆仁・古屋秀隆 (2014年6月13日) 滋賀県の水田より発見した *Dichaetura* 属の未記録種. 第50回日本動物分類学会筑波大会, 動物分類学会, 国立科学博物館筑波研究施設 (茨城県つくば市), [ポスター発表].

鈴木隆仁・古屋秀隆 (2014年9月11日) 水田におけるイタチムシ類の生活環. 第85回日本動物学会宮城大会, 日本動物学会, 東北大学川内北キャンパス (仙台市), [口頭発表].

鈴木隆仁 (2014年12月21日) 滋賀県の水田で見られる変わったイタチムシ "*Dichaetura*". 第5回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

印刷物

【学術論文】

瀬口眞司 (2014) 世界の中の縄文文化. *考古学研究*, 61 (2), 考古学研究会 : 16-29.

瀬口眞司 (2014) 土偶の意味と機能. *考古学研究 60 周年記念誌考古学研究 60 の論点*, 考古学研究会 : 15-16.

SEGUCHI, S. (2014) Landscape Neolithisation around East Asian Inland Seas. The Neolithization in Lake Biwa, Central Japan. *Journal of World Prehistory*, DOI 10.1007/s10963-014-9078-9, Springer Science + Business Media New York: 1-21.

【専門分野の著作】

瀬口眞司 (2015) 縄文時代～古墳時代前期の集団規模の推移—琵琶湖周辺地域における先史社会の展開過程に関する覚書 (1) —. *紀要*, 28, 公益財団法人滋賀県文化財保護協会 : 1-12.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

瀬口眞司・細谷 葵・中村 大・渋谷綾子 (2014 年 4 月 19・20 日) 日本考古学の国際化. 考古学研究会第 60 回研究集会, 考古学研究会, 岡山大学 (岡山市), [ポスターセッション].

瀬口眞司 (2014 年 4 月 20 日) 世界の中の縄文文化. 考古学研究会第 60 回研究集会, 考古学研究会, 岡山大学 (岡山市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 共同研究者 (2014 年度).

【受賞など】

第 15 回 宮坂英弉記念尖石縄文文化賞, 2014 年 10 月 11 日, 琵琶湖周辺の縄文文化の研究.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

国立歴史民俗博物館, リニューアル委員会, 委員.

2014 年度, 奈良大学, 非常勤講師.

印刷物

【学術論文】

高梨純次 (2014) 石山寺の創建—近江の仏像史考える前提として—, *淡海文化財論叢*, 6, 淡海文化財論叢刊行会: 5-10.

【専門分野の著作】

高梨純次 (2014) *近江の古像*. 思文閣出版: 399p.

高梨純次 (2014) *獅子と狛犬—神獣が来たはるかな道*. MIHO MUSEUM 編, 青幻社: 243-255.

高梨純次 (2014) *密教寺院から平等院へ*. 伊東史朗 編, *日本美術全集 4 平安時代1*, 小学館: 230-236.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 共同研究者 (2014 年度).

博物館事業に関する業績

【展示活動】

他博物館・機関の活動

FREDERIK MEIJER Garden and Sculpture Park (ミシガン州 USA), 2015 年 1 月 30 日～8 月 14 日予定, 『SPLENDORS of SHIGA:TREASURES from JAPAN』, 展覧会企画.

MIHO MUSEUM, 2014 年 9 月 20 日～12 月 14 日, 『獅子と狛犬—神獣が来たはるかな道』, 展覧会企画.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014 年 9 月, 京都女子大学, 集中講義「博物館展示論」.

2014 年 10 月, 京都造形大学通信教育部, 「美術資料調査方法論」, 講義.

2014 年度上半期, 同志社大学, 「博物館概論」, 講義.

2014 年度下半期, 同志社大学, 「博物館経営論」, 講義.

印刷物

【専門分野の著作】

辻川（井上）智代（2015）滋賀県にみる地機の変遷. 同志社大学考古学シリーズX I 森浩一先生に学ぶ（森浩一追悼論集），同志社大学考古学シリーズ刊行会：893-905.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

辻川智代(2014年12月19日)民具名称から近江の地域文化圏を探る. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

日本常民文化研究所共同研究「民具の名称に関する基礎的研究」(研究代表者：神野善治), 共同研究者(2014年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2014年, 龍谷大学国際文化学部, 民俗学入門「琵琶湖の漁業」「滋賀県の農業」「滋賀県の機織り」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「近江はたおり探検隊」, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2014年7月19日～11月24日, 琵琶湖博物館第22回企画展示「魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし—」, 図録編集・展示パネル作成.

印刷物

【学術論文】

Nakano, S., Sawaki, T. and Sasaki, M. (2014) Microtexture and compositional variation of alkali feldspars from the Kakkonda granitic pluton, northeast Japan: Implications to the formation processes of granitic textures. *Journal of mineralogical and petrological sciences*, 109, Japan Association of Mineralogical Sciences: 138-150.

中野聰志・沓掛俊夫・周琵琶湖花崗岩団体研究グループ (2014) 結晶作用末期～固結後の熱水作用による花崗岩組織の再構成：琵琶湖西方の対照的な二つの白亜紀花崗岩質岩体の鉱物学的検討. *岩石鉱物科学*, 43, 日本鉱物科学会: 184-199.

貴治康夫・周琵琶湖花崗岩団体研究グループ (中野ほか10名) (2014) 比叡花崗岩体にみられる苦鉄質岩脈のK-Ar年代. *地球科学*, 68, 地学団体研究会: 149-150.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

多賀 優・河野俊夫・中野聰志 (2015年2月8日) 紫色レーザー光による蛍光現象を用いた方解石の複屈折についての教材. 琵琶湖博物館地学研究室第30回地学発表会, 滋賀大学サテライト, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

周琵琶湖花崗岩団体研究グループ「滋賀県下花崗岩質岩体の研究」(研究代表者: 多賀 優), 研究分担 (2014年度).
ペグマタイト研究会「滋賀県下のペグマタイト研究」(研究代表者: 河野俊夫), 研究分担 (2014年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

地学団体研究会, *地球科学*, エディター, 2008年～2016年3月.

【受賞など】

地学団体研究会京都支部研究奨励賞, 2015年3月8日, Nakano, S., Sawaki, T. and Sasaki, M. (2014) Microtexture and compositional variation of alkali feldspars from the Kakkonda granitic pluton, northeast Japan: Implications to the formation processes of granitic textures. *Journal of mineralogical and petrological sciences*, 109: 138-150.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

琵琶湖博物館はしかけグループ岩石調査隊, 指導補助, 2件.

他の博物館・機関等主催行事

2014年11月1日，周琵琶湖花崗岩団体研究グループ研究集会，琵琶湖博物館，運営.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石・鉱物試料・資料，搬入・整理.

他博物館・機関の活動

大津市埋蔵文化センター，真野北古墳調査，古墳石室石材の鑑定，3件.

館内の人事・館外の活動等に関すること

【館外の活動】

2014年度，産業技術総合研究所 地質調査総合センター，客員研究員.

2014年6月4日，滋賀レイカディア大学，「防災教育、減災教育について」，講師.

2014年7月16日，滋賀大学，「平和教育」分担タイトル「Fukushima」，非常勤講師.

印刷物

【一般向けの著作】

中野正俊 (2015) 活用型学力と学びの有用感を高める理科学習 (概要). 平成 26 年度滋賀県小学校教育研究会理科部会研究紀要, 滋賀県教育研究会理科部会 : 72-73.

中野正俊 (2015) 活用型学力と学びの有用感を高める理科学習. 平成 25 年度野洲市教育研究所教育研究奨励論文要旨集 : 1-3,

中野正俊 (2015) 豊かな学びを創造する理科・環境学習. 平成 26 年度東書教育賞優秀賞論文要旨集 : 51,

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野正俊 (2014 年 8 月 23 日) 防災・エネルギー教育を推進する博物館・学校・地域連携—小学校の教育課程に位置づけた具体的実践—. 日本理科教育学会全国大会発表論文集 (第 64 回大会), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「防災・エネルギー教育を推進する博物館・学校・地域連携モデルの構築と評価」 (研究代表者 : 中野正俊) , 研究代表者 (2012~2014 年度).

【受賞など】

平成 26 年度第 30 回東書教育賞 優秀賞, 2015 年 1 月 25 日, 豊かな学びを創造する理科・環境学習.

平成 26 年度滋賀県教育会教育研究 奨励賞, 2015 年 3 月 12 日, 活用型学力と学びの有用感を高める理科学習…若年教員の指導力向上をめざして….

印刷物

【一般向けの著作】

林 博通（2015）大津京と万葉歌－天智天皇と額田王の時代－. 新樹社, 東京 : 265p.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

条里制・古代都市研究会, 評議員.

博物館事業に関する業績

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

湖底遺跡調査, 資料整理.

印刷物

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

廣石伸互（2013）沿岸環境保全におけるモニタリング. *月刊海洋*, 45（10）, 海洋出版株式会社：449-450.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

廣石伸互（2014年10月30日）Characterization of a cyanobacteriolytic bacterium and its lytic mechanism.
The 16th International Conference on Harmful Algae, Wellington (New Zealand), [ポスター発表].

館内の人事・館外活動に関すること

【館外の活動】

2014年4月10日～7月24日, 白鳳女子短期大学, 「微生物学」, 非常勤講師.
2014年6月16日～9月2日, 公立若狭高等看護学院, 「病態論II」, 非常勤講師.
2014年8月26日, 福井県衛生環境研究センター調査研究等評価委員会.
2014年9月9日～9月20日, 福井県立大学, 「水域環境保全学」, 非常勤講師.
2014年10月3日, 日本水環境学会中部支部役員会, 三重教育文化会館.
2014年11月20日, ほろにがクラブ講演「植物プランクトン」, 京都センチュリーホテル.
2014年11月29日, 近江楽座10周年記念企画, 滋賀県立大学.
2015年2月7日, 沿岸環境関連学会連絡協議会運営委員会, 東京海洋大学.
2015年3月11日, 小浜市環境審議会, 小浜市役所.
2015年3月27日, 日本水産学会水産環境保全委員会, 東京水産大学.

印刷物

【一般向けの著作】

矢田直樹 (2014) おうみ歴史人物伝 塩売治兵衛, 京都新聞, 京都新聞社, 10月6日.

矢田直樹 (2015) おうみ歴史人物伝 犬王道阿弥, 京都新聞, 京都新聞社, 2月16日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

矢田直樹 (2014年12月20日) 研究会「無形民俗の映像による記録の作成について」. 民俗文化財映像研究会, 職員会館かもがわ (京都市), [企画・運営、司会].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 共同研究者 (2014年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2014年4月19日, 近江の祭りにみる祈りの心, 島根県立古代出雲歴史博物館・滋賀県教育委員会, 滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美「近江巡礼」祈りの至宝展記念事業 琵琶湖文化魅力発信プロジェクト近江水と大地の遺産魅力発信事業関連 講座「湖の国の文化財」, 島根県立古代出雲歴史博物館 (島根県出雲市), 講師.

2014年7月20日, 民俗からみた祈りー三十三年式年大祭を中心にー, 竜王町教育委員会, 地域の歴史と本に親しむ連続講座, 竜王町立図書館 (滋賀県), 講師.

2014年9月9日, 地域社会の変化と文化財保護ー民俗文化財を中心にー, 滋賀県, 平成26年度市町職員長期実地研修生等合同研修, 滋賀県庁 (滋賀県大津市), 講師.

2014年9月18日, 甲賀にお祭り大集合!! ~民俗文化財県民交流フォーラムからブロック民俗芸能大会滋賀大会へ~, 滋賀県教育委員会・滋賀県立琵琶湖文化館, 平成26年度 滋賀の文化財講座「打出のコジチ」, コラボしが21 (滋賀県大津市), 講師.

2014年12月6日, 水口曳山囃子の魅力、そしてこれから, 甲賀市伝統文化活性化実行委員会, 文化庁 平成26年度文化遺産を活かした地域活性化事業 水口曳山囃子の魅力、そしてこれから ~曳山を囃し、人を囃し、町を囃す~ 映像鑑賞とトークの会, 甲賀市碧水ホール (滋賀県), コーディネーター.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2013年~2014年度, 「学校にアートがやってきた」推進懇話会 (滋賀県文化振興課), 懇話会委員.

総合研究・共同研究による印刷物

- 藤野勇馬・金尾滋史 (2015) 中池見湿地で確認されたナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea eogea* Pilsbry, 1919について. 福井市自然史博物館研究報告, 61, 福井市自然史博物館: 71-72.
- Fujioka, Y. and Ueno, S. (2014) Genetic contribution of parents in sex determination of honmoroko *Gnathopogon caerulescens*, *Fisheries Science*, DOI 10.1007/s12562-014-0766-2.
- Fujioka, Y., Nemoto, M., Kikko, T. and Isoda, T. (2014) Sex ratios of nigorobuna *Crassius auratus grandoculis* reared in paddy fields with fluctuating temperatures during larval and juvenile growth stages. *Fisheries Science*, DOI 10.1007/s12562-014-0783-1.
- Fujioka, Y., Kido, Y., Uenishi, M., Yoshioka, M. and Kashiwagi, M. (2014) Distribution of *Cottus reinii* and *Cottus pollux* in rivers around Lake Biwa, central Japan. *Biogeography*, 16: 31-37.
- Fujioka, Y. and Saegusa, J. (2014) Sex ratios in relation to age and body size in “Honmoroko”, *Gnathopogon caerulescens*. *Ichthyological Research*, DOI 10.1007/s10228-014-0452-5.
- 藤岡康弘・楊 平 (2014) 湖との距離－水辺で暮らす知恵をどう伝えていくのか－. 魚米之郷－太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館: 64-65.
- 橋本道範 (2015) 日本中世の環境と村落, 思文閣出版: 450p.
- 保立道久 (2014) C・ギアーツの Involution と「近世化」. 岩波講座日本歴史月報, 13, 岩波書店, 東京: 1-8.
- Hu, X. and Kusuoka, Y. (2015) Two oxytrichids from the ancient Lake Biwa, Japan, with notes on morphogenesis of *Notohymena australis* (Ciliophora, Sporadotrichida). *Acta Protozoologica*, 54: 107-122.
- 亀田佳代子 (2014) 鷯の山のカワウ. *BIOSTORY (ビオストーリー)*, 21, 生き物文化誌学会: 88-89.
- 河瀬直幹・澤田弘行・吉田雅澄・八尋克郎 (2014) 滋賀トンボ調査グループの活動と現在までの成果. *Aeschna*, 50, 蜻蛉研究会: 27-31.
- 河瀬直幹・鎌田高行・田端 修・澤田弘行・吉田雅澄・井野勝行・遠藤真樹・白神慶太 (2014) 滋賀県におけるキイロヤマトンボ生息状況 (2011年～2013年の調査結果). *Aeschna*, 50, 蜻蛉研究会: 69-72.
- Kigoshi, T., Kumon, F., Hayashi, R., Kuriyama, M., Yamada, K. and Takemura, K. (2014) Climate changes for the past 52 ka clarified by total organic carbon concentrations and pollen composition in Lake Biwa, Japan. *Quaternary International*, 333, International Union for Quaternary Research と Elsevier: 2-12.
- 亀甲武志・岡本晴夫・氏家宗二・石崎大介・根本守仁・三枝 仁・甲斐嘉晃・藤岡康弘 (2014) 琵琶湖内湖の流入河川におけるホンモロコの産卵生態. *魚類学雑誌*, 61(1): 1-8.
- Kitajima, J., Matsuda, M., Mori, S., Kokita, T. and Watanabe, K. (2015) Population structure and cryptic replacement of local populations in the endangered bitterling *Acheilognathus cyanostigma*. *Ichthyological Research*, 62, 日本魚類学会と Springer: 122-130.
- Kikko, T., Ishizaki, D., Ninomiya, K., Kai, Y., and Fujioka, Y. (2014) Diel patterns of larval drift of honmoroko *Gnathopogon caerulescens* in an inlet of Ibanaike Lagoon, Lake Biwa, Japan. *Journal of Fish Biology*, DOI 10.1111/jfb.12570.
- Kikko, T., Usuki, T., Ishizaki, D., Kai, Y. and Fujioka, Y. (2014) Relationship of egg and hatchling size to incubation temperature in the multiple spawning fish *Gnathopogon caerulescens* (Honmoroko). *Environmental Biology of Fishes*, DOI 10.1007/s10641-014-0348-2.
- Nakajima, T., Shimura, H., Yamazaki, M., Fujioka, Y., Ura, K., Hara, A. and Shimizu, M. (2014) Lack of hormonal stimulation prevents the landlocked Biwa salmon (*Oncorhynchus masou* subspecies) from adapting to seawater. *Regulatory, Integrative and Comparative Physiology*, 307: 414-425.
- 大塚泰介・有田重彦・白川勝信 (2015) 八幡湿原の珪藻と水質. 高原の自然史, 16, 北広島町教育委員会・高原の自然館: 1-11.
- Olesen, J. and Grygier, M. J. (2014) Spinicaudata. In: Martin, J.W., Olesen, J. and Høeg, J.T. eds., *Atlas of Crustacean Larvae*, Johns Hopkins University Press, Baltimore: 51-57.

- 白神慶太・白神大輝 (2014) オオサカサナエの研究. *Gracile*, 74 : 43-44.
- 菅原和宏 (2014) 養殖技術講座—スレ対策—塩水浴による淡水魚のスレ対策. 月刊養殖ビジネス, 51(10) : 18-20.
- 戸田 孝 (2014) 博物館教員に関する全国調査. 科学教育研究, 38 (4), 日本科学教育学会 : 248-259.
- Tomikawa, K., Kobayashi, N., Kyono, M., Ishimaru, S. and Grygier, M. J. (2014) Description of a new species of *Sternomoera* (Crustacea: Amphipoda: Pontogeneiidae) from Japan, with an analysis of the phylogenetic relationships among the Japanese species based on the 28S rRNA gene. *Zoological Science*, 31 (7), 日本動物学会: 475-490.
- 富田啓介 (2014) 湧水湿地の保全・活用と地域社会. *E-journal GEO*, 9 (1), 日本地理学会 : 26-37.
- Watanabe, K., Mori, S., Tanaka, T., Kanagawa, N., Itai, T., Kitamura, J., Suzuki, N., Tominaga, K., Kakioka, R., Tabata, R., Abe, T., Tashiro, Y., Hashimoto, Y., Nakajima, J. and Onikura, N. (2014) Genetic population structure of *Hemigrammocyppris rasborella* (Cyprinidae) inferred from mtDNA sequences. *Ichthyological Research*, 61, 日本魚類学会と Springer: 352-360.
- YANG, P. (2014) Interpretation of river management in Lake Biwa Basin from the angle of living environmentalism. *WATER RESOURCES PROTECTION*, 1(31), Chinese Hydraulic Engineering Society: 16-21.
- 楊 平 (2014) 水辺の生活を通して共通の「リズム」探る. *湖国と文化*, 滋賀県文化振興事業団 : 79-81.
- 楊 平 (2014) 食用植物の利用に関する社会的アプローチ. 科研事業報告書 : 121-131.
- 楊 平 (2014) 暮らしが語る人と湖. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館 : 3.
- 楊 平 (2014) 水郷の暮らしと水文化. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館 : 26-29.
- 楊 平 (2014) 水とお茶. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館 : 28.
- 楊 平 (2014) 水辺の植物資源利用と工夫. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館 : 34-35.
- 楊 平 (2014) 家船漁民の暮らしと漁業. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館 : 38-40.
- 楊 平 (2014) 水田稲作から人と水辺との関係を読み解く. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館 : 55-57.
- 楊 平 (2014) 自然資源の力を生かした農耕. 魚米之郷—太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし, 琵琶湖博物館 : 58-61.
- 楊 平 (2014) 湖岸より 216 水が水郷の「リズム」育てる. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月9日.
- 楊 平 (2014) 湖岸より 217 水辺ならではの知恵. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月23日.
- 楊 平 (2014) 水を介した人々の暮らしと湖. *琵琶博だより*, 17, 琵琶湖博物館 : 1-2.
- 楊 平・細谷 葵 (2014) 湖岸より 218 水辺の植物資源利用と工夫. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月30日.
- ZHU, W., YANG, P. and GONG, M. (2014) Japan's multi-natural river regulation and its enlightenment to China. *WATER RESOURCES PROTECTION*, 1(31), Chinese Hydraulic Engineering Society: 22-29.
- ZHU, W., JIANG, M., CAI, M. and YANG, P. (2014) Advocate a "nature-friendly river" regulation model: reflection on the rural regulation in China. *WATER RESOURCES PROTECTION*, 1(31), Chinese Hydraulic Engineering Society: 1-7.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 内田明彦 (2012) 滋賀県におけるオオムラサキの分布変遷. *やどりが*, 232, 日本鱗翅学会 : 6-11.

*編集者注 : 著者の順番は、様々な分野で異なった様式があると思われるが、分野等は考慮せず、アルファベット順に並べた。

2014 年度の研究活動をふり返って

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、地域の人びととともに行う研究調査成果の公表10件、9機関連携研究の推進1件、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業20件が目標値であった。地域の人びととともに行う研究については、水田生物研究会などで研究成果を10件公表し、目標値を達成した。また、9機関連携研究の推進、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業についても目標値を達成した。科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規に5件が採択され、採択率29.4%であった。継続もあわせると13件が採択されており、この件数は都道府県市町村立博物館の中でもトップクラスである。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていく必要がある。

研究の発信は、学術論文34件、専門分野の著述56件、一般向けの著述38件、学会発表は64件であった。研究成果の発信数は論文数において昨年度の数字を上回った。次年度は、開館以来蓄積した琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果を活かして、C展示室、水族展示室の展示リニューアルを行うことが大きな目標となる。中日新聞連載コラム「湖岸より」などへの執筆を続けているが、今後も、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることを継続するとともに、その充実を図っていきたい。

また、本年度は昨年度の新琵琶湖学セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「研究の種—新琵琶湖博物館を創造する—」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、現在計画中の博物館リニューアルの中で、各展示室で新たにとりあげていく予定の研究=種について、最新の成果を交えて講義を行った。1月、2月、3月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行った。合計233名の参加があり、好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

研究部長 八尋克郎

琵琶湖博物館業績目録 第19号

2014年度

平成27年(2015年)8月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091
電話 077-568-4811(代)